

平成25年度  
(2013年度)

# 博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

# はじめに

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる、地域の中軸施設であることも求められています。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求に、より高い満足度をもってこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してまいりました。

博物館の教育普及活動は、首里の博物館時代から取り組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業を取り込むことを基本にして推進してきました。学校連携事業では、学校団体支援体制の強化を推進し、学校団体受入の充実を図るため、対応するボランティア向け研修を行うなどサービスの向上を図ってきました。また、今年度「出前授業等」実施要項を作成し、学芸員と教師が連携した授業を実施することができました。

文化講座及び展示会関連講座は「アメリカ軍基地と沖縄経済－歴史のなかで考える－」を皮切りに全12回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができました。その他にも、「カエルの解剖と骨格標本作り」をはじめとする2種の体験学習教室の開催と、常設展展示解説会12回、学芸員講座とバックヤードツアーをそれぞれ12回、夏休み企画として「博物館学芸員教室」を全9教室、開催してまいりました。

当博物館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様をとおして、沖縄の自然や歴史及び文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。そして、新しい時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的財産を創造していく博物館をめざしていきたいと考えております。

本年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成26年3月

沖縄県立博物館・美術館

館長 安里 進

# 博物館教育普及活動

## 目次

### はじめに

#### I 博物館活動について …… 1

- 1 はじめに
- 2 博物館活動（四つの車輪）  
調査活動 展示活動 教育普及活動  
保存管理
- 3 博物館の機能
- 4 博物館の施設
- 5 博物館教育普及活動の概要

#### II 学校連携 …… 7

- 学校団体受入要項  
先生方へのお願いと確認  
博物館を利用した学習（例）・プログラム例  
県内学校団体受入一覧  
博物館「出前授業等」実施要項  
「出前授業等」実施校

#### III 体験学習教室 …… 27

- 1 博物館体験学習実施要項  
体験学習教室 活動状況・資料

#### IV 博物館文化講座 …… 40

- 1 博物館文化講座実施要項
- 2 文化講座の実施状況

#### V 博物館学芸員講座 …… 50

- 1 博物館学芸員講座実施要項
- 2 学芸員講座の実施状況

#### VI 展示解説会 …… 60

- 1 博物館展示解説会実施要項
- 2 実施状況

#### VII バックヤードツアー …… 62

- 1 バックヤードツアー実施要項

#### VIII 夏休み！博物館学芸員教室 …… 63

- 1 夏休み！学芸員教室実施要項
- 2 実施状況

#### IX ふれあい体験室 …… 68

- 1 ふれあい体験室の概要
- 2 体験キットの種類
- 3 スタッフの配置状況
- 4 利用者状況
- 5 ふれあい体験室の取組み

#### X ボランティア養成事業 …… 73

- 1 沖縄県立博物館・美術館  
博物館ボランティア活動実施要項  
博物館ボランティア各種講座関連資料  
博物館ボランティア登録申請書  
ボランティア登録証交付式関連資料  
博物館ボランティアのてびき  
ボランティア通信

#### XI その他 …… 108

- 1 移動展
- 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
- 3 職場体験
- 4 けんぱくキット貸出
- 5 ボランティアによる展示ガイド
- 6 企画展付帯事業
- 7 常設展に関する取り組み
- 8 新聞・雑誌等掲載一覧
- 9 印刷物一覧

# I 博物館活動について

## 1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としています。それら車輪を機能させるために館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ・琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

## 2 博物館活動(四つの車輪)

### ◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

### ◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

### ◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連携協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「友の会」と連携したボランティア活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っています。

### ◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っています。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

## 3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけでなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどにいろいろな媒体を通して、県民の知的

財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

#### ◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

#### ◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展示会が開催されます。

#### ◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験をとおした学習を行う講座室等があります。

#### ◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、この学芸員研究室を中心に行われます。7分野の学芸員が共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。

#### ◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

## 4 博物館の施設

### (1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる-豊かさ、美しさ、平和を求めて-」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は、次の10のテーマによって、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年に亘る沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指します。

#### 自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに。島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができます。

## 考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができます。

## 美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

## 歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

## 民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統と暮らし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

## (2) 屋外展示

### 高倉

高倉は、穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

### 民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなります。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでいただいたの内覧も可能となっています。

### 湧田窯

湧田窯は17世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に、屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

## (3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、27種類の体験キットが準備されています。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

(詳細については「IX ふれあい体験室」を参照)

## (4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料の検索や、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。

## (5) 講堂・講座室等

### 講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212 席(車いす 2 人含む)を収容することができます。

### 講座室

100 名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生 150 名程度の集会が可能です。

### 実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40 名程度の収容が可能です。

## (6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベット数 1 台)

## (7) 駐車場

一般車両 140 台(身障者用 4 台含)、バス 10 台が駐車可能です。  
特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してあります。  
また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してあります。

## (8) コインロッカー

百円コインが返還される、無料のロッカーが 204 本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

## (9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の 2ヶ国語表示としています。

## (10) 環境への配慮

### 太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10kw 程度の太陽光発電装置を設置しています。

### 雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

### 夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

## 総合的有害虫管理（IPM）施設 IPM（Integrated Pest Management）

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理（IPM）を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいています。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしています。

## 5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取組みました。

### (1) 学校連携事業

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

今年度は、「博物館の見学のとびき」、「博物館が教室になる！（博学連携について）」、「見る・聞く・触る・匂う（貸出学習教材について）」を一冊にまとめた『博物館学校団体利用マニュアル』及び「出前授業等」実施要項を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布しました。

今後、県内外の多くの子どもたちに対し、博物館を利用した学習が幅広くおこなわれ、沖縄の自然、歴史、文化を伝え、学びの拠点になれるように一層の努力で取り組みます。

### (2) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、実演、現地研修、回によっては講演後には関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

### (3) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担いました。

### (4) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点から分かり易く解説しました。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会としました。

### (5) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会としました。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

### (6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

**(7) 夏休み！ 博物館学芸員教室**

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催しました。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供しました。

**(8) ボランティア養成講座**

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入しています。

平成 25 年度は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かなサービスの寄与を目的として、土・日・祝日のみ活動できる、ふれあい体験室専属ボランティアを募集し、養成講座をおこない 15 名のボランティア員の登録ができました。

**(9) その他**

**フリーパス**

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れています。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示すると、スタンプを押してもらうことができます。30 ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントします。

**移動展**

ふだん当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供しました。今年度は、渡名喜島で開催しました。

**教育普及資料貸出**

今年度は、博物館の教育普及資料の「骨スーツ」2 件、「ちむドンドン」1 件、「むかしむん」4 件「洗濯ゴシゴシ」1 件を貸出しました。

## II 学校連携

### 平成 25 年度 沖縄県立博物館・美術館—博物館利用学校団体受け入れ要項

#### 1 ねらい

- (1) 博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- (2) 博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- (3) 博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

#### 2 対象・受け入れ内容等

	対 象	学習領域	受け入れ内容 *内容は、学校と博物館が調整して決める。	見学方法
1	【県内】 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 (各学年)	各教科の学習や総合的な学習の時間など	展示資料を、郷土について知るための教材として活用し、博物館や沖縄を知るための教室として利用してもらう。	○自由見学 (下見打合せ/無) ○ボランティアサポート (下見打合せ/有) ○夏季課題学習(主に高等学校) (下見打合せ/有)
2	【県内】 小学校 (3年)	社会科「昔の道具を体験しよう」など	民具体験学習(博物館収蔵の民具を活用した体験学習を行う)	ボランティアサポート (下見打合せ/有)
3	県内の教職員 (全校種)	校内研修など	博物館利用解説やバックヤードツアー等	(下見打合せ/有)

#### 3 方法 (1)は館内情報センター(指定管理者) (2)は博物館(県担当学芸員)が対応します。

(1) 必要事項を別紙『団体受付申込』に記入の上、沖縄県立博物館・美術館内の情報センターにFAXで申込む。

※学習プログラム希望の場合は、11月末までに申込むこと。

※希望日の受け入れについては、先着順。

(2) 学習プログラム希望の場合について

※情報センターに『団体受付申込書』を提出後、博物館教育普及担当職員との下見の日程調整が必要です。

① 見学の2ヶ月前までに、当日引率する教師全員来館による、下見を行う。 \*博物館教育普及担当職員が対応。

② 見学の1カ月前までに、学習計画書を提出する。

<b>11月末までに</b> 『団体受付申込』の提出 *情報センターにFAXで申込	<b>見学の2ヶ月前までに</b> (~11月末) 下見 *博物館担当者対応 *引率教員全員参加	<b>見学の1ヶ月前までに</b> 学習計画プログラムの完成 *ボランティアへの支援 依頼開始	<b>来館当日</b>
---	---	--	-------------

夏季・秋季休業等を利用されることをおすすめします。

学年会、教科会として利用することも可。

(3) 自由見学の場合、下見の実施と学習計画書の提出は必要ありません。

#### 4 その他

下見の受け入れ 期間:4~11月末 時間:9:00~17:00 所要時間:1~2時間程度

問合せ先:

〒900-0006 那覇市おもろまち 3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

『団体受付申込書』の提出→【情報センター】 Tel 098-941-1187 Fax098-941-3530

下見・学習計画書の提出→【博物館班 教育普及担当(金城久枝)】

Tel 098-851-5401 Fax098-941-3650

## ●博物館を利用して学ぶ

### 1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室では、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることもできるでしょう。

### 2 学校が利用する場合

#### (1) 日程の調整

- ① 施設の予約・日程調整等は**情報センター**で行います。
- ② 施設の下見から学習内容の調整を、**博物館教育普及担当**とともに行います。
- ③ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（文化の杜共同企業体）が館の管理運営を行います。  
**観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応**します。

#### —指定管理者—

指定管理者とは「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法第244条の2）

博物館・美術館においては、文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

#### (2) 博物館下見、打合せ

##### 【下見の前半】情報センター円卓にて

- ① 来館日、来館時間、クラス(生徒)数、当日の日程、引率者など申請書の確認
- ② 博物館利用にあたってのマナー確認

##### ○観覧マナーについて

「**博物館での見学マナー**」を児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。 \*コピー可

- ③ **学習のねらい(めあて)の確認** (なぜ博物館を利用するのか?)
- ④ **学習の展開方法(学習形態等)の確認** (体験内容・学習方法・ボランティア活用・保護者協力など)
- ⑤ 筆記の際の支え(探検バッグ・ファイル)や持ち物(水筒・カメラなど)の確認
- ⑥ 博物館への**飲食物持込みは禁止**されています。(IPMの考え方により)

\*博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。

飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。

遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなど配慮をお願いします。

## —IPM( Integrated Pest Management )とは—

耕種的、生物的、科学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減滅させ、かつその低いレベルを維持させるための害虫個体群管理のシステムです。

### (3) 博物館を利用した授業の、学習計画を考えます

#### \* 授業の導入での活用、 展開で活用、 まとめて活用するのか？

- ・博物館からの情報提供をもとに、**学校主体で学習計画案を作成します。**
- ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
- ・**博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。**
- ・**保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。**
- ・ボランティア員への協力要請は、学習プログラム決定後に行います。

(ボランティア員に連絡を入れます。急な変更には対応できません。)

**☆引率の先生が校外で行う授業です。免許を持たないボランティアは授業を行えません。  
先生が、見学者やカメラマンにならないようにお願いします！**

## —ボランティア員—

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は①誘導ボランティア ②展示ガイドボランティア ③体験サポートボランティア があります。

### 博物館ボランティアによる支援

#### ① 誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

#### ② 展示ガイドボランティア

展示室における資料の解説は、ボランティアが行っており、解説ポイントをふまえ、学校側から依頼することができます。ただし、全ての要望には応じられないこともご了承下さい。

\*ワークシートの活用について（答え合わせの為の展示ガイドにならないようにお願いします）。

#### ③ 体験サポートボランティア

博物館での民具体験学習では、社会科の学習内容に対応した内容を推進しています。

体験内容には、運搬に関する体験、洗濯体験、着衣等の昔の暮らしの体験があります。

この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います（教員や保護者の引率者の参加協力をお願いします）。

### 【下見の後半】常設展示室、屋外体験実施場にて

- ・学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。  
〔トイレ、集合場所、展示室、実習室、講座室、屋外等〕

### 3 当日の学習プログラムの流れ

☆入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。

☆チケットは、主任の先生が「チケット売場」で、まとめて受取っておいて下さい（欠席分は引く）。

#### (1) オリエンテーション(児童向けのオリエンテーション約20分)=先生とボランティア員とのミーティング \*学習プログラムの確認、生徒の様子など申し送りなどを行います。

★博物館紹介（映像）—運営担当の職員（指定管理者）が行います。

ア マナーを含めた映像を準備しています。『みゅー爺』と『アム』というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示品の紹介を、掛け合い言葉により行います。

イ 本時の「ねらい」の確認

\*事前の下見調整において確認された内容の「めあて」を司会が読み上げます。

\*博物館での約束(マナー)を、児童・生徒と一っしょに声に出して読み合わせて確認をします。

ウ ボランティア紹介（当日の対応は指定管理者が行います）

\*当日の学習プログラムの、ボランティア員(誘導ボランティア員)を紹介します。

\*展示室や屋外(民具体験)では(展示ガイドボランティア/体験サポートボランティア)の紹介があります。

#### (2) 博物館において学習活動を展開する

- ・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように、博物館、指定管理者、ボランティア、教師、保護者が連携して、博物館での学習を支援します。（安心安全な学習環境、主体的な学習を展開）
- ・体験では、実物に触れることで、子どもたちに感動の場を提供します。

#### (3) 体験学習(観覧体験のサイクル)

- ・観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると屋外での体験を先に行うクラスと、館内での観覧学習を先に進めるクラスを設定しています。
- ・体験資料(用具)や解説場所の関係上、少人数のグループ編成をしていただきます。

#### (4) まとめ

- ・一日の観覧、体験が終了した際に、博物館のホールや屋外の広場でまとめを行っています。基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら進行します。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加します。

#### (5) 博物館における学習活動を、次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、わかったこと疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。

\*博物館には、情報センターがあり、学習内容の研究を行うことができます。

**発 展** ★生徒用フリーパスの活用を呼び掛けて下さい

## 4 学習プログラムの組み立てについて

### 学習プログラム・・・学校が団体に博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。  
⇒申し込みの際に、情報センターとの調整になります。
- (4) 学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状態の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間に活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) 先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。

## 5 ワークシートについて

- (1) 学習のねらいをはっきりとさせましょう！

\*本時のねらいは？ ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか？

\*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます

- (2) 「博物館学習ノート」を活用し、生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。
- (3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気に入ったものが記入できるようにしておくといいでしょう。1問につき回答時間はおよそ15~30分前後かかります。
- (4) ワークシートは記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中してしまいます。  
\*博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話聞くことが大切です。  
\*当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。



『アム』と『みゅー爺』

○小学校3年生社会科 「昔の道具を体験しよう」「きょうとしりょう館をたずねて」

- ・ 地域に残る古い道具について～ 知る・ふれる(感じる)・考える・調べる
- ・ 昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化)～ 考える、調べる

\* 児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる  
～引率の先生が(博物館で)行う授業です！

★博物館が提供できるメニュー

**オリエンテーションとA:映像の視聴**=(日本民藝館制作。昭和14年頃的那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

\* 博物館利用のオリエンテーションと合わせて 20分間

\* 先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行いません。

\* 70年程前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

**B:民具解説** (民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

**C:民具体験**

\* ペアで行動。グループ単位で、ローテーションで体験学習をする

1) 運搬に関する道具＝ バーキ↓

(魚や作物の  
運搬等で使用)



ガンシナ↓



ティール↓



2) 運搬に関する道具＝ オーダー↓

(薪の運搬等で使用)



担ぎ棒→  
2)3)で使用

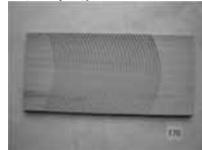
3) 運搬に関する道具＝ ターグ →

(井戸水の運搬で使用)

4) 洗濯に関する道具＝ ターレー↓



洗濯板↓



5) 着衣に関する道具＝ アダン葉サバ↓

(畑仕事等で使用)



クバンヌー↓



クバガサ↓



**D:民俗展示室での展示品解説** ①畑の道具 ②田んぼの道具 ③海の道具 ④台所周辺道具 →2か所選択

\* 1か所およそ7分×2か所+移動=15分間



## 民具体験学習のポイント〈子どもからの視点〉



**A**映像解説

昔の沖縄の風景を観る・昔の人を観る

…映像を流しっぱなしにするのではなく、見せたい箇所で発問します！

**B**民具解説

民具にふれる・素材を考える・先人の技を考える

…体験する民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

**C**民具体験

道具(民具)にふれる 感じる・使い方を考える・使ってみる

…体験する民具の名前や使用方法を覚えるのが目的ではありません！

**D**民俗展示品解説

昔の道具を観る・使用方法を考える

今の生活との違いを考える・知る

…単なる民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

**A・B**は指定管理者が **C・D**はボランティアが 担当します。

発問によって子どもに考えさせる—子どもの興味を引き付けるようにします。

\***Cの着衣体験**に、保護者の参加をお願いします。

**誘導ボランティアさんの 役目** 1クラスに1~2名配置します。

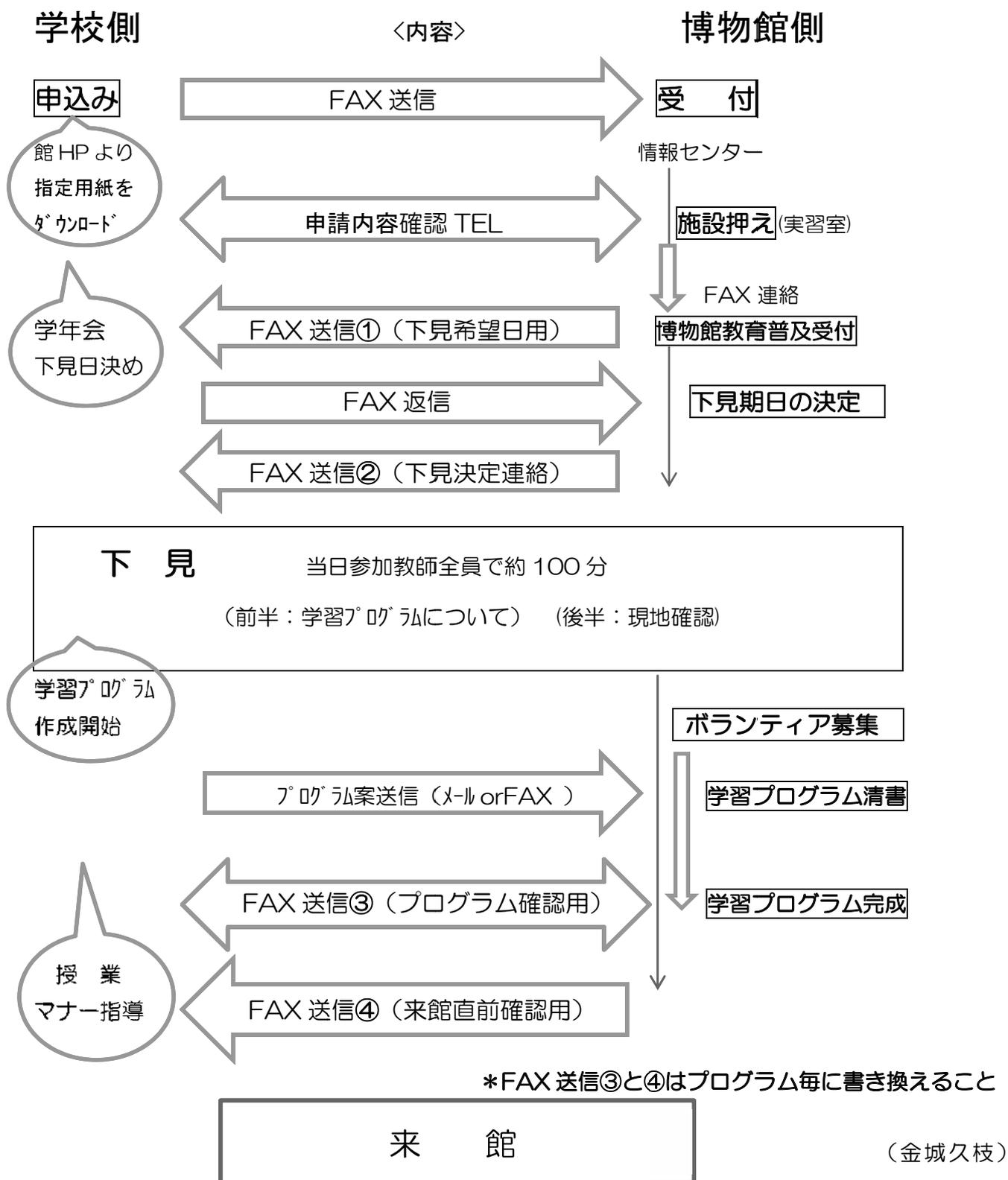
全体(流れ)を観る 時間を把握する

時間どおりに進める・時間調整をする

先生と連携する—相談し提案もする

子どもの安全を図る！

# 学校団体受入のキャッチボール (博物館を活用した授業)



博物館を利用した学習（例）

時	内容	教師	博物館	児童生徒
	オリエンテーション(実習室にて)	児童着席指示	職員ありさつ	トイレをすませ入室
	マナー&施設案内映像放映	※児童映像視聴時に担任と誘導ボランティアの順合せ	観覧順等確認	施設利用の学習
	本時の目標の確認		博物館学習の目標	めあての確認
	ボランティア紹介(誘導)	学級担任のリード	誘導ボランティア紹介(誘導ボランティアは、担任と連携した動きを行う)	出発準備
	【学級別観覧】			
	1組	授業の進行(ボランティアを活用した授業展開)	「オリエンテーション」A、Bの解説は文化の杜が行う。	【博物館学習】 ・体験(ふれる) ・聴講(知る・考 える)
	2組		観覧順序に合わせ	・聴講(知る・考 える)
	3組		て誘導(誘導ボランティアは、タイムキーパー)	・観覧(調べる) ・メモ(記録)
	選択する民具体験 □1)運搬に関する道具(魚など) □2)運搬に関する道具(薪など) □3)運搬に関する道具(水) □4)洗濯に関する道具 □5)着衣に関する道具(和仕事)	ワークシートの有無(学習内容に合わせたワークシートの準備)-博物館学習ノート参照- 有・無	・展示物解説はボランティアが行う(教師の進行に合わせてガイド、質問への回答)	※教師やガイドに従ってすみやかに
	ボランティアの配置			
	A画像解説 B民具解説 C民具体験 D展示物解説 ☆誘導ボランティア	文化の杜対応 (名) (名) (名)		
	まとめ：感想・お礼の挨拶(全体)	・司会進行(学校対応)		・整列 ・あいさつ

社会科 ～博物館を利用した学習～

市立 小学校 学年 小学 児童 名

2013/ ( ) :00～ :00

教師 名・NPA- 名・保護者 名

Aオリエンテーション:実習室にて  
B民具解説:実習室にて  
C民具体験:屋外(民家周辺)にて  
D展示物解説:民俗部門展示室にて

1 単元名

2 単元目標

3 本時の指導目標

4 目標行動(本時のねらい)

5 博物館学習のポイント

①  
②  
③  
④  
⑤



## プログラム例

### ■ 1クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時			
9:30	50	5	10	30	40	15	20	30	
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具解説 (実習室)	移動	D 展示物解説 ( )・台所	質問タイム トイ(移動・水 レ関)休	C 民具体験 1・2・5・4・3		移動	まとめ・お礼 (実習室)

9時		10時				11時					
9:30	50	5	10	25	30	45	55	25	30	40	
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具解説 (実習室)	移動	D 展示物解説 ( )・台所	移動	〇〇タイム	トイ(移動・水 レ関)休	C 民具体験 1・2・5・4・3		移動	まとめ・お礼 (実習室)

### ■ 2クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時				
9:30	50	55		35	45	5	20	25	35	
1組	Aオリエンテーション 画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・2・5・4・3		トイ(移動・水 レ関)休	D 展示物解説 ( )・台所	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ お礼 (実習室)
2組		移動	D 展示物解説 ( )・台所	トイ(移動・水 レ関)休	B 民具解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・2・5・4・3		移動	まとめ お礼 (実習室)



平成 24 年度 県内学校団体受入一覧

〔学習プログラム対応校〕

	学校名	月	日	曜日	観覧時間	学年	クラス	生徒数	保護者数	ボランティア数
1	阿波連小学校	6月	4日	(火)	13:00-15:00	小3	1	2	0	5
2	粟国小学校	10月	18日	(金)	14:00-16:30	小3・4	1	13	0	13
3	座安小学校		30日	(水)	9:30-11:35	小3	2	67	8	18
4	兼城小学校		31日	(木)	9:30-11:35	小3	3	106	0	14
5	光洋小学校	11月	7日	(木)	9:30-12:00	小3	3	78	10	13
6	豊崎小学校		12日	(火)	9:30-11:45	小3	4	109	4	10
7	東風平小学校		13日	(水)	9:30-12:00	小3	5	165	14	20
8	小禄南小学校		14日	(木)	9:30-11:35	小3	4	127	13	14
9	与那原小学校		20日	(水)	9:30-11:55	小3	4	129	9	17
10	玉城小学校		27日	(水)	9:30-12:00	小3	3	71	0	16
11	あげな小学校		12月	11日	(水)	10:00-12:00	小4	2	62	0
12	古蔵小学校 A	2014年 1月	8日	(水)	9:30-11:35	小3	2	58	0	15
13	古蔵小学校 B		9日	(木)	9:30-11:35	小3	3	86	0	11
14	識名小学校		10日	(金)	9:30-11:35	小3	5	148	15	16
15	内間小学校		21日	(火)	9:30-12:00	小3	3	96	10	10
16	石嶺小学校 A		24日	(金)	9:30-12:00	小3	2	64	0	13
17	石嶺小学校 B		28日	(火)	9:30-12:00	小3	2	65	0	14
18	松島小学校		29日	(水)	9:30-12:00	小3	4	121	3	16
19	安謝小学校		31日	(金)	9:30-11:35	小3	3	85	7	12
20	北谷小学校		2月	4日	(火)	9:30-11:35	小3	3	85	6
21	上田小学校 A	5日		(水)	9:30-12:00	小3	3	95	12	15
22	上田小学校 B	6日		(木)	9:30-12:00	小3	3	96	10	11
23	城岳小学校	7日		(金)	9:30-12:00	小3	3	87	15	10
24	若狭小学校	12日		(水)	9:30-11:35	小3	2	51	8	10
25	上間小学校	13日		(木)	9:30-11:35	小3	4	121	8	14
26	具志頭小学校	14日		(金)	9:30-11:30	小3	2	50	0	12
27	前島小学校	19日		(水)	9:30-11:30	小3	2	53	12	13
28	宮城小学校	21日		(金)	9:30-11:35	小3	4	138	12	15
29	曙小学校	25日		(火)	9:30-11:30	小3	2	58	12	8
30	銘苧小学校	26日		(水)	9:30-11:30	小3	4	125	8	12
31	小禄小学校	27日		(木)	9:30-11:30	小3	3	83	9	10
32	港川小学校	28日		(金)	9:30-11:35	小3	5	149	11	15
33	城東小学校	3月		4日	(火)	9:30-11:35	小3	4	121	0
34	真嘉比小学校		6日	(木)	9:30-11:30	小3	2	62	5	9

〔解説補助対応校〕

	学校名	月	日	曜日	時間	種類	対象	人数
1	琉球大学生活科教育研究	6月	8日	(土)	9:00-18:00	博物館実習	学生	45名
2	琉球大学理学部地学系	6月	15日	(土)	10:00-12:00	バックヤードツアー	学生	17名(内引率2名)
3	地学の集い	7月	6日	(土)	10:30-12:00	バックヤードツアー	一般	13名
4	南風原高等学校	8月	13日	(火)	10:00-11:30	職員研修	職員	8名
5	沖縄工業高等専門学校	10月	20日	(日)	14:00-15:00	バックヤードツアー	学生	4名(内引率2名)
6	名古屋大学教育学部附属高等学校	11月	14日	(木)	13:00-14:00	展示室解説	学生	14名
7	京都造形芸術大学	11月	22日	(金)	9:00-11:00	見学対応	学生	20名
8	〃	12月	3日	(火)	9:00-11:00	〃	学生	20名
9	大名児童館 三線クラブわらびなー	2014年 3月	26日	(水)	14:00-15:00	企画展展示解説	児童	21名(内引率3名)

# 平成25年度 博物館「出前授業等」実施要項

## 1 趣 旨

博物館のもつ資源（もの、情報）を出前授業等を通じて学校教育の場で有効に活用する。

## 2 内 容

- (1) 学校での授業や教員の研修会などに学芸員を講師として派遣する。
- (2) 授業では、ティーム・ティーチングの手法により、学芸員は教員と共同し、博物館資料を活用するなどして児童・生徒の学習を支援する。

## 3 対 象

県内公立学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）  
※クラス単位もしくは学年単位

## 4 実施時間

1～2時間程度（調整可）

## 5 実施場所

当該校

## 6 申し込み方法

※別紙参照

## 7 その他

各学校から依頼の「出前授業等」に係る学芸員の派遣旅費（交通費）は、博物館で負担する。

# 出前授業等の申込み方法と連絡先

## ○申込み方法

希望日の2ヶ月前までに、  
教育普及担当者へ電話で申し込む

TEL 098-851-5401



電話、メール等で期日や申込み内容の調整



希望日の1ヶ月前までに、  
出前授業依頼書または講師派遣依頼書を提出

(Fax、E-mailも可)

## ○連絡先

沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

TEL 098-851-5401 FAX 098-941-3650

E-mail kinjohse@pref.okinawa.lg.jp

教育普及担当：金城久枝

※事業等の関係からご希望の日時に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

# 学 芸 員 紹 介

所属	担当分野		氏 名
博 物 館 班	自 然 史	生 物	山 崎 仁 也
		地 学	仲 里 健
		人 類	山 崎 真 治
		人 類	藤 田 祐 樹
	美 術 ・ 工 芸	書 跡 ・ 彫 刻 ・ 染 織	與 那 嶺 一 子
		絵 画 ・ 漆 器 ・ 陶 器	園 原 謙
	歴 史	近 現 代	岸 本 弘 人
		近 世 ・ 古 琉 球	崎 原 恭 子
	考 古		片 桐 千 亜 紀
	民 俗		大 湾 ゆ かり

○ 沖縄県の自然、歴史、文化をはじめ、上記内容について、学芸員が博物館のもつ資源（もの、情報）を活用し、児童・生徒の学習を支援します。

# 出前授業依頼書

沖縄県立博物館・美術館長 殿

学校名

校長

印

次の授業のため、講師の派遣をお願いします。

授業の種類	出前授業（校内・校外）
希望する講師	
日時	平成 年 月 日（曜日） 時 分 ～ 時 分（校時）
場所	
学年	第 学年
児童・生徒数	名
教科名・領域名	
単元名	
学習目標 (ねらい)	(1)  (2)  (3)
担当者	学校住所 〒  TEL Fax 担当教員名 [ ] 連絡先（携帯電話等） [ ]
その他	☆ご質問等があればお書き下さい。



## 平成 25 年度「出前授業等」実施校

- (1) 琉大付属小学校 . . . . 7月実施
- (2) 向陽高等学校 . . . . 10月実施
- (3) 那覇国際高校 (JICA 協力事業) . . . . 10月実施
- (4) 寄宮中学校 (JICA 協力事業) . . . . 10月実施
- (5) 嘉手納小学校 . . . . 11月実施

- (6) 渡名喜小学校 . . . . 11月実施
- (7) 渡名喜中学校 . . . . 11月実施
- (8) 北大東小学校 . . . . 2月実施
- (9) 北大東中学校 . . . . 2月実施



(1) 琉大付属小学校 授業の様子



(2) 向陽高等学校 授業の様子



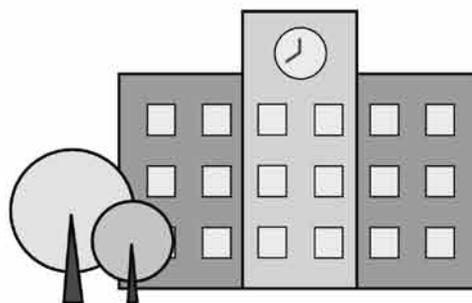
(3) 那覇国際高校 (JICA 協力事業)  
. . . . 授業の様子



(4) 寄宮中学校 (JICA 協力事業)  
. . . . 授業の様子



(5) 嘉手納小学校 授業の様子





(6) 渡名喜小学校 授業の様子



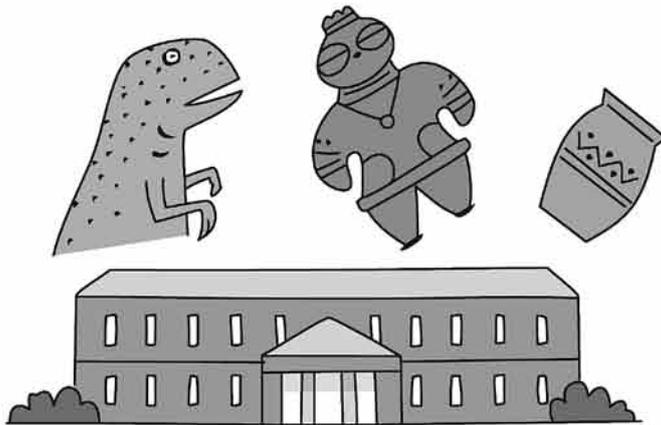
(7) 渡名喜中学校 授業の様子



(8) 北大東小学校 授業の様子



(9) 北大東中学校 授業の様子



### Ⅲ 体験学習教室

#### 1 博物館体験学習教室実施要項

##### (1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動を行うことによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

##### (2) 内容

博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

回	期日	題	講師名	内容	参加者
1	H25年 ①7月20日(土) [9:30~17:00] ②7月24日(水) [11:00~12:00]	カエルの解剖と骨格標本作り!	佐藤寛之氏	2日間の日程で、カエルの解剖と骨格標本作りを実施。1日目にカエルの解剖を行い、2日目に骨格の組み立てを行った。	20名
2	H26年 ①2月1日(土) [13:15~16:30] ②2月2日(日) [10:00~13:00]	筒描き紅型に挑戦!	城間栄市氏	2日間の日程で、筒描きによる紅型作品を制作。1日目に図柄のデザインと筒描き、2日目に色差し・地染め・色止めをおこなった。	15名

##### (3) 実施日と場所

企画展や特別展、行事、博物館の展示等に関連したテーマに合わせて年間2回程度の実施。午前9時~12時までの3時間を基本とし、内容によって終了時間の調整(昼食時間を設ける等)を行った。場所は、基本として実習室。

##### (4) 受講方法

※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

(公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選)

※抽選の場合、当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

##### (5) 体験学習に係る役割

i 前日まで

①	事業起案及び講師依頼	博物館(教育普及担当)
②	マスコミ各社への取材依頼	指定管理者
③	受講生受け付け	指定管理者
④	講師事前打ち合わせ	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	説明資料作成	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑥	材料・道具等の諸準備	博物館(教育普及担当)、指定管理者、講師
⑦	ボランティア事前学習・準備作業調整	博物館(教育普及担当)、指定管理者

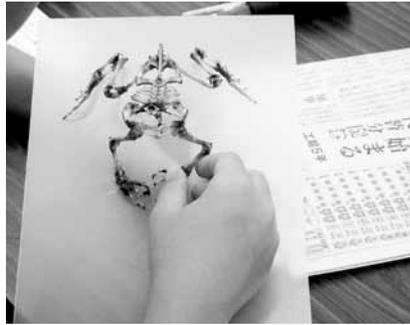
ii 当日運営

①	受け付け及び材料費の徴収	指定管理者
②	開講式 司会	指定管理者
③	講師紹介	博物館(教育普及担当)
④	講座の進行	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	材料等の準備及び配布	博物館(教育普及担当)、指定管理者、ボランティア
⑥	記念撮影	指定管理者
⑦	報償費支払い事務	指定管理者

☆カエルの解剖と骨格標本作り！



オオヒキガエルの解剖の様子



骨格標本の作製



完成したカエルの骨格標本を展示

☆筒描き紅型に挑戦！



下絵を描いた後に筒描き



色差しの様子



1週間後に仕上げの水洗い

博物館特別展「海・山・川のおくりもの〜自からワロコの大生き物展〜生物多様性ホットスポット JAPAN」【7/12(金)〜9/11(日)】  
<http://www.museum.pref.okinawa.jp/>

おきなわのりつぱくびつぱん びじゅつかん  
**沖縄県立博物館・美術館**  
 びじゅつかん びじゅつかん びじゅつかん  
**平成25年度 博物館体験教室**

連続講座 **7月**  
**20日(土)**  
 9:30〜17:00(受付9:15) ※休憩1時間  
**24日(水)**  
 11:00〜12:00(受付10:45)

対象：小学校4年生から中学校3年生まで20名  
 ※2回の講座に参加できる方が対象となります。  
 ※予約がなくなり次第締め切ります。お申し込みは先着順です。  
 ※小学生のみの参加はできません。ご了承ください。  
 ※参加費の都合上、お申し込みの人数に限りがあります。  
 ※大人の方の参加は、定員に達しない場合、ご参加いただけます。  
 ※定員に達しない場合は、抽選の上、参加いただける方のみ7/15(月)までにメールでご連絡いたします。

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室  
 参加方法：事前申込制(電話もしくは電話)  
 受付期間：7/3(水)〜7/10(水)まで  
 ※応募者多数の場合、抽選の上、参加いただける方のみ7/15(月)までにメールでご連絡いたします。

参加費：1組につき200円  
 さとう ひろゆき  
 講師：佐藤 寛之氏  
 (沖縄国際大学非常勤講師)

<内容・日程>  
 午前 解剖  
 今回の講座に用いられる「オオヒキガエル」は、サトウキビを害虫から守るために、八重山地方に持ち込まれましたが、強い繁殖力と食欲と毒で、もともと生息している生き物が減ってしまいました。現在は駆除などの取り組みがおこなわれている一方で、実験にも活かされているカエルです。  
 講師の佐藤先生は言っています。「生物に共通する体は、骨の形に意味があるんだ。骨の出っ張りには筋肉がついていて、あやうり人形のような仕組みになっているんだよ。生き物に触れ、その仕組みを知るための骨格標本作って、もっともっと生き物を好きになってほしいな」  
 さあ、博物館で体験してみよう！

午後 骨格標本  
 ヒョウタン型で紙か麻の袋などを用意して、骨だけにしておきましょう。  
 骨格標本  
 ヒョウタン型で紙か麻の袋などを用意して、骨だけにしておきましょう。

博物館に展示しよう！  
 最後の仕上げをして、みんなで作った骨格標本を展示します。  
 (展示期間)  
 7/24(水)〜8/23(金)

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL 098-941-8200  
 開館時間：9時〜18時(金・土は20時まで)  
 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)、館内清掃期間 6/24(月)〜7/2(火) 担当：わたべ

おきなわのりつぱくびつぱん びじゅつかん  
**沖縄県立博物館・美術館**  
 びじゅつかん びじゅつかん びじゅつかん  
**平成25年度 博物館体験教室**

つがぎ びんがた びんがた  
**筒描き紅型に挑戦!**

紅型ができるまでの工程やものづくりの楽しさを体験します。  
 講師に紅型作家として活躍中の城間栄市氏をお迎えし「筒描き」という技法を使い、麻布を紅型で染めます。  
 染めた作品は、お持ち帰りいただけます。

講師：城間 栄市氏(紅型作家)  
 1978年生まれ、那覇市立那覇小学校、那覇市立那覇中学校、那覇市立那覇高等学校卒業。  
 2006年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2010年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2012年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2013年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2014年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2015年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2016年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2017年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2018年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2019年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2020年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2021年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2022年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2023年 那覇市立那覇高等学校 卒業  
 2024年 那覇市立那覇高等学校 卒業

2回連続講座  
**1日目** **2/1(土)** 筒描き  
 13:15〜16:30  
**2日目** **2/2(日)** 色差し  
 10:00〜13:00  
**受取り** **2/9(日)** 糊落し  
 11:00〜12:00

参加費 **1,000円/1名**  
 対象 **小学校4年生〜中学校3年生まで**  
**15名**  
 会場 **当館 博物館実習室**

お申し込みは…  
 申込期間：1/15(水)〜1/21(火)  
 申込方法：事前申込制【TEL・来館】  
 ※応募者多数の場合は、抽選。  
 ※参加していただける方のみ1/27(月)までにハガキでご連絡します。

君ならどんなデザインにするかな？  
 「つつがき」とは・・・  
 ホイップクリームを絞る袋によく似た、「筒」と呼ばれる糊袋の先から糊を押し出し、手で描きます。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 TEL 098-941-8200  
 開館時間：9時〜18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日・年末12/29〜31休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

平成25年度 第1回講座  
博物館体験学習教室

# 『カエルの解剖と骨格標本作り！』



期日 平成25年7月20日(土) 9:30～17:00  
時間 7月24日(土) 11:00～12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

7月 20日 (土)	受け付け	09:15	～	09:30
	開講式	09:30	～	09:35
	講座(実習)《解剖》	09:35	～	16:15
	後片付け	16:15	～	16:35
	閉講式	16:35	～	17:00

※昼食～各自館外にて 13:00～14:00

7月 24日 (水)	講座(実習)《標本作製》	11:00	～	12:00
------------------	--------------	-------	---	-------

博物館 体験学習教室  
「カエルの解剖と骨格標本作り！」実施計画

2013.6.5 教育普及

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日時

平成 25 年 7 月 20 日(土) 9:30～17:00  
7 月 24 日(水) 11:00～12:00

3 対象者

小学校4学年～中学生

4 募集人員

20名

5 場所

博物館実習室

6 日程

7月20日(土)

受付 9:15～9:30

開講式 <実習室> 9:30～9:35

始めの言葉……司会 (文化の杜:渡部)

講師紹介……教育普及担当 (金城)

講座 <実習室>

《 解剖についての説明・オオヒキガエル解剖 》 9:35～11:00

《 標本作成 》 11:00～16:30

↓

お昼時間 12:00～13:00

《 標本作成 》 ～16:30

後片づけ・連絡等 16:30～17:00

7月24日(水)

受付 10:45～11:00

講座 <実習室>

《 標本作成 完成、展示 》 11:00～12:00

7 講師

佐藤寛之 (沖縄国際大学非常勤講師)

山崎仁也 (沖縄県立博物館・美術館:生物担当学芸員)

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ① 事業起案及び講師依頼   | 山崎・金城          |
| ② マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜           |
| ③ 受講生受け付け      | 文化の杜           |
| ④ 講師打ち合わせ      | 山崎・金城・渡部・大濱・久田 |
| ⑤ 説明資料作成       | 山崎、佐藤          |
| ⑥ 報償費支払い事務     | 文化の杜           |
| ⑦ 材料・用具等の諸準備   | 文化の杜 博物館ボランティア |

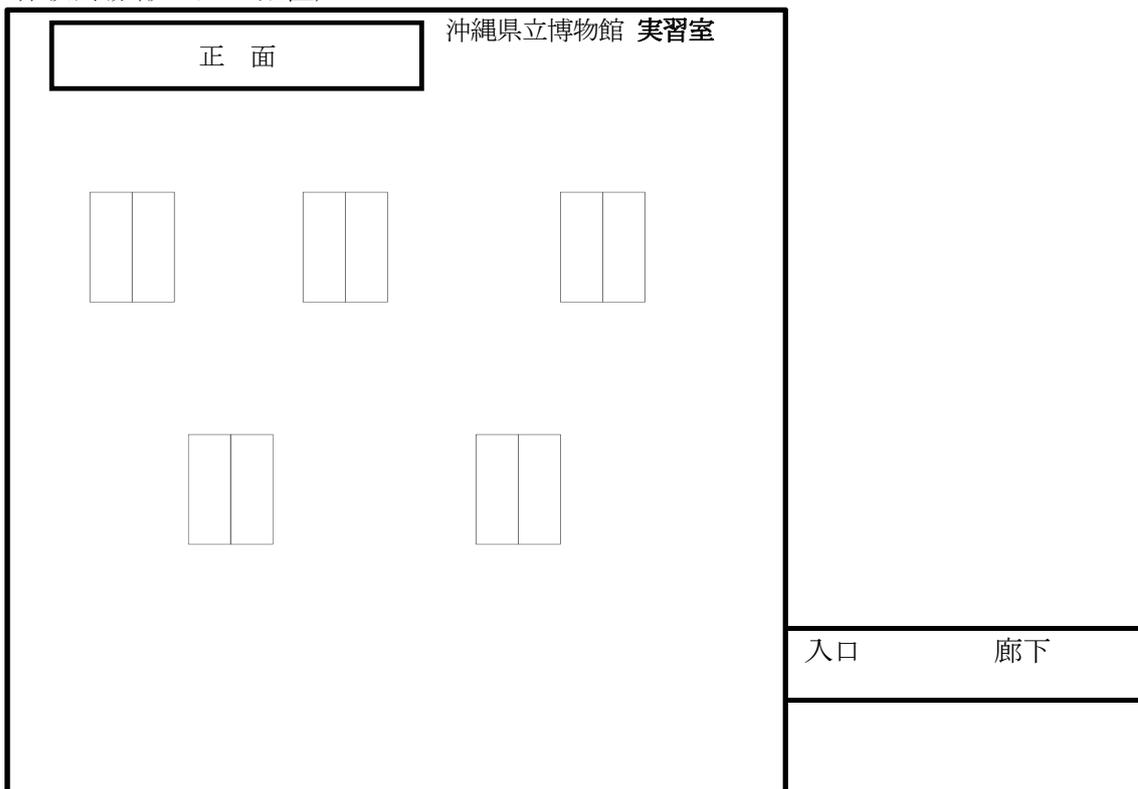
(2)当日の役割分担

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収      | 渡部        |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 |           |
| 司会                  | 渡部        |
| 講師紹介                | 金城        |
| ③ 講座の進行             | 渡部        |
| ④ 材料等の準備及び配布        | 博物館ボランティア |
| ⑤ 記念撮影              | 文化の杜      |

9 準備するもの(材料・用具等)

- ◎必要な材料・用具
- 館側が準備するもの ……別紙あり(渡部作成)
  - 受講生が準備するもの
    - ・材料費 1人( 200 )円

10 体験会場(机・イスの配置)



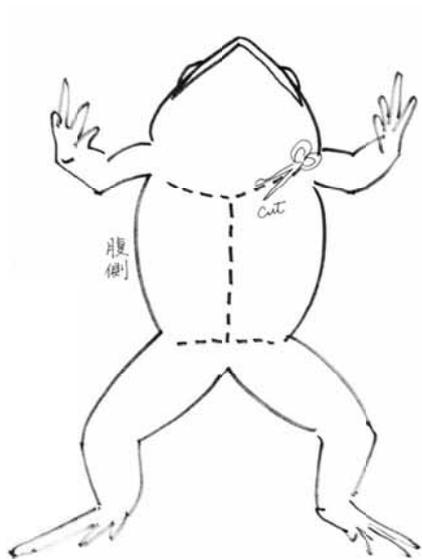
## カエルの解剖と骨格標本づくり

### 【解剖】

講師：山崎 仁也（当館生物担当学芸員）

(1) 材料 オオヒキガエル：南北アメリカ大陸の中央、熱帯雨林に生息する大型のカエル。耳腺から、白い毒を出す。今回使用する資料は、石垣島で駆除したものを送っていただいた。

(2) 解剖の手順



- ① 大きさを測る。(結果を下の表に記録)
- ② 図の腹部の点線位置を目安に、解剖ばさみで切り開く。切り始めは皮をひっぱり、ハサミの先で“ちょん”と穴を開ける。穴が開いたら皮をひっぱりながらハサミを入れるとやりやすい。
- ③ 内部形態をスケッチする。カメラをもっている人は撮影する。
- ④ 胃の上下を切って取り外し、切り開いてその内容を、水を張った容器に出す。
- ⑤ 解剖してわかったことや考えたことを、メモしておく。

カエルの解剖 各部位測定値記録表

性別	オス メス	
	頭胴長	
頭幅		cm
体重		g
卵の有無	有	無
胃内容		

《考えたこと》

## 【骨格標本づくり】

講師：佐藤 寛之（博士（理学））

### （1）骨格標本とは？

骨格標本とは動物を骨格だけの状態にして保存した標本。生き物の体の動きを決める骨格をじっくり観察する事が出来るのが特徴。

### （2）手順

#### ① 準備

- ・バット 数枚
- ・真鍮針金 細いやつ
- ・ディスポ手袋
- ・ミョウバン ホウ酸 塩 ビニール袋（なめし革用）
- ・ポリデント T型広口瓶 2L（筋肉除去処理用）
- ・エタノール 70%

#### ② 皮を剥ぐ、内蔵を除去する

#### ③ 剥いだ革をなめす

#### ④ 筋肉を出来るだけ取り除く

#### ⑤ 頭部を熱湯で煮て頭の皮を剥がす

#### ⑥※ポリデントにつけて放置→ 数日後に水洗、除肉（繰り返す） （今回は省略します）

#### ⑦ 形を整えて乾燥 防腐処理 表面をコーティングして汚 れの再付着防止、虫による食 害の防止、においの軽減を行 なう。

#### ⑧ 頭と胴を接着剤で接続する。

#### ⑨ ラベルを付けて完成



### 《諸連絡》

○最後の仕上げは7/24(水) 11:00~12:00 に行います。(実習室集合 10:45)

○標本をのぞきケースに入れ、博物館ホワイエに展示します。

○8/23(金)に標本をお返しします。16:00に取りに来てください。

この日都合が悪い人は電話連絡の上、随時取りに来てください。

TEL 098-851-5401 (山崎まで)

持ち帰らない場合は、博物館でいただきます。

平成25年度

博物館体験学習教室

第2回講座

『紅型にチャレンジ！』



期日 平成26年2月1日(土) 13:15 ~ 16:30  
時間 2月2日(日) 10:00 ~ 13:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

2月 1日 (土)	受け付け	13:00	~	13:15
	開講式	13:15	~	13:30
	講座(実習)	13:30	~	16:15
	片づけ・諸連絡		~	16:30
2月 2日 (日)	講座(実習)《色差し》	10:00	~	12:30
	後片付け		~	12:45
	閉講式	12:45	~	13:00

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日時

平成 26 年 2 月 1 日(土) 13:15～16:30

2 月 2 日(日) 10:00～13:00

3 対象者

小学校4学年～中学生

4 募集人員

(15)名

5 場所

博物館実習室

6 日程

2月1日 (土)	用具等搬入、全体打合せ(講師、ボランティア)	11:00	～	
	1日(土)受付	13:00	～	13:15
	開講式 <実習室>	13:15	～	13:30
	始めの言葉……司会(文化の杜:渡部)			
	講師紹介……教育普及担当(金城)			
	講座 <実習室>			
	《 紅型とは 》 講師による解説	13:30	～	13:45
	《 下絵描き 》	13:45	～	15:00
	《 筒描き 》	15:15	～	16:15
	後片づけ・連絡等(2/2)の糊落とし		～	16:30
2月2日 (日)	2日(日) 講師、ボランティア集合時間	9:00		
	受付	9:45	～	10:00
	《 色差し・地染め・色止め 》	10:00	～	12:30
	後片づけ		～	12:45
	閉講式	12:45	～	13:00
	始めの言葉……司会(文化の杜:渡部)			
	講師によるまとめ……講評			
	記念撮影			
	終わりの言葉……司会			
2月9日 (日)	1週間後2/9(日) 水洗い・乾燥～各自持ち帰り *当日 10:00 頃、桶の水に作品を漬けておく、(11:00～12:00)までの時間に、受講者各自が作品を受け取りに来る。受講者の対応は文化の杜が行う。			

7 講師  
城間 栄市 (紅型作家)

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ①事業起案及び講師依頼   | 與那嶺・金城         |
| ②マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜           |
| ③受講生受け付け      | 文化の杜           |
| ④講師打ち合わせ      | 與那嶺・金城・渡部      |
| ⑤説明資料作成       | 與那嶺・金城・渡部      |
| ⑥報償費支払い事務     | 文化の杜           |
| ⑦材料・用具等の諸準備   | 文化の杜 博物館ボランティア |

(2)当日の役割分担

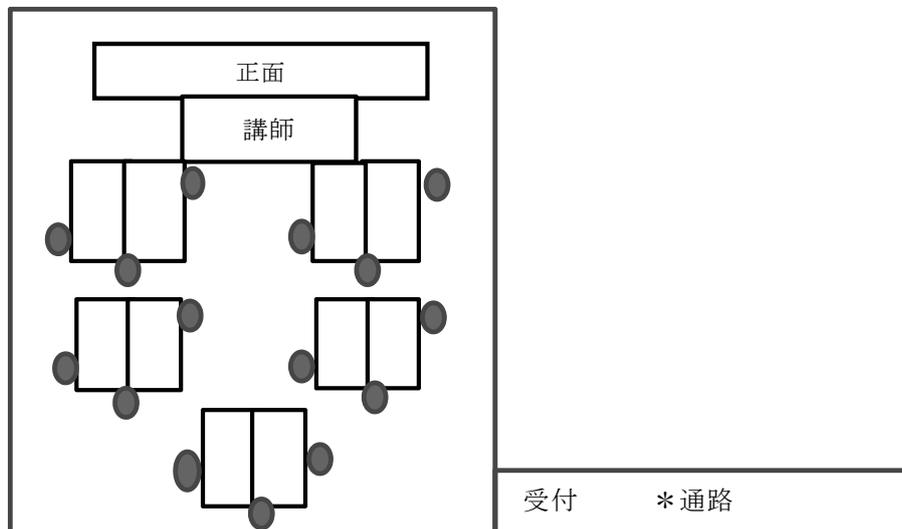
- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| ①受け付け及び材料費の徴収      | 渡部、大濱、亘保       |
| ②開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 |                |
| 司会                 | 渡部             |
| 講師紹介               | 金城             |
| ③講座の進行             | 渡部             |
| ④材料等の準備及び配布        | 博物館ボランティア(約5人) |
| ⑤記念撮影              | 文化の杜           |

9 準備するもの(材料・用具等)

- ◎必要な材料・用具
- 講師準備
    - ・不織布、型紙見本3種類×5テーブル=15枚
    - ・麻布15枚(たて20cm×よこ30cm)
    - ・染織材料
  - 館側が準備するもの
    - ・作業版(新聞紙で包む)
    - ・くまどり用の筆(赤→2本×5テーブル、青→2本×5テーブル)
    - ・新聞紙、画鋏(文化の杜)
    - ・紙コップ 10色×5テーブル+講師分=約80個(文化の杜)
    - ・マジック、模造紙(文化の杜)
  - 受講生が準備するもの
    - ・作業ができる服装
    - ・材料費 1名(1,000)円

10 体験会場

沖縄県立博物館 実習室



## びんがた 紅型について

紅型は、沖縄を代表する<sup>こうげいひん</sup>工芸品です。黄、赤などのあざやかな色や海と空を思わせる<sup>あゐ</sup>藍の色など<sup>たさい</sup>多彩で美しく、私達の<sup>きょうど</sup>郷土に、このような世界に<sup>ほこ</sup>誇れる工芸が、<sup>う つ</sup>受け継がれていることは素晴らしいことです。

### 〈紅型のはじまり〉

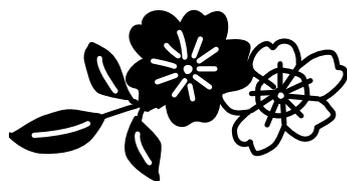
今から250年ほど前には、今と同じ<sup>ほうほう</sup>方法で紅型が染められていたようですが、その<sup>ぎほう</sup>技法がどこの国から伝わり、いつ頃から作られてきたのか、よく分かっていません。

### 〈<sup>おうちょう</sup>王朝時代の紅型〉

紅型で染められた<sup>きもの</sup>着物は、王様やその家族、その他、身分の高い人たちが身につけていました。一般の人達はお祭りの<sup>げいのう</sup>芸能で着たり、少し<sup>ゆうふく</sup>裕福な人達がお祝いの時に着たりしていました。また、中国や<sup>おうべい</sup>欧米の国々へ<sup>おく</sup>贈り物として差し上げたりしています。

### 〈紅型の染め方〉

型紙を使う「<sup>かたぞめ</sup>型染」と糊袋を使う「<sup>のりぶくろ</sup>筒描」があります。どちらも、<sup>のり</sup>糊で色を染めない所を作り、<sup>のり</sup>糊の無いところを染めます。



# 紅型の染め方 (つつがき筒描)



## 〔一日目にやること〕

- ① 下絵を描きます。
- ② 下絵をベニヤ板に置いて、その上に布を張ります。
- ③ 下絵の線に合わせて、糊袋のりぶくろに入れた糊のりで、布に模様もようを描きます。



## ☆糊で模様を描くポイント！

- ★ 糊袋のりぶくろを少しななめにたおし、布に押しつけながら描きます。
- ★ すばやく、一気に糊のりを引きます。
- ★ 糊のりがとぎれないようにします。



## 〔二日目にやること〕

- ④ 糊のりが乾いたら、色かわ（顔料がんりょう）をすりこみます。
  - ★ 顔料がんりょうは、岩石がんせきです。水にとけません。さあ、どうやって染めるのでしょうか？ よく先生を見てください！
- ⑤ 染めた色がかわいたら、色止めいろどをします（ミョウバンをぬる）。
  - ★ そのまま洗あらうと色が取れてしまいます。

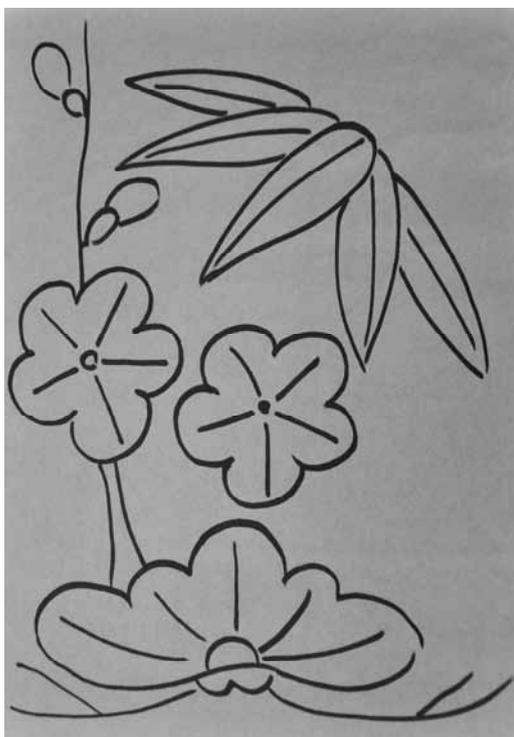
## 〔三日目にやること〕

- ⑥ かわいたら、水につけて、糊のりを洗い落として完成かんせいです。
  - ★ 洗あらう前に2時間ほど、水につけておきます。



◆ 君ならどんなデザインにするかな??

- みほん -



しょうちくばい  
松竹梅



ぼたん

MEMO

## IV 博物館文化講座

### 1 博物館文化講座実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

#### (4) 受講方法

当日先着200名（事前申込み不要）

回数	期 日	演 題	講師名	定 員	参加者
431	4月20日	「アメリカ軍基地と沖縄経済－歴史のなかで考える－」	来間泰男	200	135
432	5月18日	「首里王府の史書編纂事業『中山世鑑』から『球陽』まで」	田名真之	200	175
433	6月8日	「沖縄の冠婚葬祭」	崎原恒新	200	182
434	7月20日	「地質屋から見た沖縄の自然－化石と地史－」	大城逸朗	200	128
435	8月17日	「ネイチャー・テクノロジーがつくる、あたらしい暮らしとものつくりの世界」	石田秀輝	200	52
436	9月21日	「九州国立博物館におけるボランティア活動の実際」	上野知彦	200	70
437	10月19日	「世界の絣・沖縄の絣」	柳悦州	200	120
438	11月16日	「沖縄で学ぶジオ」～島々が語る地球の営み～	尾方隆幸	200	66
439	12月21日	「きからじとジーファー」	小波則夫 又吉健次郎	200	197
440	1月18日	「遺跡出土銭貨が解き明かす琉球貨幣史 ～古琉球・銭の物語～」	宮城弘樹	200	107
441	2月23日	「三線を科学するパート1 ～音の物理と心理的アプローチ～」	高良富夫	200	93
442	3月15日	「三線を科学するパート2 －X線による健康診断－」	鳥越俊行	200	64

## 2 文化講座の実施状況

### 第 431 回 文化講座「アメリカ軍基地と沖縄経済—歴史のなかで考える—」

日時 2013年4月20日（土） 14:00～16:00 参加者135名

講師 来間泰男（沖縄国際大学名誉教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

戦前から現在までの沖縄経済の状況を歴史事象の中で詳細なデータを示しつつ説明していった。総括的には戦前の沖縄経済は日本経済との関係において「全体の一部」であったが、アメリカ軍占領下において「分離・孤立させられた一つの経済」となり、日本復帰後は再び「全体の一部」となったものの、3つの時期を通して「生産力水準の低位性」は変わっておらず、モノの生産を考えた場合、生産コストに優位性がなく、輸送コストも相まって沖縄の不利な状況が今も克服されていないことが指摘された。その上で沖縄経済をもともと「自立」できないものとしてとらえ、他に責任転嫁をせず県民が地道に努力する必要性が説かれた。また、返還跡地の経済発展を根拠とした基地撤去論に異をとらえ、経済問題を絡めない純粋な基地撤去を求めることの重要性が主張された。講演後半は聴衆との活発な質疑応答、意見交換が時間いっぱいまで行われた。



講演を行う来間氏



参観者との意見交換



会場いっぱいの参観者

### 第 432 回 文化講座「首里王府の史料編纂事業『中山世鑑』から『球陽』まで」

日時 2013年5月18日（土） 14:00～16:00 参加者175名

講師 田名真之（沖縄国際大学教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、首里王府がなぜ史料編纂事業を行ったのか当時の時代背景、人々の考え方などを交えた解説で進められた。史書編纂事業は、島津侵入後の首里王府が王国の誇りを守るために取り組んだ。王命で正史編纂を担った羽地朝秀が、「中山世鑑」を編集。その特徴として、江戸幕府への配慮から和文を主に記述されていること、内容として源為朝渡来伝承と舜天伝承との合体など伝説的内容や年代などに非現実的な部分が見られるが、正史編纂は琉球王国の権威を位置付けるものとなったとのことであった。その後、蔡鐸・蔡温により「中山世鑑」は再編され、「中山世譜」と名付けられ、後に蔡鐸本、蔡温本と分類されている。その相違についての解説に参加者は興味深く聞き入っていた。また、鄭秉哲が編集した「球陽」は、正史の範囲を超えて、王国の森羅万象を網羅した書となっており、原本は不明、現存してあるものはすべて写本であるとのことであった。史書編纂が行われた歴史的な背景を含め、琉球史を知る資料の解説と内容の深い講座であった。



会場いっぱいの参観者



わりやすい講話をおこなう田名氏



貴重な資料の解説

### 第 433 回 文化講座「沖縄の冠婚葬祭」

日時 2013年6月8日（土） 14:00～16:00 参加者182名

講師 崎原恒新（沖縄県民俗学会委員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、沖縄における昭和初期ごろまでの庶民の伝統的な結婚の概要、聞きたくてもなかなか聞くことのできない葬儀の概要についてを方言を交えた軽快な語りで進められた。昭和初期ごろまでの男女交際の場であったモーアシビーは、漁に出る漁村にはなかったことや村内婚が主であった当時は村外婚の場合青年会に罰金（馬手間）を支払う制度など、男女平等が叫ばれる現在では、想像できない内容が多々あり驚くばかりであった。葬儀については、死の判定や火葬の考え方、読経者など葬儀全般が現在と大きく違う点や副葬品など共通する点などが紹介された。墓に関しては、洗骨の時期や仮墓、墓の新築に関することまた村墓、門中墓等について写真での解説があり、なかなか聞けない内容に来館者も興味を引かれていた。核家族化が進み祖父母から昔の話を聞く機会も無くなってきているなか、次の世代へ継承することの大切さを感じた貴重な講話であった。



うちな一口を交えた解説



会場いっぱいの参観者



資料映像の解説

### 第 434 回 文化講座「地質屋から見た沖縄の自然—化石と地史—」

日時 2013年7月20日（土） 14:00～16:00 参加者128名

講師 大城逸朗（理学博士）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

講座の導入として、講師がモロッコで購入したアンモナイトや三葉虫など30枚以上の写真を用いて示準化石について解説が行われた。ユーモアを交えた内容に初めて化石の話聞く参加者にも分かりやすく、化石と地史の話に引き込まれていった。沖縄トラフについての説明では、琉球列島はかつて大陸の一部だったが、地盤の沈降により東シナ海や海峡の成立によって切り離され、徐々に島々へと移行していった。琉球列島が大陸と陸橋を形成していたころ多くの種類の動植物が渡来し、今日の琉球列島の自然形成の基盤となっている。沖縄本島やんばるの森で、ヤンバルクイナなど固有種が形成されていった背景がうなづけた。講話の後半で、宮古島は、化石種や現生種の存在からきわめて特異な地域で、今後の地史解明のキーとなるところであり、自然史研究の拠点としたい。また、その重要性を若い世代に伝えたいという講師の思いが強く伝わった。



会場いっぱいの参観者



ユーモアのある口調で語る大城氏



日本近海の様子を紹介

### 第 435 回 文化講座「ネイチャー・テクノロジーがつくる、あたらしい暮らしとものつくりの世界」

日時 2013年8月17日（土） 14:00～16:00 参加者52名

講師 石田秀輝（東北大学教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、色々なものに囲まれた豊かさの中で生活している私たちに、環境を保全しながら豊かに生きるためにはどうすればよいのかを問かけるようにはじまった。地球環境問題の背景には、人間活動の肥大化があり、それが大量のエネルギー資源消費につながっている。東日本大震災後、私たちは、エネルギー資源問題をはじめ様々なことを考えさせられた。講話では、限られた資源を活用したあたらしい暮らしとものつくりとして、ネイチャー・テクノロジーが紹介された。ネイチャー・テクノロジーとは、厳しい環境制約の中で、心豊かな暮らしのかたちを描き、それに必要なテクノロジーを自然の中に探し、自然の力を賢く使うこととの解説が行われた。このシステムから無電源エアコン、雨が降れば汚れが落ちる表面、水の要らない風呂、家庭農場、トンボの風力発電機などが次々と創出されたと紹介があった。現在の生活の在り方について、考えさせられることが多くある講座であった。



データ解説をする講師



講演をする石田氏



解説に聞き入る参観者

### 第 436 回 文化講座シンポジウム「九州国立博物館におけるボランティア活動の実際」

日時 2013年9月21日（土） 14:00～16:00 参加者70名

講師 上野知彦（元九州国立博物館主任研究員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座では、「九州国立博物館におけるボランティア活動の実際」と題し上野氏による講演が行われた。これまで九州国立博物館が取り組んできたボランティア養成講座の概要をはじめ、ボランティアの方々の自主的な活動を写真等での紹介を交え分かりやすい解説が行われた。来観者に博物館を楽しんでもらうための体験活動サポートや展示物説明、また、他館ではあまり例のない環境保全活動（IPM）などボランティアの方々の主体的な活動が紹介された。九博では、ボランティアの任期があり卒業イベント企画などの紹介もあった。年間来観者数100万人を超す九州国立博物館のボランティア活動の取り組みに、参観者は興味を持ち話しに聞き入っていた。多様化するニーズへの対応、地域への開放など学ぶことが多い講座であった。



解説をする上野氏



講演会場の様子



九博の取り組み紹介

### 第437回 文化講座「世界の絣・沖縄の絣」

日時 2013年10月19日（土） 14:00～16:00 参加者120名

講師 柳悦州（沖縄県立芸術大学教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

沖縄には、琉球王国時代から様々な織物が各地に残っており、その技法の一つに絣がある。当講座では、世界の絣と沖縄の絣について、柳先生の貴重な絣織物のコレクションを提示しながら解説が進められた。はじめに、世界の絣として、シルクロード沿い諸国、インド、東南アジアの絣織物について紹介があった。絣の模様の特徴として左右・上下対称紋様、モザイク紋様などが上げられ、その製作方法の違いなどが解説された。沖縄では、首里王府への貢納布に八重山、宮古、久米島の織物があり、その後の絣技法発展に関係している。糸をずらしながら模様を作る方法は独特で、世界の中でも、とても注目される特異な技法との説明があった。王国時代の位の高い人々が着用していた絣は紋様が大きく、実物が紹介されると参観者は興味深く見入っていた。今回の講座で、端正な美しい織物である世界各地の様々な絣の魅力と沖縄の絣織物への関心が更に高まった。



会場いっぱいの参観者



貴重な資料を用いての解説



### 第438回 文化講座「沖縄で学ぶジオ～島々が語る地球の営み～」

日時 2013年11月16日（土） 14:00～16:00 参加者66名

講師 尾方隆幸（琉球大学 教育学部 生涯教育課程 准教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

ジオとは、地球や土地を表す言葉である。普段なかなか耳にしない用語であるが、当講座では、視聴覚映像も交え、素人にも理解しやすい形で講演が進められた。沖縄では、亜熱帯島嶼・サンゴ礁・石灰岩地域に特有の自然景観がみられる。ジオダイバーシティ、ジオコンサベーションとは、地球科学を対象とする自然の多様性を保全すべきという考えのことである。ジオパークでは、その地質遺産を保全し、地球科学の普及に利用し、さらにジオツーリズムを通じて地域社会の活性化につなげるとのこと。視聴覚教材では、本部半島カルスト地域の事例が紹介された。また、県内の他地域でも資源や景観を持続的に保全していこうという動きがあり専門家を交えて準備が進められているとのこと。地球の成り立ちや沖縄特有の自然景観を知り、それを保存継承していくことの大切さを考える機会となった。



講演会場の様子



講演をする尾方氏



熱心に聞き入る参加者

### 第439回 文化講座「きからじ」と「ジーファー」

日時 2013年12月21日（土） 14:00～16:00 参加者197名

講師 小波則夫（小波琉きからじ結家元） 又吉健次郎（金細工師・七代目金細工またよし）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

沖縄の伝統芸能を彩る装いの技「きからじ」と「ジーファー」と題し、結髪の第一人者である小波氏と、七代目金細工師又吉氏による実演を交えた講演が行われた。講座前半は、古波蔵氏により、王族や士族の婦女子の髪型として気品を重んじる「首里結い」と男性士族の髪型「欵髻（カタカシラ）」についての解説が行われた。続いて、小波氏により男女のモデルを対象に実演が舞台上で繰り広げられた。滅多に見ることのできない結髪の技（手元をクローズアップ）に参観者は引きつけられていた。講座後半は、又吉氏より、首里王府時代から続く金細工またよしの歴史と工房の紹介がされた。戦後先代の誠睦氏によりジーファー、結び指輪、婚礼の房指輪が復元され、7代目健次郎氏へ継承された。続いて、弟子によるジーファー打ちの基本である角ウチの実演が行われた。又吉氏の軽快な語り口に会場は、笑いあいの和やかな雰囲気包まれた。きからじの実演、角ウチ、琉舞の演舞と見応えのある充実した講座であった。



実演を行う小波氏



実演解説をする又吉氏



講師の方々

### 第440回 文化講座「遺跡出土銭貨が解き明かす琉球貨幣史～古琉球・銭の物語～」

日時 2014年1月15日（土） 14:00～16:00 参加者107名

講師 宮城弘樹（名護市教育委員会）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

貨幣とは経済的には流通手段、価値貯蔵、価値尺度の3つの機能が上げられる。私達が日常生活で当然のように使用している「お金」について、琉球史を交えた内容で講座が進められた。貝塚時代の出土銭貨として明刀銭、五銖銭、7～12世紀の遺跡やグスク、御嶽等30数か所から出土した開元通宝、琉球鑄造の貨幣など遺跡から出土する銭から琉球貨幣史についての解説がなされた。これまで、沖縄のグスク時代遺跡からは約2万枚の多様な形態の銭が出土しているが、時代や場所において多寡があり構成も様々であることが紹介された。また、古琉球・近世琉球の時代では、ある程度市中において銭が利用され、当時の人々も銭についての知識があったのではないかという解説がされた。出土銭貨研究から、琉球史における政治、経済、文化、社会構造等新たな側面が見えてくるのではないかと。今後の研究が待たれる。



解説する宮城氏



講演会場の様子



出土状況についての解説

#### 第 441 回文化講座「三線を科学するパート1～音の物理と心理的アプローチ～」

日時 2014年2月23日（日） 14:00～16:00 参加者93名

講師 高良富夫（琉球大学工学部長）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

三線の音を科学的に解明するとは、どういうことなのか。講演の前半は、周波数スペクトルや音色と周波数の関係について、周波数成分表を提示しながら解説が行われた。私たちは、色々な音を聴いたとき、瞬時に音色を聞き分けることができる。それは、音色が周波数成分や時間的な変化を含んだ、様々な要素で成り立っていることを示す。演奏者から聴衆に伝わる音楽は、物理的には、音波のみが届いていて、心理的な感じ方として、音楽への知識などが影響していることがわかっている。講演の後半は、三線の名器と呼ばれる盛嶋・翁長・志多伯・湧川・富盛・江戸与那を用いて行われた実験について解説が行われた。絹絃とナイロン絃を比較した実験と開鐘胴内部の凹凸と扁平を比較した実験結果が報告された。高良氏は、演奏家や三線製作者が持つ共通の音の良さを科学的に確認する必要があるとし、今後も実験を継続していくとのことであった。音色を科学的に考える興味深い講演であった。



会場の参観者



講演する高良氏



実験結果についての解説

#### 第 442 回文化講座「三線を科学するパート2－X線による健康診断－」

日時 2014年3月15日（土） 14:00～16:00 参加者64名

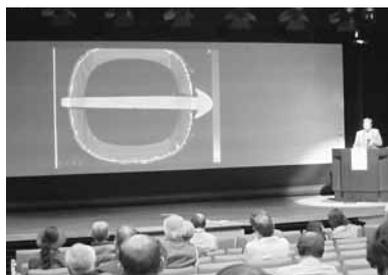
講師 鳥越俊行（九州国立博物館 主任研究員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

「三線を科学するパート2」と題して、鳥越氏による講演が行われた。私たちが健康診断を行うように、CTスキャナを用いることによって、等身大の文化財を短時間で高精度に構造調査ができ、多様な資料を素早くデジタル化できるとのことであった。九州国立博物館で実際に行った仏像、漆、てつはうのCTスキャナ資料をもとに解説が行われ、外見では確認できない複雑な構造の解明につながったことなどがわかった。三線の調査結果は、盛嶋開鐘附胴、志多伯開鐘、富盛開鐘附胴、江戸与那、健堅与那、源河ウェーキ胴のCTスキャナ調査からコンピュータによる画像処理によって、胴の切り込みが盛嶋、富盛、志多伯で違いがあることや棹部分の材質が場所によって違いがあったり、ほぞの角度など内部構造を知ることができた。また、データを基に3D作成された胴が展示され、参観者は実際に手に取り映像ではわかりにくい内部構造に見入っていた。



講演会場の様子



CTスキャナ画像の解説



3Dプリンタで制作した胴を解説する鳥越氏

(金城久枝)

キーワード：基地建設 基地収入 基地経済 軍用地料 基地地産地消 北谷町・新都心の「繁栄」 沖縄特別待遇財政 沖縄経済の「自立」

沖縄県立博物館・美術館  
第431回 博物館文化講座

# 歴史のなかで考える アメリカ軍基地と 沖縄経済

4月20日(土) 2013年  
14時～16時(開場13時半)  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂  
入場無料

講師：来間 泰男氏 (沖縄国際大学名誉教授)  
【プロフィール】  
1965年宇都宮大学卒業。琉球政府農林局を経て、宇都宮大学大学院農学研究科(修士課程)を70年に修了。同年国際大学講師。1972年沖縄国際大学へ移籍。82年教授。2010年退職。沖縄国際大学名誉教授。主な著書に『沖縄の農業(歴史のなかで考える)』『沖縄経済評論批判』(日本経済評論社)『沖縄農林水産行政史(第1～2巻)』(農林統計協会、九州農経総合研究センター)、『沖縄経済の幻想と現実』(日本経済評論社、伊波普猷史受賞)、『沖縄の米軍基地と軍用地料』(柏樹書林)、ほか著書論文多数。『沖縄史を語り継ぐシリーズ』を刊行中。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第432回 博物館文化講座

キーワード：家訓編纂、近代家系、冊封使、自己探求、異国探求

# 首里王府の 史書編纂事業 『中山世鑑』から『球陽』まで

5月18日(土) 2013年  
14時～16時(開場13時半)  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂  
入場無料

講師：田名 真之氏 (沖縄国際大学教授)  
【プロフィール】  
1950年生まれ、神戸大学文学部卒業  
沖縄国際大学(総合文化学部)教授/南島文化研究所長/首里城整備検討委員会委員/沖縄県文化財保護審議会委員  
沖縄県史編纂委員会委員/那覇市歴史博物館運営委員/宜野湾市市史編纂委員会委員 他  
○主な著書：『沖縄近世史の諸相』(ひるぎ社1992年)、『琉球家系の成立と門中』(系図が語る世界史)(青木書店2002年)  
『クニタダ人物志1 義兵』(久米邦武会、2008年)等  
○共著：『図説 琉球王国』(河出書房新社1993年)、『沖縄県の歴史』(山川出版社2004年)  
『書 久米氏四百周年記念誌』(久米邦武会2008年)等

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第433回 博物館文化講座

# 沖縄の冠婚葬祭

6月8日(土) 2013年  
14時～16時(開場13時半)  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂  
入場無料

講師：崎原 恒新氏  
【プロフィール】  
出身地：与那原町板敷 1943年生まれ。  
現在、うるま市「具志川市史」編集委員、沖縄市史編纂委員など。  
著書『沖縄・奄美の歳時習俗』明玄書房(共著)1975、『沖縄・奄美の祝詞』明玄書房(共著)1977、『沖縄の年中行事』沖縄出版1989、『八重山チャンネルこと小書典』ポニーデザイン1999、『琉球死後の世界』むぎ社2005

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第434回 博物館文化講座

キーワード：琉球列島、地質、古生物、化石、環境、地史、古地理、ハブ類

# 地質屋から見た 沖縄の自然―化石と地史―

7/20(土) 2013年  
14時～16時(開場13時半)  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂  
入場無料

講師：大城 逸朗氏 (理学博士)  
【プロフィール】  
出身地：那覇市 1942年生まれ  
現在「おきなわ石の会」会長、おきなわワールド博物館顧問、北谷町・宜野湾市・浦添市・八重瀬町・南城市各教育委員会文化財調査審議会委員、宮古島地下水資源保全対策協議会委員  
著書：『失われた生物―沖縄の化石』新泉館出版、1987、『沖縄の自然―その正しい立ちを求めて』平凡社(共著)、1975  
『琉球の自然』築地書館(共著)、1980、『沖縄の島じまをめぐって』築地書館(共著)、1982、『琉球の地質』沖縄タイムズ社(共著)、1985、『琉球の成人と動物の追求』沖縄タイムズ社(共著)、2002、『宮古の自然と文化』新泉館出版(共著)、2003、『宮古の自然と文化』第3集 新泉館出版(共著)、2011

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第435回 博物館文化講座

博物館特別展  
「海・山・川のおくりもの 目からウロコの大生体物展～生物多様性ホットスポット JAPAN～」関連企画

あひ ⇒ 水の要らない風呂  
とんぼ ⇒ 微風でも発電可能な風力発電機  
つち ⇒ 無電源空調機  
かたつむり ⇒ 汚れがつきにくく取れやすい表面

家庭農場  
↑  
微生物の多様性

# ネイチャー・テクノロジーがつくる、あたらしい暮らしとものづくりの世界

○キーワード：東日本大震災、バックキャスト思考、フォアキャスト思考、心豊かなライフスタイル、地球環境問題、ネイチャーテクノロジー、トンボの風力発電機

**8/17** 2013年 (土)  
14時～16時(開場13時半) **入場無料**  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

講師：石田 秀輝氏 (東北大学大学院環境科学研究所教授・工学博士)  
【プロフィール】  
2004年東電 INAX (現 LIXIL) 取締役 CTO を経て環境、ものづくりのパラダイムシフトに向けて国内外で多くの現場を駆け巡る。特に、2004年からは、自然のすざさ賢く活かすあたらしいものづくり「ネイチャーテクノロジー」を提唱。また、環境問題解決を継続的に推進できる社会人の人材育成や、子供たちの環境教育にも積極的に取り組んでいる。地球科学研究室長、ネイチャーテック研究会代表理事、ソリユーションズ理事長、ものづくり生文明機構理事、アースウォッチ・ジャパン理事長。  
近著：「ヤマトの海から不思議なテック」(アリス館2011)、「未来の働き方をデザインしよう」(自由社新聞社 2011)  
自然に学ぶネイチャーテクノロジー (Gakken Mook2011)。その他大人になる前編 (日経文庫 2010)  
地球が教える奇想の技術 (祥社2010)、自然に学ぶ未来テクノロジー (Dajin 選書 化学同人2009) ほか多数。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第436回 博物館文化講座

# 九州国立博物館におけるボランティア活動の実際

■キーワード：九州国立博物館、ボランティア、主体的・自主的、8分野12グループ、任期3年、企画から実施まで、1PM

年間100万人以上の来館者が訪れる九州国立博物館。そこで活動する「九州国立博物館ボランティア」は、来館者に博物館を楽しんでもらうために展示物の説明や体験活動のサポート等はもちろんのこと、他の博物館ではあまり例のない博物館内の環境保全や博物館資料に関する活動など、幅広い活動・取り組みを、主体的・自主的にを行っています。

今回の講座では、九州国立博物館ボランティアのそのような活動を紹介するとともに、どのように組織され、運営されているかをお話ししたいと思います。

うえのともひこ  
講師：上野 知彦氏 (元九州国立博物館主任研究員)

【プロフィール】  
H12～H16 福岡県青少年科学館 専門員 (天文係・教育普及係) として、おもに小中学生にプラネタリウムでの星空解説やサイエンスショー等を行い、科学教育の普及に従事。H20～H24 九州国立博物館 (福岡県立アジア文化交流センター) 交流課ボランティア室主任研究員として、ボランティア運営に従事。現在長久留米市立植原中学校に勤務。

**9/21** 2013年 (土)  
14時～16時(開場13時半) **入場無料**  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第437回 博物館文化講座

# 世界の絣

沖縄の絣

左：八重山の絣 (日本民藝館蔵) / 右：糸織り (沖縄県立博物館・美術館蔵)

■キーワード：沖縄の染織、工芸と民藝、シルクロードの染織、ラオスの織物、手織機、絣、絹、織物技術、織物技術論、工芸史

沖縄の特徴的な織物技法として絣があります。世界各地には、さまざまな絣技法がありますが、沖縄は多彩な技法が展開し、端正な美しい織物が織られてきた特性があります。織物の素材も、苧麻・芭蕉・絹・木綿などが使われ、その素材にあった絣技法が展開してきました。

講座ではスライドや実物資料を使い、世界各地の絣を紹介しながら、それぞれの絣織物文化を考えます。また沖縄の絣織物の特性について明らかにしていきたいと思えます。

やなぎ よし くに  
講師：柳 悦州氏 (沖縄県立芸術大学教授)  
【プロフィール】  
1952年東京生まれ。1975年玉川大学工学部機械工学科卒業。柳悦孝(よしたか)織物工房に入所し織物制作と研究を行う。2000年南山大学大学院工学系研究科修士(工学)。2003年沖縄県立芸術大学附属研究所教授。2009年～2012年附属研究所長。現在、附属研究所教授、芸術文化学研究所(博士課程)研究科長。また、絹織物を中心に織物制作をおこなうとともに、織物技術論、織物技術史を研究。1991年よりラオスの織物文化調査を継続。1998年よりシルクロード沿い、韓国の手織機調査。2007年より日本民藝館展覧審査委員。  
【報告書】「シルクロード織機研究」(2002年)、「韓シルクロード織機研究」(2006年)「シルクロード研究センター」記事  
【論文】「沖縄の天祥機と絣織物の復元」(2005年) 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要、「ラオスの平型織機」2012年国立民族学博物館特別展「世界の織機と織物」実行委員、図録「世界の織機と織物」作図担当

**10/19** 2013年 (土)  
14時～16時(開場13時半) **入場無料**  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第438回 博物館文化講座

# 沖縄で学ぶジオ

～島々が語る地球の営み～

左：1 徳島県 (岡山県)、右：2 青森県 (岩手県) 左下：伊予島 (徳島)

「沖縄で学ぶジオ」にはどのような特徴があるのでしょうか。「沖縄を学ぶ」ではなく「沖縄で学ぶ」ことにはどのような意味があるのでしょうか。

沖縄県と鹿児島県にまたがる琉球列島には、日本本土ではみられない地球科学的遺産が豊富にあります。これらを「珍しいもの」ととらえるか「ありふれたもの」ととらえるか、そのスタンスによって、みえてくるものは大きく異なります。

これまで沖縄の自然、文化資源の珍しさがいろいろところで強調されてきました。しかし、この講座は違います。一見すると珍しいものから、ありふれた現象を読み解くことに挑戦します。「普遍性を見放さず最適な素材はどこにあるか」というセンスで島々の魅力を探ってみましょう。

○キーワード：ジオダイバーシティ、ジオコンバージョン、ジオサイト、地球科学、自然環境、地球環境、持続可能性、生涯教育、学校教育

おんたかゆき  
講師：尾方 隆幸氏 (琉球大学教育学部准教授)  
【プロフィール】  
「琉球大学教育学部准教授(自然地理学)」。筑波大学大学院修了、博士(理学)。琉球列島ジオサイト研究会代表、本部半島ジオパーク推進協議会顧問のほか、薬国村ジオツーリズム推進計画や沖縄県地震被害想定調査の委員などを務める。

**11/16** 2013年 (土)  
14時～16時(開場13時半) **入場無料**  
当日先着200名(予約不要)  
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第439回 博物館文化講座

# 「きからじ」と「ジーファー」



右：「ジーファー」各種、左：「演奏会の様子」



○キーワード  
きからじ、ジーファー、結製、カタカシラ、金細工、かんざし、勇指輪、結び指輪

12/21 2013年 (土)  
14時～16時(開場13時半) 入場無料  
当日先着200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

講師：小波 則夫氏 (小波流きからじ結製家)

【プロフィール】  
結製は、沖縄の伝統芸能で、役柄に合った伝統的な髪型を結い上げる技術である。講師の小波氏は、結製後、沖縄芝居の劇中で役者役ながら髪型への技術を習得。昭和34年に結製結製「小波流」を創設した。以後、結製師として数多くの舞台に参加する他、髪型・技術の指導者として、国立立大学中退生会等様々な場で講師を務めた。2008年「国指定保存技術保持者認定」認定保持者技術継承(沖縄伝統芸能)＞、2010年「旭光賞」を受賞、2013年「沖縄県功労者賞」を受賞、著書「てからじの世界」1995年

講師：又吉 健次郎氏 (金細工師・七代目金細工またよし)

【プロフィール】  
金細工は、貴金属を加工して、かんざしや指輪など沖縄の伝統的な装飾品を製作する技術である。かつては首里王様が所管する職人で「金細工師」と呼ばれた。又吉氏は母が沖縄を愛し、継父が匠で七代目となる。母からの手法にこだわり、本来の美しさを追求するだけでなく、新たな可能性を求めて若手の育成にも尽力している。2008年「白濁賞」を受賞、2009年「沖縄タイムス賞文化賞」を受賞、2012年「沖縄県功労者賞」を受賞

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第440回 博物館文化講座

# 琉球貨幣史

遺跡出土金貨が解き明かす  
古琉球・銭の物語



○キーワード：琉球、貨幣史、グスク時代、出土銭貨、渡来銭、無文銭、貨幣の機能

1/18 2014年 (土)  
14時～16時(開場13時半) 入場無料  
当日先着200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

講師：宮城弘樹氏 (名護市教育委員会)

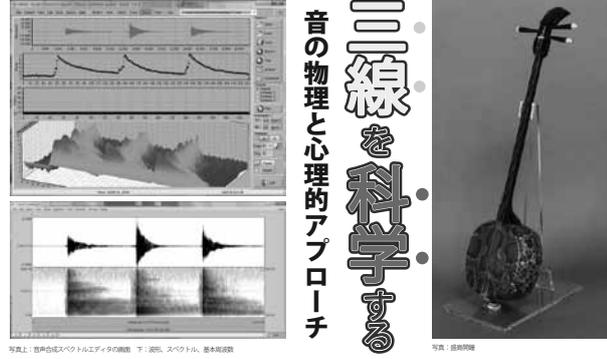
【プロフィール】  
名護市教育委員会文化課(芸芸員)、沖縄国際大学大学院修了(考古学)  
今帰仁村教育委員会を経て2012年から現職。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第441回 博物館文化講座

# 三線を科学する

音の物理と心理的アプローチ



○キーワード：三線、音、物理、心理、音楽、基本周波数、振幅、スペクトル

2/23 2014年 (日)  
14時～16時(開場13時半) 入場無料  
当日先着200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

講師：高良富夫氏 (琉球大学工学部長)

【プロフィール】  
1983年 東京工業大学大学院 博士課程修了 工学博士  
1989年 沖縄県研究奨励賞受賞 (研究テーマ：琉球方言の音声・音韻の情報処理)  
1991年 カネギー・メロン大学客員研究員  
1995年 琉球大学教授(工学部情報工学科)  
2002年 琉球大学・総合情報処理センター長  
2006年 日本音響学会九州支部長  
2009年 琉球大学・大学教育センター長  
2011年 琉球大学・工学部長  
現在に至る

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館  
第442回 博物館文化講座

# 三線を科学する Part 2

—X線による健康診断—



○キーワード：三線、X線CTスキャナー、健康診断、非破壊検査、3Dプリンター、文楽師

3/15 2014年 (土)  
14時～16時(開場13時半) 入場無料  
当日先着200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

講師：鳥越 俊行氏 (九州国立博物館主任研究員)

【プロフィール】  
平成9年 高麗大学大学院理学研究科地質学専攻修士課程修了 理学修士  
15年 岡山大学大学院自然科学研究科精密応用化学専攻博士後期課程修了  
同年 九州国立博物館(仮称) 設立準備室 研究員  
19年 九州国立博物館 主任研究員(現在に至る)  
22・23年度 九州産業大学芸術学部 非常勤講師  
24・25年度 熊本大学工学部 客員教授

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200  
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

## IV 博物館学芸員講座

### 1 博物館学芸員講座実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説・実技などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：博物館講座室を基本とする

#### (4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約はしない。

※8月3日・12月7日開催回のみ、事前申込制

回数	期 日	演 題	講師名	定 員	参加者
1	4月13日	「南の島の化石調査～ゆるゆる洞窟探検記～」	藤田裕樹	80	42
2	5月4日	「目からウロコの大生き物展～生き物よもやま話」	山崎仁也	80	71
3	6月1日	「土器の話ーかけらが語る島と人の6000年ー」	山崎真治	80	70
4	7月31日 8月1日 8月2日	夏休み企画 「夏休み！博物館学芸員教室」	P63～P66参照		
5	8月3日	「博物館バックヤード探検」	金城久枝	15	15
6	9月7日	「イロイロな「色」のはなし」	與那嶺一子	80	121
7	11月23日	「藍壺から琉球藍の製藍業をさぐる」	大湾ゆかり	80	86
8	11月9日	「琉球王国時代の地図～館収蔵の古地図を中心に～」	崎原恭子	80	116
9	12月7日	「嘉津宇岳ジオツアー」	仲里 健	80	15
10	1月11日	「国頭村宜名真沖で沈没した謎の異国船を追え！」	片桐千亜紀	80	85
11	2月1日	「先生のための展示説明会 ～プチ解説をしてみたい先生のために～」	岸本 弘人	80	55
12	3月1日	「ウチナーンチュが好いた名器三線の音色 ～2012年度名器三線の音聴取実験の結果を踏まえて～」	園原 謙	20	101

## 2 学芸員講座の実施状況

### 第1回 学芸員講座「南の島の化石調査～ゆるゆる洞窟探検記～」

日時 2013年4月13日（土） 14:00～16:00 参加者42名

講師 藤田祐樹（人類）

場所 博物館講座室

沖縄では、化石は洞窟内の堆積物から見つかることが多く、県内各地の発掘調査で数多くの発見がある。なかでも、同県内で化石人骨が数箇所から発掘されているのは、日本中探しても沖縄ぐらいとのこと。2006年からの調査紹介として、ハンダガマ遺跡、武芸洞遺跡、白保竿根田原洞穴遺跡、サキタリ洞遺跡での発見物についての解説に参観者から驚きの声があった。特に、サキタリ洞遺跡の発掘には非常に興味を引かれた。また、通常は知りえない発掘の裏側として、伊良部島タウワインミアブ調査での命がけの洞窟探検の内容に、会場からは笑い、発見物に感嘆の声ありであった。

更新世人類の発見によって、人類の進化の過程が徐々に明かされつつあり、その謎を解き明かすため、発掘調査が行われている。その重要性を改めて考える事ができた講座であった。



洞窟探検に興味津々の参加者



解説をする藤田学芸員



数多くの県内発掘箇所

### 第2回 学芸員講座「目からウロコの大生き物展～生き物よもやま話」

日時 2013年5月4日（土） 14:00～16:00 参加者71名

講師 山崎仁也（生物）

場所 美術館講座室、正面玄関横

7月から開催される「目からウロコの大生き物展」に関連しての講座に多くの親子連れが参加した。種とは何か？という問いに子どもも大人も一緒になって考える場面あり、ワークシートや標本の活用ありなど参加者に考えさせ興味を引く内容であった。生き物の系統樹の解説では、最初の生き物を深海の想像図で説明し、生物の進化では、細菌と菌類の違い、進化には何億年もかかること、系統樹の枝分かれが近いほど近い仲間との説明等があった。また、生物多様性ホットスポットになる2つの理由や日本に生物が多いのは、気候、海流の影響があること。沖縄県のヤンバルに、珍しい生き物が多く生息している説明に参加者は聞き入っていた。後半は、実物大のザトウクジラに色を塗ってみようという内容で、子ども達は目を輝かせていた。



多くの親子連れ参観者



会場からの質問に答える山崎（仁）学芸員



ザトウクジラの色塗り

### 第3回 学芸員講座 「土器の話—かけらが語る島と人の6000年—」

日時 2013年6月1日（土） 14:00～16:00 参加者70名

講師 山崎真治（人類）

場所 博物館講座室、常設展示室

土器とは？から始まった講座は、土器と陶磁器の違いから始まり、アンデス、シリア、朝鮮半島、中国といろいろな土器の紹介が行われた。土器は、世界各地で出土されているが、用途は時代によって生業や生活様式がことなることから地域によっても大きく違いがある。日本では、1万2000年前の土器の煮こぼれ痕から魚を食べていたことが確認されているが西アジアでは、焼き料理中心の食事のため、煮炊きの土器は必要なかったのではないかなど解説が進められた。沖縄の土器の起源は、6000～7000年前で、読谷渡具知東原遺跡は大きな発見との説明があった。また、胎土分析から在地的な土器であるか外部から搬入されたのか産地を推定することができるとのこと。講座後半は、実際の土器を見ながらの解説に参加者は聞き入っていた。土器からは、時代変化、地域の変化がわかり、社会の変化を解明する手がかりとなることがわかった。



土器の説明をする山崎（真）学芸員



多くの参加者



実際の土器を前に解説（展示室）

### 第5回 学芸員講座「博物館バックヤード探検」

日時 2013年8月3日（土）午前10:00～12:00 参加者15名

講師 金城久枝（教育普及）

場所 博物館実習室、博物館バックヤード

当講座は夏休みの特別企画として子どもたちに、博物館の紹介と通常関係者以外の入室を制限している場所バックヤードの探検を行う調べ学習の場とした。前半は、博物館の紹介とそこで働く人々の紹介を行い、その後バックヤード探検を行った。初めて見る博物館の裏側に子どもたちは興味津々であった。5万冊を超える図書資料や、独特の臭いが漂う自然史実験室、1階の液寝室では、アルコール液に付けられた小動物を恐る恐る見入っていた。冷凍庫では、マイナス10℃の世界を肌で体感。子どもたちはそれぞれにメモを取ったりカメラ撮影するなど情報収集に取り組んでいた。探検後はポスターでの報告書作成を行い、博物館のバックヤード探検内容について各自工夫を凝らしまとめることができた。



動物の骨や化石に興味津々



いよいよ収蔵庫へ



工夫を凝らし報告書を作成

## 第6回 学芸員講座「イロイロな「色」のはなし」

日時 2013年9月7日（土） 14:00～16:00 参加者121名

講師 與那嶺一子（美工）

場所 博物館講座室

イロイロな色のはなしと題して、與那嶺学芸員による講座が行われた。色について人間は、10万色以上の識別能力を持っているが、科学的な側面と民族や歴史、習慣などの文化的な側面で色は違って見えるとのこと。「玉色」について沖縄ではサファイヤの色（宝藍色）、中国では青緑色と解釈に違いがあるなど解説が行われた。また、ウチナーンチュの色認識として、焼物の五色、織物の五色、暮らしの中の色が紹介され、琉球の人達が好む色は、強い光に負けない色ではないかとのことであった。貢納布（久米島紬）の色は、黄色は国内向け、茶色は江戸（大和）向けと作り分けており、紅型で使われる色の名称も日本とのやり取りの中で変化していった様子が示された。琉球人の美意識について深く考える、目からウロコの講座であった。



解説をする與那嶺学芸員



会場いっぱいの参観者



色について解説

## 第7回 学芸員講座「藍壺から琉球藍の製藍業をさぐる」

日時 2013年11月23日（土）台風のため日時変更 10:00～12:00 参加者86名

講師 大湾ゆかり（民俗）

場所 博物館講座室

沖縄の北部山間地を中心に活況を極めた琉球藍の製藍業について、藍壺の遺構をたどりながら紹介が行われた。前半は製藍業について、後半は藍の盛衰に関する解説が行われた。製藍作業として、アイ葉の刈り取りは雨の多い時期に行われ、これを発酵させて、泥藍に仕立てる。アイ葉が発酵するピークを見極め液を分離するタイミングや石灰の量など、職人の勘により行われる難しい作業とのことだった。藍の盛衰として、明治後半から昭和初期にかけての生産に関するグラフでは、収穫量と価格などから藍の需要と供給の関係が見えてきた。また、旧士族が開墾に関わった事などが解説された。明治から昭和初期の製藍業に関する詳細な調査内容が参観者の興味を引く講座であった。



講師の大湾学芸員



講座室いっぱいの参観者



藍壺の構造解説

## 第8回 学芸員講座「琉球王国時代の地図～館収蔵の古地図を中心に～」

日時 2013年11月9日（土） 14:00～16:00 参加者116名

講師 崎原恭子（歴史）

場所 博物館講座室、常設展示室

当講座は、「琉球王国時代の地図」と題して、崎原学芸員による講座が開催された。首里王府の地図制作のヒミツと地図に含まれる当時の沖縄をひも解く手がかりが紹介された。古琉球期の琉球を記した地図は、実測をともなった地図ではなく、大まかな位置関係が示されたものであった。行基図（日本図）では、琉球は域外として表されていることなどから、当時の琉球へのまなざしを知ることができる。18世紀になると、人口増加に関わる町方の土地把握を目的に積極的な土地測量が行われた。当時の測量方法についての解説、古宇利島の印部石の紹介などがされた。講座後半は、常設展示室で解説が行われ「首里古地図」や「琉球国惣絵図（間切集成図）」では、製作者のまなざしや当時の人々が知り得た情報などが紹介された。地図変遷から、琉球の歴史を考えることができた講座であった。



会場いっぱいの参観者



古地図解説をする崎原学芸員



常設展示室での解説

## 第9回 学芸員講座「嘉津宇岳ジオツアー」

日時 2013年12月7日（土） 10:00～13:00 参加者15名

講師 仲里健（地学）

場所 名護市 嘉津宇岳

「嘉津宇岳ジオツアー」と題して、地学担当仲里学芸員による野外での講座が開催された。ジオツアーとは、地理学や地質学の専門家による解説を聴きながら、自然景観の仕組みや成り立ちを読み解くツアーのこと。講座は、嘉津宇岳へ登頂しながら岩石観察のポイントや石灰岩が作り出すカルスト地形の解説など初心者にも分かりやすく進められた。時代を推測する示準化石、環境を知ることができる示相化石についての解説も行われた。サンゴの化石が見つければ、当時その場所が熱帯の浅い海であったことが推測できるとのこと。山頂において、本部半島には、日本でも珍しい円錐カルスト地形が見られることや、鍾乳洞の形成で水不足が無いことなどが解説された。野外観察をとおり、ジオパークなど自然が作り出す景色やそれらを保全していかなければならないことがわかった。今回、登山が初めてという参加者もいたが体調不良や怪我もなく無事終わることができた。



登頂前の説明



地形について解説する仲里学芸員



嘉津宇岳登頂後の参加者

## 第10回 学芸員講座「国頭村宜名真沖で沈没した謎の異国船を追え！」

日時 2014年1月11日（土） 14:00～16:00 参加者85名

講師 片桐千亜紀（考古）

場所 博物館講座室

今回の講座は、考古学の研究成果がまとめられるまでの過程をひもとくという形で、講座が進められた。琉球王国末期には、琉球近海に多くの外国船が来航し、たびたび座礁沈没したとの記述が残されている。それと関連する遺跡として、国頭村宜名真集落に存在するオランダ墓、奥集落の鉄錨、各地に転用された石材（沖縄では採掘されない花崗岩）が紹介された。2003年から始まった宜名真沖海底の調査（第1次から第3次）では、考古班が海底調査を行い、歴史担当班が文献調査を進めていく中で、沈没した船の名称、乗組員氏名、香港から花崗岩を積載していた可能性など様々な事実が解明されていった。海底での調査は、陸上と違い様々な困難を極めるが、研究者の地道な調査から研究がまとめられていくことが伝わる講座であった。



会場の様子



古文書を解説する片桐学芸員



質疑応答の様子

## 第11回 学芸員講座「先生のための展示説明会～プチ解説をしてみたい先生のために～」

日時 2014年2月1日（土） 14:00～16:00 参加者55名

講師 岸本弘人（歴史）

場所 博物館講座室、常設展示室

当講座は、教師を対象に当館の総合展示室を利用して、沖縄の歴史を児童生徒に説明する時のポイントをレクチャーするという形で行われた。講座前半は、県内学校の博物館利用の現状や博物館総合展示室の構成、表示の見方などが説明された。総合展示室のプチ解説ポイントとして、日本史と対比させた琉球史の時代把握の方法、説明は短く行き資料をじっくり見せるようにする工夫、押さえない年代などが上げられた。講座後半は、実際に総合展示室において、展示解説が行われた。多くの参加者が、各ポイントでメモを取りながら真剣な眼差しで解説に聞き入っていた。授業で博物館を活用する時に、教師が解説を行うことで児童生徒の興味関心が引き出せるのではないかと。教師が博物館にある「もの」を活用し、授業へ還元できる非常に有意義な講座であった。



会場の参加者



解説をメモする参観者



ポイントを解説する岸本学芸員

## 第12回 学芸員講座「ウチナーンチュが好いた名器三線の音色

－2012年度名器三線の音聴取実験の結果を踏まえて－

日時 2014年3月1日（土） 14:00～16:00 参加者101名

講師 園原謙（美術工芸）

場所 博物館講座室、常設展示室

昨年、琉球王国時代の三線の音色を復元し、現代人が嗜好する三線の音色はどちらなのかという聴取実験が行われた。用いられた三線は、名器と呼ばれる「盛嶋、翁長、志多伯、湧川、富盛、江戸与那」の6挺。実験内容は、①絹絃とナイロン絃の違い②凹凸胴と扁平胴の違い③棹の新旧の違い④材質の違い⑤型の違い、対象者はA三線製作者、B入賞歴有実演者、C嗜む人、D疎遠者で行われた。実験結果から音色のとらえ方は、対象者によって違いがあることなどが解説され、実験継続の必要性があるとのことだった。講座後半は、文化財指定に向け戦後開拓し、9500挺の三線調査が行われ、350挺の三線がハワイにあることなどが紹介された。また、明治時代の新聞記事から明治33年頃、三線の弾き合い大会が行われていたのではないかという内容も紹介された。企画展「三線のチカラ－形美と音の妙－」では、多くの参観者が解説に聞き入っていた。ウチナーンチュの三線観について時代を超え考える講座となった。



会場いっぱいの参観者



展示室で解説する園原学芸員



解説に聞き入る参観者

（金城久枝）

# 南の島の ゆるゆる洞窟探検記～化石調査

「藤田学芸員をさがそう！」  
写真のどこかに必ずいます。



沖縄県立博物館・美術館の学芸員になって7年目、港川人のような大発見をしたいと化石調査に励みつづけています。碧い海と白い砂浜、沖縄の美しく豊かな自然には目もくれず、「穴があつたら入りたい」という不思議な人たちが（洞窟探検家）に誘われて、気がつくとも暗く湿った洞窟ばかりを調査してきました。沖縄県内だけでなく、東アジア最古の人骨が発見されたマレーシアのニアア洞窟など海外に行くこともありました。

今回は、そんな学芸員の洞窟調査の日々や、そこでの発見をご紹介します。まだ、誰にも言っていないちょっとした発見も、こっそりお教えしちゃうかも。

## 博物館学芸員講座

2013年

**4月13日**  
14時～16時 **入場無料**  
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

藤田 祐樹 (人類担当学芸員)  
80名 (事前申込不要、当日先着)

キーワード：所長室、化石調査、動物化石、洞窟探検、ハード系調査隊 (Fossil Hunter) 専門家の化石調査現場レポート (図)

講師 (上から)：①東アジア最古の人骨が発見されたマレーシアのニアア洞窟 (中央付近の小さな二本の棒のようなものを学芸員) ②沖縄県内の強い水脈を探検して発掘する「学芸員」(一冊、おぼれかけした) ③日本で初めて化石調査が開始された地層学専攻の学芸員 ④調査隊80名の歴史をリポートしたレポートをめぐって語りへん!

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

●キーワード：生物多様性、生き物、ゾウクジラ、ヒグマ、ヤンバルクイナ、アホウドリ、タカアザミ

博物館特別展  
関連イベント



# 「目からウロコの ～生き物よもやま話～ 大生き物展！」

ミサゴ

## 博物館学芸員講座

2013年

**5月4日**  
14時～16時 **入場無料**  
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

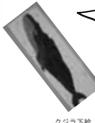
山崎 仁也 (生物担当学芸員)  
80名 (事前申込不要、当日先着)

座学!



①前半 14:00～15:00  
生き物ってなんだろう?からはじまり、日本の様々な生き物を紹介します。北海道のヒグマ、クリオネから、沖縄のヤンバルクイナまで、夏休みの「目からウロコの大生き物展」に登場する生き物たちをこっそり解説しちゃおうぞ!

実習!



②後半 15:00～16:00  
沖縄で見られる一番大きな生き物「ゾウクジラ」の実物大なベストリーをみんなで作ろう!大きな布に、色を塗っていくよ。自分の描きたい生き物を余白に描いてもOK。ゴールデンウィークの最後に、思い出作ってね。

対象：子ども～大人まで (お子様のみ参加可)

博物館特別展  
「高山川のおくりもの目からウロコの大生き物展-生物多様性ホットスポット JAPAN-」 平成25年7月12日(金)～9月1日(日)開催!

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

# 土器の話 一かけらが語る 島と人の6000年

○キーワード：土器、考古学、沖縄、船土、文様

南城市武志河通跡(ガンガラーの谷内)出土土器片

人類が、粘土を火で焼き締めて土器を作るようになったのは、今から1万数千年前頃だといわれています。土器を使う生活の始まりは、それまでの狩猟採集生活を一変させる大きなできごとでした。沖縄では、約6000年前の爪形文土器から、グスク土器やババリ焼きに至るまで、長期にわたって独自の土器文化が育まれてきました。県内各地の遺跡からは、当時の人々が使った土器のかけらがたくさん発掘されています。

遺跡から発見される土器のかけらを通して、当時の人のくらしや文化について、どんなことがわかるのでしょうか。沖縄土器研究の最前線についてわかりやすく紹介します。

講座終了後に展示解説会を行います。  
時間：15:30～16:00(予定)  
会場：博物館常設展示室/当日入場券が必要  
※講座参加者には、博物館講座室内で団体料金(大人320円)にて入場券を販売します。



下田原式土器

## 博物館学芸員講座

2013年

**6月1日**  
14時～16時 **入場無料**  
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

山崎 真治 (人類担当学芸員)  
80名 (事前申込不要、当日先着)

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

# 博物館の裏側には何が... 博物館バックヤード探検!

## 博物館学芸員講座

2013年

**8月3日**  
10時～12時 **入場無料**  
(開場9時半)

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館実習室

博物館の裏側??普通は見ることのできない博物館の裏側を探検隊になったつもりで、調査してみない?バラバラに置いてある?..「あれは何?」  
こんなところに冷蔵庫?いったいくつの部屋?  
約1時間バックヤードツアーに参加した後、探検報告書を作成します。探検内容をまとめて、みんなをビックリさせよう!夏休みの自由研究1つクリアかも!!

講師：金城久枝 (教育普及担当)  
対象：15名 (小学校3年生～中学校3年生)  
申込期間：7月26日(金)18時まで  
申込方法：事前申込制 (TEL、来館)

※開場の都合上、申込者以外の参加はできません。お子様のみ参加とさせていただきます。  
但し、集合場所への送迎は保護者の責任のもと、行ってください。  
※応募者多数の場合は、抽選となります。  
※参加していたいただける方のみ7:30(入)までにハガキまでご連絡します。

○キーワード：探検、裏側、部屋、冷蔵庫、自由研究

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館



# イロイロな

# 「色」のはなし

博物館学芸員講座

2013年

**9月7日**  
14時～16時  
(開場13時半)

入場無料

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

與那嶺 一子 (美術工芸担当学芸員)  
80名 (事前申込不要、当日先着)

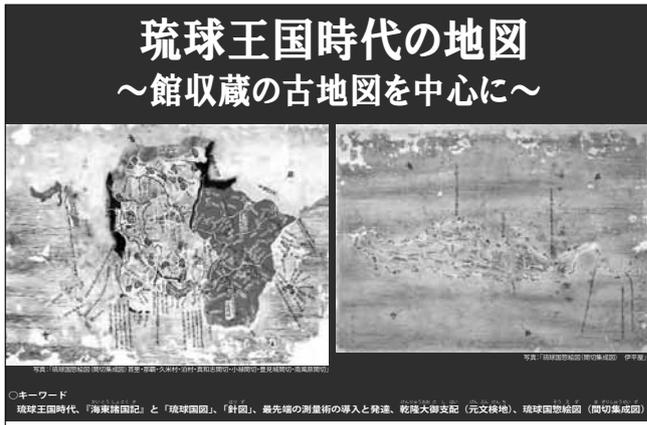
史料から見えてきた、染織にまつわる「色」の話です。王国時代の「色」は、私たちが考える「色」と同じでしょうか？ 実は「色」は移り変わっていくもの…。そこを探ってゆくと、琉球の美意識に迫ることができるともかもしれません。

1487年、中国(明)皇帝から琉球国王へ宛てられた勅諭(重文)に登場する「玉色」という不思議な「色名」の謎解き、江戸に渡った黄絹布の「色」から見えてきた琉球王国の戦略など、染色技法ではない側面から、染織についてお話しします。

キーワード:「玉色」「玉色」「玉色」  
「久米織」「黄絹布」「玉竹」

※会場内は冷気が強くある場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。  
※軽装で参集される可能性があります。時間にご注意ください。

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館



# 琉球王国時代の地図 ～館収蔵の古地図を中心に～

キーワード:琉球王国時代、「海東諸国記」と「琉球図」、最先端の測量術の導入と発達、乾隆大冊支配(元文快地)、琉球国地地図(慶応集成図)

博物館学芸員講座

2013年

**11月9日**  
14時～16時  
(開場13時半)

入場無料

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

崎原 恭子(歴史担当学芸員)  
80名(事前申込不要、当日先着)

琉球王国時代(約15～19世紀)、琉球やその周辺を描いた地図が国内外各地で、様々な目的をもって製作されました。琉球ではいつから作成されたかはつきりませんが、18世紀に最先端の測量術を取り入れると、測量や製図の技術はめざましい発達を遂げ、現在の地図と比べても遜らない地図が作り上げられました。製作技術や年代の差はありますが、これらの地図(古地図)には「製作者のまなざし」と「当時の人々が知り得た情報」が含まれており、製作された時代を知る重要な手がかりが隠されています。

当講座では、最新の研究成果を盛り込みながら、地図(古地図)を通して見える琉球王国時代の沖縄をひも解くポイントを紹介いたします。

※講座終了後、希望者を対象に「琉球王国時代の古地図展」(10/19～1/13)の「展示解説会」を行います。会場:博物館常設展示室・歴史部門展示室/当日入場券が必要(講座参加者には博物館講座室内で団体料金にて入場券を販売いたします。)

※会場内は冷気が強くある場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館



# 藍壺から琉球藍の 製藍業をさぐる

博物館学芸員講座

キーワード:リュウキュウアイ 琉球藍 染料 藍壺 藍飯 やんばる 遺構

2013年

**11/23日**  
10時～12時  
(開場9時半)

入場無料

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

大湾 ゆかり(民俗担当学芸員)  
80名(事前申込不要、当日先着)

沖縄の染織物において琉球藍は欠くことのできない藍染料である。キツノマゴ科の植物を原料にしたこの天然染料は、戦前の沖縄では本島北部地域を中心に広く製造されていたが、合成染料の移入や衣服の変化等によって衰退した。当時の榮華を物語るかのように、やんばるの森の中には今も藍壺の遺構が残されている。今回は、これまで見てきた藍壺の遺構の形状や分布から当時の製藍業の諸相を述べ、あわせて古い藍壺での製藍方法について紹介する。

※会場内は冷気が強くある場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館



# 仲里学芸員と行く かつうだけ 嘉津宇岳ジオツアー

ジオ(geo)とは、「大地」「地球」という意味です。

参加条件:  
◆山登りレベル中級  
①小学校5年生以上の健康で体力に自信のある方  
②軽登山靴をお持ちの方  
③沖縄の地形の特徴を体感したい方  
参加費:500円(1人/保険代/当日集金します)

仲里学芸員

博物館学芸員講座

2013年

**12月7日[土]**  
10時～13時(現地集合・解散)  
かつうだけ  
名護市 嘉津宇岳

講 仲里 健(地学担当学芸員)

対象:15名(小5～大人、但し小中学生は保護者同伴)  
申込期間:11/15(金)～11/22日(金)  
申込方法:事前申込制(TEL、来館)

ジオツアーとは、地球科学(地理学や地質学)の専門家による解説を聞きながら、自然景観の仕組みや成り立ちを説明するツアーです。今回は、嘉津宇岳に登り、本部半島の石灰岩とカルスト地形について学びます。

■日程【予定】  
10:00～10:10 勝山公民館集合・受付(10分)  
→10:10～10:25 事前説明(15分)  
→10:25～10:35 登山口に車で移動(5分)  
→10:35～11:30 登山(1時間)  
→11:30～12:00 登頂・解散(30分)  
→12:00～12:50 下山(50分)  
→12:50～13:00 までと解散(10分)  
※現地集合、現地解散となります。  
※安全管理のため、雨天中止とさせていただきます。(前日雨が降る場合も中止、後日詳細をお伝えします。)

■服装・持ち物  
①帽子②長袖③長ズボン④軽登山靴⑤両手があくかん⑥軍手⑦飲み物(500ml以上がベスト)⑧タオル  
嘉津宇岳に初めて登ったスタッフの感想  
「崖の足元のため11月初めに登りました。登山靴の履き心地によって、周りの景色が見えないうらい木々が生い茂る道を歩いたり、両手を使って岩壁を這うことは、とても新鮮でした。頂上からの景色は素晴らしい、三角形の岩ゴツゴツ山が360度見渡すことができます。地図や写真では味わえない自然の雄大さと、実体験に基づいた知識を得ることができました!」

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館



## 国頭村

# 宜名真沖で沈没した 謎の異国船を追え!

写真左:「国頭村真沖の西型船墓」、写真右:「オランダ墓」

### 博物館学芸員講座

キーワード: 水文化遺産、水中考古学、オランダ墓、異国船、西型船墓、琉球王国、アメリカ人郷土史家

2014年

# 1月11日

## 14時~16時

入場無料  
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

片桐 千亜紀(考古担当学芸員)  
80名(事前申込不要、当日先着)

沖縄県国頭村宜名真集落の南のはずれに「オランダ墓」と呼ばれる墓碑がひっそりと立っている。この墓碑には、琉球王国末期に座礁・沈没した異国船に関する事件とその顛末が刻まれており、地下にはこの時漂着した船員の遺体が眠っているという。陸上にはこの異国船のもので伝わる鉄鍬や石材が残されており、船の実在を裏付ける物的証拠となっている。2003年、オランダ墓の存在を手掛かりに海底調査が行われ、この異国船の残骸と考えられる水中遺跡が発見された。以来10年、この異国船に関する調査・研究が継続的に実施されており、事件の実態が次第にあきらかになってきた。講座では、少しずつ進展する調査・研究の成果をドキュメンタリータッチで紹介する。

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。



写真右:「異国船の鉄鍬と石材」

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館)  
●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

# 先生のための展示説明会

~7千解説をしてみたい先生のために~



写真:「琉球王国の歴史と文化」

### 博物館学芸員講座

2014年

# 2月1日

## 14時~16時

(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

岸本 弘人(歴史担当学芸員)  
80名(事前申込不要、当日先着)

県内の先生方を対象に、総合展示室(沖縄の通史展示)の見どころ解説や、児童生徒に展示内容を説明する時のポイントをレクチャーします。「博物館に行ったことないし、歴史は難しそうじゃよと・・・」という先生でも大丈夫!というよりも、そういう先生を主な対象とします。校外学習のときに少しでも生徒に説明をしたい、より効果的に学ばせたいといった考えをお持ちの先生方の参考になる講座です。

30分程度の座学の後に、展示室で資料を見ながら解説を行います。

※当講座は学校の先生方向けの講座ですが、一般の方も参加可能です。また、講座参加者には博物館講座室内で、団体料金にて展示室入場券を販売いたします。

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館)  
●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

# ウチナンチュが好いた 名器三線の音色

—2012年度名器三線の音聴取実験の結果を踏まえて—



写真:「5種の名器三線と江戸琴 音色と名器三線研究会発表会」  
●キーワード: 三線、ウチナンチュ、名器三線、音聴取実験、音色、三線、ウチナンチュ、名器三線、音聴取実験

### 博物館学芸員講座

2014年

# 3月1日

## 14時~16時

(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館  
1階 博物館講座室

園原 謙(美術工芸担当学芸員)  
80名(事前申込不要、当日先着)

平成24年(2012)に開催した学芸員講座では、受講者自身がモニターとして、その自慢の耳で名器三線の音色を選んでもらう参加型の講座を行い、実験アンケートにご協力いただきました。

今回の講座では、その調査結果を紹介するとともに三線の企画展に伴い、新たに5つの開鐘三線と江戸琴の音色を収録する機会を得ましたので、その音色も聞いていただきます。また、明治の新聞で紹介される「三味線会」や「鼓鳴会」とはどのようなものであったのか、王国解体後のウチナンチュがこだわった三線の音色や三線観を紹介します。

講座終了後は、企画展「三線のチカラ—形的美と音の妙—」開催中につき、学芸員が展示資料の見どころについて、展示解説会(1時間程度)を行います。

※講座は無料ですが、展示解説会に入場券が必要です。

※展示解説会にご参加される講座参加者には、博物館講座室で団体料金にて入場券を販売いたします。



写真:「名器三線研究会発表会」

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館)  
●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

## VI 展示解説会

### 1 博物館展示解説会実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説を通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第2木曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館常設展示室

#### (4) 受講方法

定員なし（事前申込不要、13：55にふれあい体験室に集合）

#### (5) 日程

	日程	分野	講師名	参加者	ボランティア
1	4月27日（木）	考古	片桐千亜紀	23	10
2	5月9日（木）	人類	藤田祐樹	16	7
3	6月13日（木）	美術工芸	與那嶺一子	17	12
4	7月11日（木）	歴史	岸本弘人	14	10
5	8月8日（木）	生物	山崎仁也	10	4
6	9月12日（木）	民俗	大湾ゆかり	28	9
7	10月10日（木）	人類	山崎真治	6	4
8	11月14日（木）	地学	仲里健	16	6
9	12月12日（木）	民俗	久場政彦	17	10
10	1月9日（木）	生物	山崎仁也	13	8
11	2月13日（木）	歴史	崎原恭子	25	16
12	3月13日（木）	美術工芸	園原謙	25	8
合計人数				210	104

## 2 実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが全体の約50%を占め、その他年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。常設展の展示解説会は、各学芸員が1回ずつ担当し、全12回210名（定員なし、平均参加人数18名）の参加を集めた。

企画展・特別展における展示解説会では、全7回208名（定員なし、平均参加人数30名）の参加者があった。企画展「海・山・川のおくりもの目からウロコの生き物展～生物多様性ホットスポット JAPAN」では7名が参加し、海・山・川に生息する、それぞれの生物の特徴などについて解説を実施した。また、企画展「サキタリ洞遺跡発掘調査速報展」では、1日2回・全4回141名（定員なし、平均参加人数35名）が参加。人類の誕生地から、サキタリ洞での発掘・調査について、展示物と共に解説した。各回30名を超す参加者が集まり、質疑応答も活発に行われた。企画展「三線のチカラ—形の美と音の妙—」では、60名（定員なし）が参加した。学芸員講座後に開催したこともあり、講座で話した三線の歴史や展覧会に向けて調査した聴取実験の結果などを解説した。（亘保・大濱）

### 学芸員による展示解説会 定員なし

	日程	テーマ	講師名	参加者	ボランティア
1	8月8日（木）	「海・山・川のおくりもの目からウロコの生き物展～生物多様性ホットスポット JAPAN」	山崎仁也	7	7

### 学芸員による展示解説会 定員なし

	日程	テーマ	講師名	参加者	ボランティア
1	2月20日（木）	「サキタリ洞遺跡発掘調査速報展」関連 展示解説会	山崎真治	39	6
2				32	3
3	2月22日（土）		藤田祐樹	39	3
4				31	6

### 学芸員による展示解説会 定員なし

	日程	テーマ	講師名	参加者	ボランティア
1	3月1日（土）	「三線のチカラ—形の美と音の妙—」	園原謙	60	10

## Ⅶ バックヤードツアー

### 1 バックヤードツアー実施要項

#### (1) 主旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

#### (2) 内容

普段見る事のできない博物館内の各部屋を見学する。

#### (3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第1土曜日 午後2時～3時までの1時間  
場 所：博物館バックヤード

#### (4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。  
定 員：12名（当日先着順）

#### (5) 実施状況

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室（書庫）～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やI P M（Integrated Pest Management：総合的病害虫管理）の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行者を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全12回104名（定員12名、平均参加人数8名）の参加があった。

（大瀨萌子）

#### (6) 日程

	日程	講師名	定員	参加者
1	4月27日（土）	崎原恭子	12	11
2	5月18日（土）	藤田祐樹	12	12
3	6月22日（土）	山崎真治	12	2
4	7月27日（土）	大湾ゆかり	12	12
5	8月24日（土）	岸本弘人	12	12
6	9月28日（土）	與那嶺一子	12	8
7	10月26日（土）	金城久枝	12	3
8	11月23日（土）	山崎仁也	12	10
9	12月14日（土）	仲里健	12	6
10	1月25日（土）	園原謙	12	6
11	2月22日（土）	久場政彦	12	13
12	3月22日（土）	片桐千亜紀	12	9
合計人数			144	104

※5月18日は、国際博物館の日のため、10：00～11：00

## VIII 夏休み！博物館学芸員教室

### 1 夏休み！博物館学芸員教室実施要項

#### (1) 主旨・目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

#### (2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

#### (3) 実施方法

対 象：県内の小学生・中学生

実施日：平成25年7月31日（水）から8月2日（金）まで

時 間：10：00～16：30 ＊1教室およそ90分程度

定 員：各分野20名程度（当日先着順） ＊教室によって変更あり

参加料：無料

場 所：実習室を中心に。

#### (4) 受講方法

①各分野の担当学芸員日程表をチラシ等で表示し、参加者を募る。

②事前申込制 ※応募者多数の場合抽選

③各担当学芸員の指示のもと、諸注意を守り受講する。

### 2 実施状況

日時	7月31日（水）		8月1日（木）		8月2日（金）	
10:00 ～ 11:30	印じゃなーい？ 岸本 弘人 （歴史担当） 材料費1,000円	参加者 10人	糸を作ってみよう！ ～着るものにどれだけの 生き物を利用してきたのか～ 與那嶺 一子 （美術工芸担当） 材料費500円	参加者 10人	民具手帳をつくろう！ 大湾 ゆかり （民俗担当） 材料費200円	参加者 19人
13:00 ～ 14:30	動物の歯と食べ物の 関係を研究せよ 藤田 祐樹 （人類担当） 材料費300円	参加者 21人	神が宿る石「勾玉」を 削りだそう！ 片桐 千亜紀 （考古担当） 材料費500円	参加者 20人	砂の中から宝を探せ 仲里 健 （地学担当） 参加無料	参加者 15人
15:00 ～ 16:30	動物の歯と食べ物の 関係を研究せよ 藤田 祐樹 （人類担当） 材料費300円	参加者 20人	神が宿る石「勾玉」を 削りだそう！ 片桐 千亜紀 （考古担当） 材料費500円	参加者 17人	砂の中から宝を探せ 仲里 健 （地学担当） 参加無料	参加者 15人

\* 15：00以降の3コマ目は、応募者多数の為、増設

\* 応募総数253人 / 参加者数：147人（定員150人）

## ☆印じゃなーい？

印じゃなーいでは、普段気に留めることのない、書や絵、文書に押されている印の役割について考え、好きな文字で印作りが行われました。



## ☆動物の歯と食べ物の関係を研究せよ

動物の歯をじっくり観察することから、食べ物による歯の構造の違いに気づき、肉食動物？雑食動物？と参加者は興味を持ってスケッチに取り組んでいました。



## ☆糸を作ってみよう！

糸作りでは、材料となる植物の苧麻観察やカイコから糸がとれる工程等を体験し、ものを作り出す大変さ生物の大切さを実感したようでした。



## ☆神が宿る石「勾玉」を削りだそう！

勾玉作りでは、オリジナルの勾玉作成が行われ、研磨に手こずりながらも、権力の象徴として神が宿る石とされた勾玉の歴史やお守りとしての役割を知る機会となりました。



## ☆民具手帳をつくろう！

民具手帳づくりでは、オリジナル民具手帳を作成し、展示室で昔の道具を調べ、現在と昔の生活の違いをノートにまとめました。



## ☆砂の中から宝を探せ

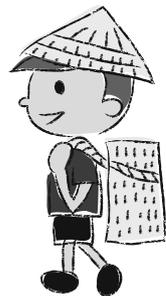
砂の中から宝を探せでは、星砂と呼ばれる砂が実は 有孔虫の遺骸で、海砂には他にも生物遺骸が含まれていることを実体顕微鏡で海砂を観察し発見することができました。



(金城久枝)

なつ やす はくぶつ かんがくげい いんきょうしつ

# 夏休み！博物館学芸員教室 2013



面白くてためになる。答えを教えるのではありません。  
子どもたちに疑問を抱くきっかけや、その疑問を解決する方法を伝授します。  
場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

🕒 10:00～11:30

## 1. 印じゃなあーい？

博物館のあちこちに展示されている書、絵、文書などにおかれているものが「印」です。その役割について考え、自分の好きな文字でオリジナルの「印」をつくろう！

講師：岸本 弘人（歴史担当）

- ◎対象：小3～中3（小学生は保護者同伴）
- ※印刃を使います。安全管理上、小さいお子さんの同伴はご遠慮ください。
- ◎定員：10人 ◎参加費：1,000円（印刃、印材を含む）



7/31（水）

🕒 13:00～14:30

## 2. 動物の歯と食べ物の関係を研究せよ

歯を見ると彼らが、何を食べているのか、わかるんです！肉食動物なのか？植物食動物なのか？それとも雑食動物なのか？観察のポイントを伝授します。歯の骨格レプリカをつくって、研究材料にしよう！

講師：藤田 祐樹（人類担当）

- ◎対象：小1～中1（小3以下保護者同伴）
- ※お湯を使います。安全管理上、小さいお子さんの同伴はご遠慮ください。
- ◎定員：20人 ◎参加費：300円



🕒 10:00～11:30

## 3. 糸を作ってみよう！

～「着るもの」にどれだけの生き物を利用してきたのか～

着物は生き物からつくられているって知ってる？植物や蚕の真綿から糸をつくり、一着の着物を作るためにどれだけの生き物が必要なのかを調べよう。

講師：與那嶺 一子（美術工芸担当）

- ◎対象：小4～中3 ◎定員：10人 ◎参加費：500円



8/1（木）

🕒 13:00～14:30

## 4. 神が宿る石「勾玉」を削りだそう！

「勾玉」とは、琉球王国時代、神女にとってかかせない神具でした。それは、石を丁寧に削りだして作り上げたのです。私たちが石を削りだしてモノを作る方法を学びましょう。

講師：片桐 千亜紀（考古担当）

- ◎対象：小1～中3（小3以下保護者同伴）
- ◎定員：20人 ◎参加費：500円



🕒 10:00～11:30

## 5. 民具手帳をつくろう！

昔の暮らしに使われた道具にはどんなものがあるのかな？自分のオリジナルノートをつくり、いろいろな民具を調査して、書き込んでいこう！

講師：大湾 ゆかり（民俗担当）

- ◎対象：小3～中3 ※ハサミ、製本用針を使います。安全管理上、小さいお子さんの同伴はご遠慮ください。
- ◎定員：20人 ◎参加費：200円 ※博物館常設展の入場券が必要です。



8/2（金）

🕒 13:00～14:30

## 6. 砂の中から宝を探せ

海の砂をよ～く見ると、様々な生き物のカケラが見つかります。白い砂も、実はある生き物の死がいて知ってる？黒い砂の中からはなんと宝石のカケラが！実体顕微鏡を使って観察しよう。

講師：仲里 健（地学担当）

- ◎対象：小3～中3まで（小学生は保護者同伴）
- ◎定員：9人 ◎参加費：無料



応募票

住所：〒	—	
電話：自宅TEL	携帯TEL	参加を希望される教室番号に1つ○を付けてください。 参加希望教室：1・2・3・4・5・6
ふりがな		
名前：（本人）	（保護者）	年齢： 才（小・中 年生）

※応募には保護者の承諾が必要です。※個人情報保護法に基づき、応募票に関わる個人情報の取り扱いについては十分留意します。

●申込期間：7月14日（日）～21日（日） ●申込方法：事前申込。参加したい講座を1つ選び、当チラシの応募票に必要事項をご記入の上、FAX・郵送・来館（総合案内）にて、ご提出下さい。  
※応募者多数の場合は、抽選にて当選者のみ7/26（金）までにハガキで通知します。※電話での申し込みはできません。※郵送、来館の場合は、コピーした用紙を提出して下さい。※当チラシ（応募票）は、当館HPでダウンロードできます。 www.museums.pref.okinawa.jp

●お申し込みFAX先：098-941-2392  
●お申し込み郵送・来館先：〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 文化の杜共同企業体 「夏休み！博物館学芸員教室」係（担当：渡部）  
◆主催・お問い合わせ先：同館TEL.098-941-8200

## Ⅹ ふれあい体験室

### 1 ふれあい体験室の概要

#### (1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

#### (2) 体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

#### (3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

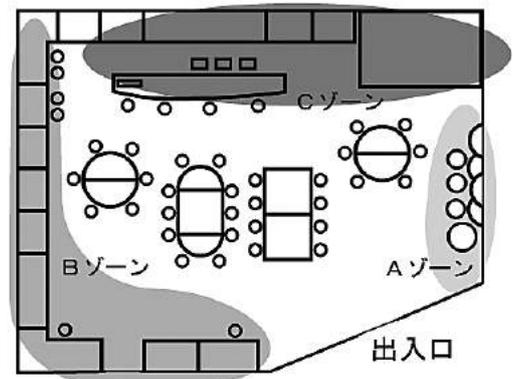
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

#### (4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

体験キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ <b>A</b>	<b>【見る・触る】</b> ・直感的に（一見して）内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 *来館者によっては手助けが必要。
グループ <b>B</b>	<b>【聞く・比べる・聞ける・押す】</b> ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されていて、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 *来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ <b>C</b>	<b>【組み立てる・作る・分類する】</b> ・作業を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者によっては手助けが必要ない場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



## 2 体験キットの種類

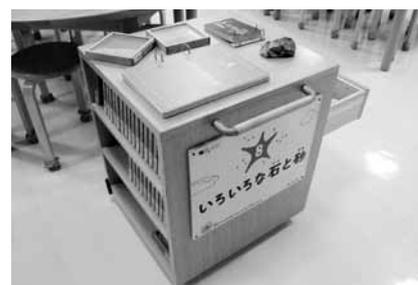
大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル			
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ？	1	サインを見のがすな！	自然史		
			2	小さな生き物の大きな仕事			
			3	耳をすませば			
			4	この骨だれの？			
			5	サンゴと生きる			
		自然のすがた	6	いろいろなタネ			
			7	いろいろな木と草			
			8	いろいろな石と砂			
			9	見える星座・見えない星座			
			地史	地下にねむる歴史のなぞ		10	化石 ～生きたあかし～
	11	港川人研究所					
	12	土層と遺物からわかること					
	13	石で築く					
	人々の暮らし	食の知恵		14	ヌチグスイ	民俗	
				15	イノー ～海の食料庫～		
		食の習わし		16	御三味（ウサンミ）		
		生活のくふう		17	いろいろな道具		
		沖縄のコトバ	18	島のコトバ			
		シマの心	19	いろいろな玩具			
			20	いろいろな楽器			
		色のひみつ・形のふしぎ	21	衣からわかること	美術工芸		
			22	焼物 ～かたちのわけ～			
			23	漆 ～飾るたのしみ～			
		国のかたち		24	印かんってなあに？	歴史	
				25	島のかたち		
				26	記録のくふう		
				27	国々とのおつきあい		



No. 5



No. 14



No. 8

## 3 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は常駐の職員1名（文化の杜共同企業体）と、1日3交替の博物館ボランティアスタッフで運営している。

職員は、常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ4名で構成。所定の研修を受けた「ふれあいスタッフ」を、配属している。ボランティアスタッフは、曜日別の班で活動を行い、各所属班内で世話係が連絡調整することにより、安定した活動を維持する体制ができあがっている。ふれあい体験室の「ふれあい空間づくり」には、ボランティアスタッフのサポートが大きな力となっている。

## 4 利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、53,140人（1日平均174人）。県内外より展覧会に訪れる来館者をはじめ、幼児から小学生の家族連れや友達同士で訪れるリピーターが定着している。常設している27件の体験キットは種類が豊富なため、リピーターのこどもたちは成長に合わせ、楽しめる幅を広げて利用している。開設から6年が経過したふれあい体験室は、来館者とスタッフが顔なじみになるなど、博物館の交流の場となっている。

毎週土曜日に開催している「ふれあい体験室ワークショップ【5-(1)】」は、4年目になりプログラムの充実を図ったことで参加者が増加している。ワークショップの開催は来館を促すきっかけとなり、飽きさせない環境づくりになっている。

## 5 ふれあい体験室の取組み

### (1) ふれあい体験室ワークショップ

今年度のふれあい体験室ワークショップは、体験キットを充実・発展させることを目的に、各分野担当学芸員や専門の指導者と協力して4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度を低くすることや、短時間で取り組める内容を選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博士カード」を配布した。「博士カード」は、集める楽しさも取り入れたことで、リピーターの姿もみられた。（主催：文化の杜共同企業体）

場所：ふれあい体験室前エントランスホール 講師：ふれあい体験室スタッフ1名

（文化の杜共同企業体：渡部貴子、平良尚人、三枝大悟、比屋定智子、渡久山海理）

対象：5才～大人（小3以下、保護者同伴）

参加者数：1,326人／一日平均28人

#### ① ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

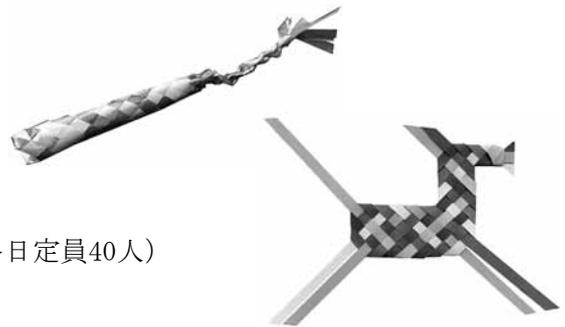
内 容：体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、マーニー（クログ）やアダンの葉でつくった昔のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープで作製した。

日 時：4月～6月の毎週土曜日（6/29休館）

- 1回目10:00「馬グワー」
- 2回目10:30「カエル」
- 3回目11:00「星コロ」
- 4回目11:30「ハブグワー」

参加費：100円

参加者数：330人（開催日数12日／一日平均28人／各日定員40人）

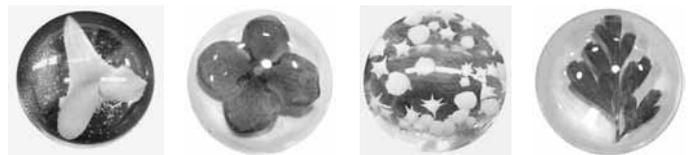


#### ② ふれたい博士の「封入標本」

内 容：体験キットNo.2「小さな生き物の大きな仕事」から、乾燥標本をプラスチック樹脂で固め「封入標本」を作製した。

日 時：7月～9月の毎週土曜日

- 1回目10:00「サメの歯の化石」
- 2回目10:30「サンダンカ」
- 3回目11:00「星砂」
- 4回目11:30「ホラシノブ」



参加費：100円

参加者数：641人（開催日数13日／一日平均49人／8/10以降、各日定員を40人→60人へ増員）

監修協力：山崎仁也（生物担当）、中島トモ子氏、島袋美智子氏（ふしぎな花倶楽部講師）



ふれあい体験室 毎週土曜日

馬グラー ①1000~

かえる ②1030~

星コロ ③1100~

はぶグラー ④1130~

ふれあい体験室ワークショップ

ふれあい体験室ワークショップってなに？  
【毎週土曜日】3ヶ月ごとに、プログラムが変わる教室に参加すると、ふれあい体験室で体験したことが、「なるほど!」(理解)につながって、もっとうちがやくなるよ。  
※つくったものは、お持ち帰りできます。

2013年4・5・6月は  
ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

ふれあい体験室体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、マーニー(クロググ)やアダンの量でつくった音のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープでつくります。

日程: 4月6日・13日・20日・27日  
5月4日・11日・18日・25日  
6月1日・8日・15日・22日  
※6月29日は館内消毒休館の為、開催しません。

1回目 10:00「馬グラー」  
2回目 10:30「かえる」  
3回目 11:00「星コロ」  
4回目 11:30「はぶグラー」

場所: 沖縄県立博物館・美術館 ふれあい体験室前

受付: 当日先着40人(各回10人)

※9:00よりふれあい体験室にて受付をします。募集人数に達し次第、終了。

対象: 5才~大人(小3以下、大人といっしょに参加)

参加費: 各回100円

5月5日(日)・6(月祝)  
13:00~17:00  
正面玄関横 100円  
Chiri(チリ)でちぎり絵

9:00-0006 那覇市おもちゃまち3-1-1 Tel.098-941-8200  
●沖縄県立博物館・美術館ホームページ http://www.museums.pref.okinawa.jp  
●休館日 月曜日(4/12除く)、月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館日  
●開館時間 9:00~18:00(金・土は20:00まで)  
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の社共同企業体 わたべ

ふれあい体験室 毎週土曜日

ワークショップ

ふれたい博士の「封入標本」

2013年7・8・9月は

ふれあい体験室体験キットNo.15「小さな生き物の大きな仕事」に登壇する封入標本をつくってみよう!  
生き物の標本や星砂、化石(サメの歯)などを透明なプラスチック樹脂で閉じ込めてつくります。直接標本に触れることができなくなる代わりに、壊れにくく、臭いやカビなどから標本を守れるよ。さらに、上下左右あらゆる角度から観察ができます。  
つくったものは、お持ち帰りOK。

日: 7/6・13・20・27  
8/3・10・17・24・31  
9/7・14・21・28

時間: ①10:00「サメの歯の化石」  
②10:30「植物(サンダンカ)」  
③11:00「星砂」  
④11:30「植物(ホラシノブ)」

※都合により、植物の種類が変更になる場合があります。

場所: 沖縄県立博物館・美術館

ふれあい体験室前

受付: 当日先着 60人(各回15人)

※9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5才~大人  
※小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 100円

9:00-0006 那覇市おもちゃまち3-1-1 Tel.098-941-8200  
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の社共同企業体 わたべ  
●協力 小さな生き物イラストレーター 星保智子、中島トモ子  
●休館日 月曜日(祝日の場合は、翌平日) ●開館時間 9:00~18:00(金・土は20:00まで)

ふれあい体験室ワークショップ 毎週土曜日

2013年10・11・12月は

ふれたい博士の「小さな体験キットNo.17」いろいろな道具

パーキづくり

「パーキ」ってなに?  
沖縄の暮らしのなかで使われてきた道具のひとつで、竹で編んだ背の低いカゴを「パーキ」といいます。ワークショップでは、頭の上のせて野菜や魚を運んだ、編み目の粗い「アラパーキ」を竹の代わりにPPバンド(梱包用テープ)でつくります!  
つくったものはお持ち帰りできます。  
※「パーキ」の呼び方は、地域によって異なる場合があります。

日: 10/5・12・19・26  
11/2・9・16・23・30  
12/7・14・21・28

時間: 1回目 10:00(所要時間45分)  
2回目 10:45  
3回目 11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館  
1階ふれあい体験室前

受付: 当日先着 30人(各回10人)  
※9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5才~大人  
※小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 150円

※大きさは、幅10cm×高さ6cm

9:00-0006 那覇市おもちゃまち3-1-1 Tel.098-941-8200  
●沖縄県立博物館・美術館ホームページ http://www.museums.pref.okinawa.jp  
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の社共同企業体 わたべ  
●協力 おもちゃの絵/イラストレーター 土塚実穂  
●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館日)、年末年始12/29~31 ●開館時間 9:00~18:00(金・土は20:00まで)

ふれあい体験室ワークショップ 毎週土曜日

2014年1・2・3月は

ふれたい博士の「小さな体験キットNo.15」イノ海~海の食料庫~

ティラジヤーでヨマあそび!

ふれあい体験室体験キットNo.15「イノ海~海の食料庫~」に登壇する「マガキガイ」という貝は、沖縄で「ティラジヤー」や「コマガイ」と呼ばれ、潮干狩りで採集できる、とってもおいしい巻貝です。ワークショップでは、「ティラジヤー」の貝殻で、音のづくりおもちゃ、「カイガラコマ」をつくります。どうしたら貝殻が、よく回るコマに変身するのでしょうか?昔の人々の知恵が込められた、おもちゃづくりを体験してみよう!  
※「ティラジヤー」の呼び方は、地域によって異なる場合があります。

日: 1/4・11・18・25  
2/1・8・15・22  
3/1・8・15・22・29

時間: 1回目 10:00(所要時間30分)  
2回目 10:30  
3回目 11:00  
4回目 11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館  
1階ふれあい体験室前

受付: 当日先着 40人(各回10人)  
※9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5才~大人  
※小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 100円

9:00-0006 那覇市おもちゃまち3-1-1 Tel.098-941-8200  
●沖縄県立博物館・美術館ホームページ http://www.museums.pref.okinawa.jp  
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の社共同企業体 わたべ  
●協力 おもちゃの絵/イラストレーター 土塚実穂  
●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館日)、年末年始12/29~31 ●開館時間 9:00~18:00(金・土は20:00まで)

(渡部貴子)

## X ボランティア養成事業

### 1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日  
館長決済

#### (趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

#### (博物館ボランティアの活動)

第 2 条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

#### (登録等)

第 3 条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票（第 1 号様式）により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長（以下「館長」という。）が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿（第 2 様式）へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証（第 3 号様式）を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消することができる。

#### (研修)

第 4 条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

#### (ボランティア室の設置)

第 5 条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

#### (庶務等)

第 6 条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

#### (雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

#### 付則

この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。

## 博物館「ふれあい体験室」専属ボランティア 募集要項

沖縄県立博物館・美術館では自己啓発の場を提供するとともに、博物館活動を活性化するために、博物館ボランティアの増員を計画します。

### 1 ボランティアの種類

《「ふれあい体験室」専属ボランティア》

土・日・祝祭日において、博物館「ふれあい体験室」の支援活動をおこなうボランティアです。

### 2 ボランティア活動の時間、内容

活動時間 9:00～18:00の時間内で、**自身の活動できる曜日と時間帯(1日3時間程度)**。

活動内容 「ふれあい体験室」にて来館者への体験サポート

### 3 募集人員・内訳

《「ふれあい体験室」専属ボランティア》 **7名程度**

### 4 応募資格・条件など

- ・ 18歳以上の、心身ともに健康な方
- ・ **9に示す養成講座をすべてを受講できる方。**
- ・ 各種講座修了後、6月に正式登録。登録後、**月に2日以上(1日3時間程度)**、当館においてボランティア活動ができる方。  
\*特典として、博物館常設展、県主催の企画展や特別展の入館料免除、月1回の ボランティア通信の送付。ボランティアを対象とした学習会への参加。

### 5 登録と活動

- ・ 所定の講座を終了した方を、ボランティアとして登録(博物館費用でボランティア保険加入)し、登録証交付式で配布される【ボランティア証】を着用し、活動を開始していただきます。
- ・ 登録期間は翌年3月31日までの1年間とします。
- ・ 翌年の継続登録を希望する方は、活動状況などの評価から、次年度研修の免除があります。
- ・ 一年に数回の、必須受講講座\*や、会議があります。

\* 第436回博物館文化講座「九州国立博物館におけるボランティア活動の実際」  
講師:上野知彦(九州国立博物館主任研究員)

日時:2013年9月21日(土)14:00～16:00 場所:沖縄県立博物館・美術館3階 講堂

### 6 ボランティア登録までの流れ

- 1) 募集期間 平成25年5月 1日(水)～5月15日(水)
- 2) 開講式 平成25年5月26日(日)
- 3) 登録申請(意思確認) 平成25年6月 8日(土)
- 4) 閉校式・登録証交付式 平成25年6月22日(土)

## 7 申込期間及び方法

受付期間:平成25年5月1日(水)～5月15日(水) 9:00～18:00 ※5/7(火)・13(月)は休館日

申込方法:「申込用紙」をFAX、郵送(締切日必着)もしくは、来館(総合案内に提出)の上、提出してください。

\* 定員を超える場合は先着順とします。

\* 「申込用紙」が提出され次第、館から電話連絡をします。その上で、講座に参加していただける方には案内ハガキを5/21(火)までに送付します。

問合せ先: **TEL(098)941-8200 FAX(098)941-2392**

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館 (担当:渡部・大濱)

## 8 養成講座の日時・場所

日時:平成25年5月26日(日)、6月8日(土)、6月22日(土)の10:00～12:00 計3日(6時間)

場所:沖縄県立博物館・美術館 1階ふれあい体験室・博物館実習室など

## 9 養成講座日程表

\* 講座の時間及び日程については、都合により変更することもあります。

	内 容	日 時	形態	担当学芸員
		10:00～12:00		
1	開講式/博物館活動について/ 博物館ボランティアについて/ IPMについて	5月26日(日)	講座	金城・渡部
2	ボランティア実習① ふれあい体験室について/ 体験キットについて/ 常設展示室との関連について	6月 8日(土)	実習	金城・渡部
3	ボランティア実習② ふれあい体験室での来館者を想定した 実地研修/意見・感想交換/ 閉講式・登録証交付式	6月22日(土)		金城・渡部



昨年度の研修の様子

## 平成25年度 博物館「ふれあい体験室」専属ボランティア養成講座実施計画

### 1 目的

本講座を通し、博物館ふれあい体験室についての理解を深め、体験キット等を活用し、一般来館者、学校団体対応ボランティア活動を円滑に行えるようにする。

### 2 対象

沖縄県立博物館・美術館 博物館「ふれあい体験室」専属ボランティア研修生

### 3 期日・時間

平成25年5月26日(日)、6月8日(土)、6月22日(土) 1000～1200(2時間)

### 4 場所

博物館常設展示室、ふれあい体験室、実習室

### 5 内容

- (1)ふれあい体験室について  
 (2)体験キットの解説 \*体験キットと展示室との関連

### 6 研修日程

2013/5～6 博物館教育普及  
 会場 実習室を中心に開催

日 時	内 容	形 態	担 当
5月26日(日)	☆開講式 司会(久田千春) (1) 開式のことば……司会 (2) 職員紹介……博物館教育普及 〈金城久枝、久田千春〉 ……文化の杜教育普及 〈渡部 貴子、大濱萌子、宜保はるな〉 (3) 日程説明……金城	式	金城・久田
10:15～12:00 *途中休憩有 *休憩中に 顔写真撮影	(1) 博物館ボランティアの登録について (申請書を見ながら) (2) 博物館ボランティアのてびき読合せ (3) 博物館ボランティアの活動について (前年度の活動紹介冊子より) (4) IPMについて (5) 諸連絡	講座	金城 顔写真撮影 …久田
6月8日(土)	☆ボランティア実習 (1) ボランティア室の利用について (2) ふれあい体験室について ・ふれあい体験室ボランティア活動のてびき読合せ	講座	金城・渡部
11:00～12:00	(1) 体験キットとふれあいシートについて (2) ふれあい体験室と常設展示室との関連について	実習	金城・渡部
6月22日(土)	☆ボランティア実習 (1) ペーシングによる接客 (2) ふれあい体験室での来館者を想定した実地研修 (3) 感想・意見交換	実習	金城・渡部
11:45～12:00	☆閉講式 司会(久田千春) (1) 開式のことば……司会 (2) 登録証交付……( 館長 安里 進 ) (3) 激励のことば……( 館長 安里 進 )	式	金城・久田

平成25年度博物館「ふれあい体験室」専属ボランティア養成講座修了者に対する

登録前の条件確認

□ チェックシート

6時間にわたるボランティア養成講座の受講、お疲れ様でした。この講座で

- ① 博物館について ② 博物館ボランティアの活動の概要 ③ ふれあい体験室の役目と位置づけが、大まかにでも、とらえる（考える）ことができたでしょうか。

◆ 登録の条件について （館が求めるボランティアへのご理解）



養成講座受講後、登録をおこない、館でのボランティア活動を開始して頂きますが、相互（館と登録者）の共通理解のもと、登録後の活動が円滑におこなわれるために、以下のことから（ボランティア登録の条件）をご確認いただきたいと思います。

チェック（確認）していただく文章は、「博物館ボランティアのてびき -2013年度版-」に示した内容を、チェックシート用書き換えたものです。

本趣旨をご理解の上、確認をお願いします。

※裏面をご確認下さい。

## ふれあい体験室 専属ボランティア登録に向けて **チェックシート**

館が求めるボランティアへのご理解と確認のために

氏名

\*「ふれあい体験室」におけるボランティアのてびき  
=以下 てびき

\*ふれあい体験室ボランティア活動=以下 ボランティア活動

\*不明な点は“てびき”を参照してください

- てびきに示す、“内容と目的”を理解したボランティア活動をめざします。
- てびきに示す、“運営の方針”を考えたボランティア活動をめざします。
- てびきに示す、“活動内容”に取り組みます。

当てはまる  当てはまらない

- 1 土・日・祝日のなかで、月に2日以上活動をします。
- 2 1回で3時間程度の活動をめざします。
- 3 館の定める遵守事項を守るよう努めます。

— 意見や要望 —

〈平成 25 年度〉 沖縄県立博物館・美術館 博物館ふれあい体験室専属ボランティア登録申請書〈1 年更新〉

①～⑭までもれなく記入して下さい

登録申請日 2013 年 月 日

	ふりがな			*写 真
①	氏 名			
②	会 員 番 号			
	職業*(現役者のみ)			
④	生 年 月 日	19( )年/平・昭( )年( )月( )日		
	ふりがな			
⑤	住 所	〒		
⑥	連絡先 自宅		携 帯	
	*職場(現役者のみ)		*メール	

⇒当てはまる□に  を入れてください。

⑦健康状態 *複数可 <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 体調にムラがある <input type="checkbox"/> 通院している <input type="checkbox"/> 他 ( )		⑧来館手段 *複数回答可 <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> モノレール <input type="checkbox"/> 他 ( )		⑨館までの所要時間 およそ ( ) 分
年	月	⑩ 職 歴		
⑪  どんな免許や資格がありますか				

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

<p>⑫活動曜日 と 所属曜日</p>	<p>※網掛け部分は、記入不要。</p> <p>活動可能な曜日 <b>*活動は、所属曜日班にしばらくはできません。複数回答可。</b></p> <p><input type="checkbox"/>火曜 <input type="checkbox"/>水曜 <input type="checkbox"/>木曜 <input type="checkbox"/>金曜 <input type="checkbox"/>土曜 <input type="checkbox"/>日曜 <input type="checkbox"/>祝日</p> <hr/> <p>希望する所属曜日班＝（ ）曜日班＝(情報や連絡を共有します)</p> <p><b>*必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の曜日班会議に出席ください。</b></p> <p><b>*希望者は、土・日いずれかの班へ加入も可能。</b></p>
<p>⑬活動可能な時間帯</p>	<p>( ) 時ごろ～( ) 時ごろ</p> <p>理由があれば ( )</p>

⇒当てはまる□に  を入れてください。

<p>⑭ 活動してみたい内容 <b>*複数回答可</b></p> <p><b>*自分の能力を活かし(できる・やってみたい)、希望する内容(分野)で活動する!</b></p> <p><input type="checkbox"/> 民具体験サポート <b>C</b> (小3 社会科 8月～3月)</p> <p><input type="checkbox"/> 誘導ボランティア (小・中・高・特別支援諸学校 4月～3月)</p> <p><input type="checkbox"/> 展示解説ガイド (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)</p> <p>案) 先生の要望に応じた解説、離島等の小規模校対応、ジブンボックスの配置など</p> <p><input type="checkbox"/> 資料整理活動 (4月～3月) *新聞スクラップ, 発送手伝い, ボランティア室の整美など</p> <p><input type="checkbox"/> ふれあい体験室の支援 (4月～3月)</p> <p><input type="checkbox"/> 体験学習教室の支援 (年数回)</p> <p><input type="checkbox"/> 一般来館者向け—展示解説ガイド <b>*検討中</b></p> <p><input type="checkbox"/> 博物館学校出前講座 (けんぱくキット) <b>*準備中</b></p> <p><input type="checkbox"/> 曜日班世話係 <b>*曜日班会議の中で協議してください</b></p> <p><input type="checkbox"/> 曜日班(副)世話係 <b>*" (連絡等, 世話係りを補佐します)</b></p> <p><input type="checkbox"/> 他——提案する活動があれば ( )</p>	
<p>★要望や意見がありましたらご記入ください</p>	

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

# 平成25年度 ボランティア スキルアップ研修

日時：9月25日(水)、9月26日(木) 10:00～12:00 (120分)

## 日程

10:00 ～ 10:10 (10) 開会式 全体会にて本日の流れを確認  
 10:10 ～ 10:15 (5) 移動  
 10:15 ～ 11:45 (90) 各グループでの活動  
 \* A～Eのグループは、9/19日(木)以降掲示予定  
 10:10 ～ 10:15 (5) 移動  
 11:50 ～ 12:00 (10) 閉会式

内容：民具体験（展示ガイド、誘導、民具体験）

※1グループ人数 = 7人程度予定

※展示ガイド、民具体験、誘導を各30分で実施します。

A 展示(海、畑、田、台所) → 誘導 → 民具体験(1-2-5-4-3)

B 展示(台所、田、畑、海) → 民具体験(1-2-5-4-3) → 誘導

C 誘導 → 民具体験(4-3-1-2-5) → 展示(海、畑、田、台所)

D 民具体験(1-2-5-4-3) → 展示(海、畑、田、台所) → 誘導

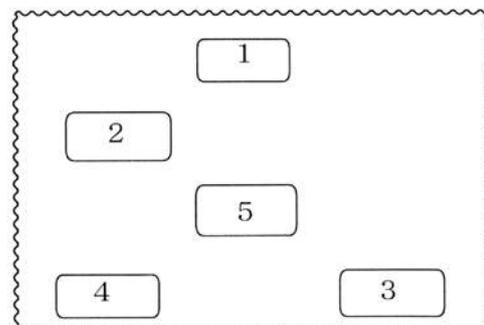
E 民具体験(4-3-1-2-5) → 誘導 → 展示(台所、田、畑、海)

展示解説  
(30分)

\*これまでの研修会で配布されている資料  
 展示解説ガイド(ピンク色)、体験学習サポート(緑色)  
 の事前確認をお願いします。  
 (用紙の色は、上記(ピンク、緑)と異なる場合もあります。)

誘導  
(30分)

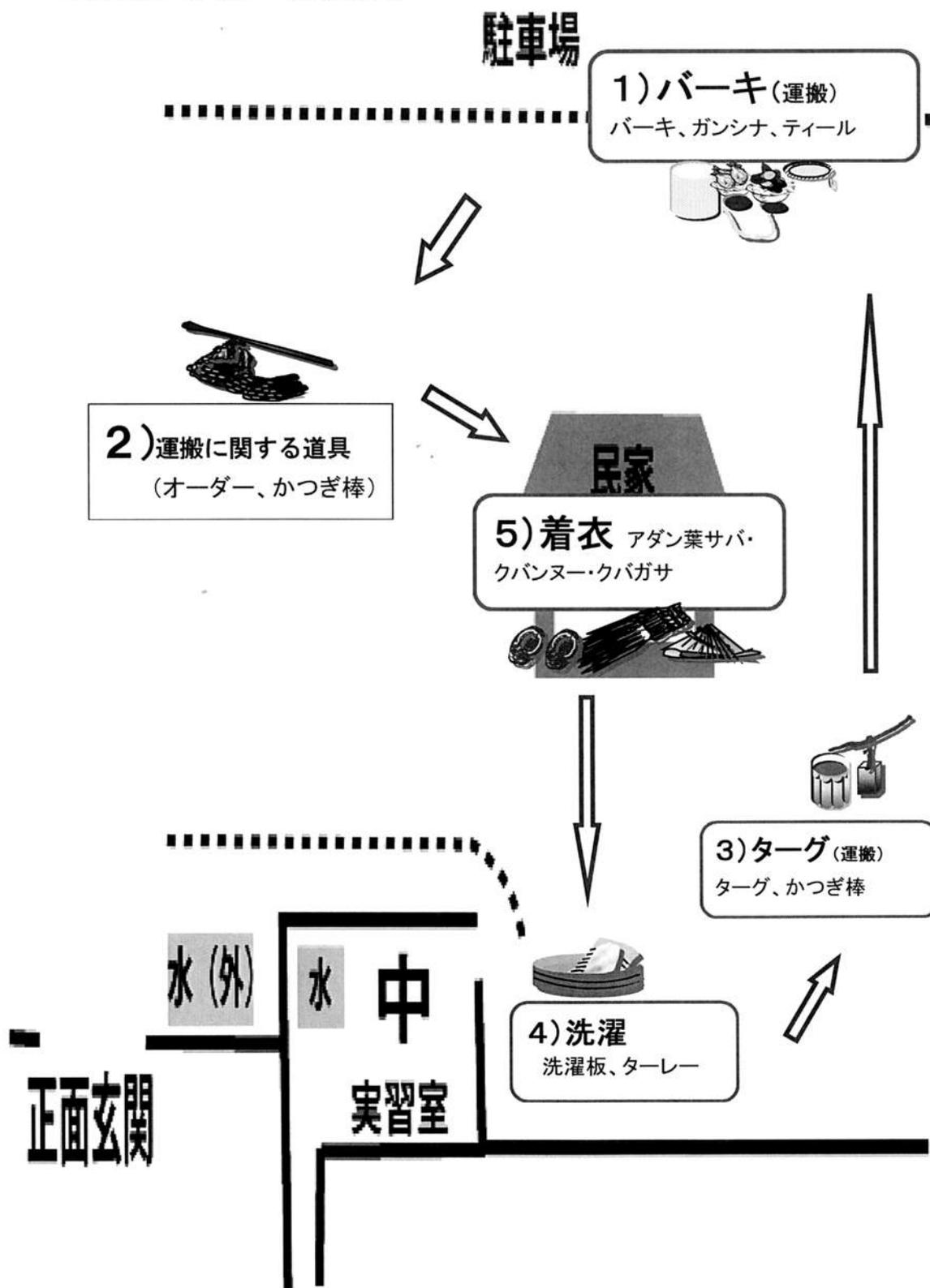
民具体験(30分)



## ○ ホイッスルの合図

- ・ホイッスル1回・・・開始
- ・ 〃 2回・・・終了1分前(通常は2分)
- ・ 〃 3回・・・移動

○民具体験 配置図



## ☆ ボランティアスキルアップ研修の様子



スキルアップ研修開会式の様子



着衣（クバンヌー、アダン葉サバ、クバガサ）の解説



ターゲット（運搬）の解説



洗濯（洗濯板、ターレー）の解説



運搬に関する道具（オーダー、かつぎ棒）の解説



民具体験の流れを確認

☆ ボランティアスキルアップ研修の様子



バーキ（運搬）、ガンシナ、ティールの解説



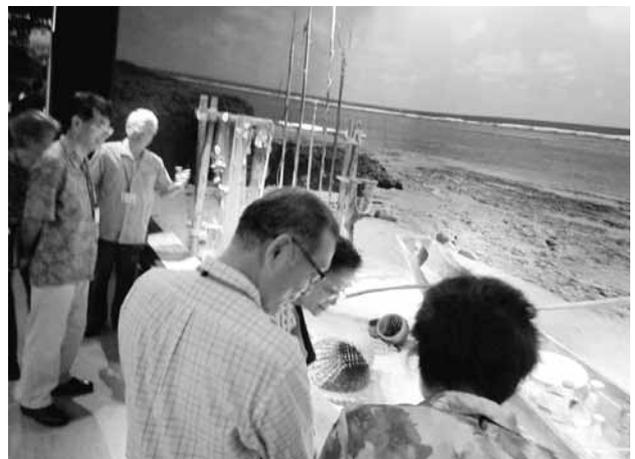
ターグの解説



展示解説の様子（畑）



展示解説の様子（田）



展示解説の様子（海）

# 平成 25 年度博物館 ボランティア展示解説ガイド実施要項

( ~一般来館者(修学旅行生含む) 対応に向けて~ )

博物館はこれまで、ボランティア対象の各種講座や分野別勉強会を通して、展示に関する各種情報の提供を行ってきた。その成果として民俗部門ガイドマニュアルと総合展示部門(歴史)ガイドマニュアルが、ボランティア、分野別担当学芸員の努力で完成することができた。

そこで今年度は、来館者へのサービス向上やニーズに対応するため、一般来館者(修学旅行生含む)向けのボランティア展示解説ガイド実施に向けての試行(準備)期間の年とする。

## 1 方針

### (1) 展示解説ガイド実施に向けて

- ① 博物館ボランティアの分野別勉強会協力のもと、ボランティアによる展示解説ガイドを1月下旬より実施する。
- ② 指定管理者(文化の杜)教育普及担当がコーディネートの役割を担う。
- ③ 解説場所や内容については、「展示解説マニュアル」を基本とする。

### (2) 展示解説ガイドボランティア養成について

- ① 博物館教育普及担当は、平成26年度本格実施に向け展示解説ボランティア養成の企画・立案を担う。
- ② 分野別担当学芸員は、解説ガイドの項目及び内容等について監修をおこなう。

## 2 組織体制

### (1) 学校団体対象(県内)《実施中》・・・ 現行通りの体制で実施。

情報センター受付 → 学習プログラム(下見必修)

\* 県教育普及コーディネート

離島小規模校

\* 文化の杜一友の会連携

### (2) 一般来館者(修学旅行生)対象・・・ 試行取り組み

☆ 民俗部門

☆ 総合展示(歴史部門)

情報センター受付 → \* 文化の杜教育普及コーディネート⇄友の会連携

## 3 解説内容

### A 30分コース⇒ 総合展示室のみを30分でまわる

- (1) 総合展示室5か所ほどの展示項目について、来館者を解説案内する。
- (2) 「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

### B 30分コース⇒ 民俗部門展示室を30分でまわる

- (1) 民俗部門展示室において、来館者を解説案内する。
- (2) 「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

※A+Bの60分コースも可

## C ジンボンボックス⇒ 総合展示室への配置（時間設定を行う）

- (1) 総合展示室の5カ所に配置。一か所5分程度を目安に来館者に解説する。
- (2) 民俗部門の2カ所に配置。一か所5分程度を目安に来館者に解説する。
- (3) 「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

### 4 配置方法

- (1) 「ふれあい体験室横（常設展示室入口）でボランティアが待機。
- (2) 来館者の希望により、[A]・[B]・[A+B]・[C]を選択できるようにする。
- (3) 展示解説ボランティアは2人1組でガイドを実施する。

### 5 受入

- (1) 事前予約制（開催の2週間前までに申し込み）
- (2) 火・水・木・金の9:30～16:00
- (3) 10名以上の団体から受付
- (4) ガイド1（2人1組）＝1グループ（10名以上）・・・一般来館者、小規模の修学旅行生
- (5) ジンボンボックス待機（ボランティア7～14名の配置）・・・100名以上の団体

### 6 研修

- (1) 総合展示部門解説ガイド養成講座内容・・・別紙参照
  - ①募集期間  
平成25年10月1日(火)～10月16日(水)
  - ②申込み方法  
申込用紙に記入し、ボランティア室設置の箱に投函する  
※ボランティア室に箱を設置（申込用紙を1週間おきに回収する）

「第1回 博物館 総合展示部門 解説ガイドボランティア養成講座」日程表

回	開催日・場所	時 間	内 容	担当者
1	11月20日(水) (美術館講座室)	13:30~13:50 14:00~14:30 14:45~15:45	ガイド心得 総合展示室について 歴史分野の展示解説について	金城 久場班長 崎原・岸本
2	11月22日(金) (常設展示室)	13:00~14:00 14:15~15:15 15:30~16:30	民俗分野の展示解説について 美術工芸分野の展示解説について 考古分野の展示解説について	大湾 園原・與那嶺 片桐
3	12月4日(水) (常設展示室)	13:00~14:00 14:30~15:30 16:00~17:00	生物分野の展示解説について 地学分野の展示解説について 人類分野の展示解説について	山崎仁也 仲里 藤田・山崎真治
4	12月6日(金) (常設展示室)	13:30~14:30 15:00~16:00	実習① *受講生同士によるガイド練習 (A、Bグループ) ・講評と寸論	金城
5	12月10日(火) (常設展示室)	13:30~14:30 15:00~16:00	実習② *受講生同士によるガイド練習 (C、Dグループ) ・講評と寸論	金城
6	1月14日(火) (常設展示室)	13:30~14:30 15:00~16:00	実習③ *受講生同士によるガイド練習 (A、Bグループ) ・講評と寸論	金城
7	1月17日(金) (常設展示室)	13:30~14:30 15:00~16:00	実習④ *受講生同士によるガイド練習 (C、Dグループ) ・講評と寸論	金城
8	1月22日(水) (博物館講座室)	14:30~15:30	閉講式 *ガイド証の発行	金城 学芸員、班長

※修了要件：全8回中6回以上の出席。(実習①~④は、①・③、②・④の組み合わせで計2回)

※実習①~④では、各自2回のガイド実習(実践研修)を行う。\*1人=2~3カ所(約10分~15分)

※原則、講座の補講は設けない。

※学芸員による総合展示室での展示解説(7分野)。担当分野について、重点を置いた解説を実施。

・一般来館者(修学旅行生含む)への解説ガイドを想定し展示室の見どころを紹介。

☆受講生への連絡事項

○『博物館学習ノート』を事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。

○『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。

## ☆第1回 博物館総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座の様子



開講式の様子



担当学芸員による解説（歴史）



担当学芸員による解説（歴史）



担当学芸員による解説（歴史）



担当学芸員による解説（民俗）



担当学芸員による解説（美工）



担当学芸員による解説（考古）



担当学芸員による解説（生物）



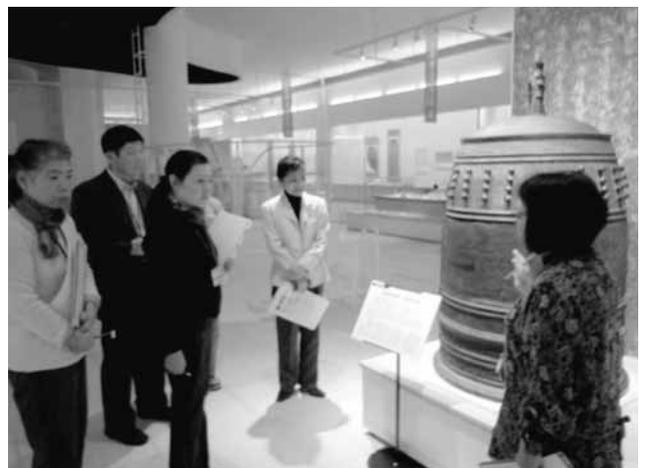
担当学芸員による解説（地学）



グループでの講評と寸評の様子



グループでの講評と寸評の様子



グループでの講評と寸評の様子

〈平成 25 年度〉 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア登録申請書〈1 年更新〉

①～⑭までもれなく記入して下さい。

登録申請日 2013 年 月 日

	ふりがな			*写 真  現在登録中の画像を 変更したい方は、 申し出てください。
①	氏 名			
②	会 員 番 号			
	職業*(現役者のみ)			
④	生 年 月 日	19( )年/昭和( )年( )月( )日		
	ふりがな			
⑤	住 所	〒		
⑥	連絡先 自宅		携 帯	
	*職場(現役者のみ)		*メール	

⇒当てはまる□に  を入れてください。

⑦健康状態 *複数可		⑧来館手段 *複数回答可		⑨館までの所要時間
<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 体調にムラがある <input type="checkbox"/> 通院している <input type="checkbox"/> 他 ( )		<input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> モノレール <input type="checkbox"/> 他 ( )		およそ ( ) 分
年	月	⑩ 職 歴		
⑪  どんな免許や資格がありますか				

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

⑫ 活動曜日 と 所属曜日	活動可能な曜日 <u>*活動は、所属曜日班にしばらくられません。複数回答可。</u> <input type="checkbox"/> 火曜 <input type="checkbox"/> 水曜 <input type="checkbox"/> 木曜 <input type="checkbox"/> 金曜 <input type="checkbox"/> 土曜 <input type="checkbox"/> 日曜
	希望する所属曜日班＝( )曜日班＝(情報や連絡を共有します) <b>*必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の曜日班会議に出席ください。</b>
⑬ 活動可能な時間帯	( )時ごろ～( )時ごろ 理由があれば( )

⑭ 活動してみたい内容 (当てはまる□1～10に☑を入れてください。複数回答可)

- 活動の募集は ボランティア室に掲示する“チラシ”で呼びかけます
- 「6」は ボランティア室内の 机付ボードへ 自身で名前「マグネット版氏名」を表示します

**\*自分の能力を活かし(できる・やってみたい)、希望する内容(分野)で活動する!**

1 [学校団体] **展示解説ガイド** (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)  
 ①離島等の小規模校対応 ②先生の要望に応じた解説 \*一般来館者対象のガイドは検討中

---

★小学校3年社会科民具体験学習 (8月～3月)

2 民具解説 **B**

3 民具体験サポート **C**

4 民具体験学習での展示解説 **E**

5 誘導ボランティア (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)

6 ふれあい体験室の支援 (4月～3月)

7 体験学習教室の支援 (博物館・美術館行事案内パンフレット参照)

---

8 **資料整理活動** (4月～3月) \*新聞スクラップ, 発送手伝い, ボランティア室の整美等

---

\*9 けんぱくキット(稼動)支援 (ちむどんどん紙芝居担当等) \*検討中

\*10 **他**—提案する活動があれば( )

---

曜日班(正・副)世話係  勉強会(正・副)世話係 \*会で協議してください

★要望や意見がありましたらご記入ください



↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

## 平成25年度博物館ボランティア 登録証交付式

2013. 4. 26 教育普及担当:金城

### 1 趣旨

- ・博物館ボランティアの継続にあたり、運営面で更改された事項を確認する。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し、活動を促す。

### 2 日時

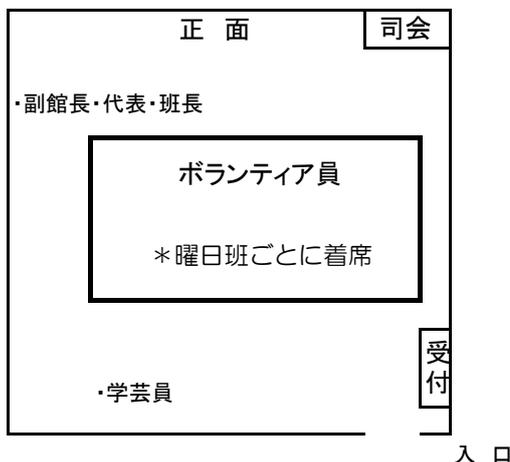
平成24年4月26日(金) 14時00分～14時30分

### 3 場所

博物館 講座室

### 4 参加者

博物館副館長、博物館班長、  
博物館各学芸員、  
(継続)ボランティア員



### 5 式順

司会 久田 千春

入口

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| (1) 登録証 交付          | 嵩原 安伸 副館長   |
| (2) 副館長あいさつ         | 嵩原 安伸 副館長   |
| (3) 学芸員(博物館職員)紹介    | 久場 政彦 博物館班長 |
| (4) 文化の杜共同企業体代表あいさつ | 平良 知二 代表    |
| (5) 文化の杜職員紹介        | 平良 知二 代表    |

## 登録証交付式終了後 ボランティア員全体会

14時30分～17時

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員  
進行：久田 千春

- 1 IPM(Integrated Pest Management)について14:30～15:00 (30分) 仲里 健(博物館主任学芸員)
- 2 本年度のボランティア活動について 15:10～15:40 (30分) 金城 久枝(博物館教育普及担当)  
○博物館ボランティアのてびき』読み合わせ
- 3 質疑応答 (10分)
- 4 曜日班別グループ ミーティング(25分) 15:50～  
(自己紹介、世話係選任、年間活動計画案など)
- 5 各曜日班発表(18分)
- 6 勉強会からの報告(10分)
- 7 事務連絡 (10分)

平成25年度（2013年度版）  
博物館ボランティアのてびき

ボランティア活動テーマ

**来館者がよろこぶ博物館に！**



沖縄県立博物館・美術館  
博物館ボランティア

## 1 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

## 2 活動の方針

- (1) 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- (2) ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- (3) 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- (4) ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

## 3 ボランティアの活動内容

文章中の☆印は、本格実施に向けて準備、または検討中。網掛け部分は、平成25年度より更新。

### (1) 活動の種類

#### ①博物館ボランティア

ア展示解説ガイド    イ体験学習サポート    ウ資料整理活動    エその他

#### ②「ふれあい体験室」専属ボランティア

ふれあい体験室支援 → 土・日・祝日における活動

### (2) 活動の内容

#### ①展示解説ガイド

「常設展示室」における展示解説、質問対応など。(学校団体/☆一般来館者)

#### ②体験学習サポート

「学校団体対応」「ふれあい体験室支援」「体験学習教室支援」

#### ③資料整理活動

「新聞スクラップ整理」

#### ④その他

「ボランティア間の連絡」「各種刊行物の発送業務」「文化の杜共同企業体主催催事支援」

「ふれあい体験室 I PM清掃」※原則：毎月第4月曜日 13：20～

### (3) 活動の種類、場所、人員の配置数等

	活動の種類	場所	内容 と ボランティア配置数	指定管理者担当
①	常設展示対応	ふれあい体験室	サポート=1～3人	1人
②	学校団体対応	常設展示室 民家・実習室	展示解説ガイド 体験学習サポート=若干名	1～2人
③	体験学習教室	民家・実習室	サポート=若干名	1～2人+外部講師
④	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	サポート=若干名	なし

### (4) 運営体制

① ボランティアは、博物館ボランティアと、「ふれあい体験室」専属ボランティアから成ります。

② 博物館ボランティアは、博物館養成講座(P.4の9(1)参照)履修のボランティアとします。

③ 博物館ボランティアは自身の希望する曜日に、希望する種類の活動をします。

※月曜日が祝日で開館する場合、「ふれあい体験室」専属ボランティアを中心に活動を行います。

④ 博物館ボランティアは、曜日班に所属し、月1回の定例会で、活動情報を共有します。

⑤ 曜日班の中に、正副世話係をおきます。曜日班の世話係は、活動の連絡を行います。

⑥ 博物館ボランティアは、各分野別勉強会に参加することができます。

⑦ 各分野別勉強会に正副の世話係をおきます。分野別勉強会の世話係は活動の連絡を行います。

☆活動の充実にとまなうグループ化の検討(新聞スクラップ、展示解説ガイドなど)

⑧ 博物館担当者、分野及び曜日世話係、文化の杜、友の会によるボランティア連絡会を月1回開催します。※原則第3火曜日 15：00～

活動日	③ 博物館ボランティアは自身の希望する曜日に、希望する種類の活動をします。 ※月曜日が祝日で開館する場合、「ふれあい体験室」専属ボランティアを中心に活動を行います。
曜日班	④ 博物館ボランティアは、曜日班に所属し、月1回の定例会で、活動情報を共有します。
分野別勉強会	⑥ 博物館ボランティアは、各分野別勉強会に参加することができます。
連絡会	⑧ 博物館担当者、分野及び曜日世話係、文化の杜、友の会によるボランティア連絡会を月1回開催します。※原則第3火曜日 15：00～

(5) 経費

- ① 博物館は、ボランティアスタッフの活動に際する事故などに備え、ボランティア保険に加入します。  
※保険は毎年3月に更新、保険期間は1年とします。
- ② 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。  
※破損・紛失した場合は、博物館及び文化の杜担当者までお申し出下さい。

(6) 活動日、時間、回数

- ① 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- ② 活動時間は、1回で3時間程度とします。※場合によっては考慮します。
- ③ 活動回数は、月に2回以上とします。

(7) 遵守事項

- ① 博物館の諸規則に従って下さい。
- ② 博物館の展示方針に従って説明等を行って下さい。
- ③ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないで下さい。
- ④ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないで下さい。

(8) 活動中の事故

- ① ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアがケガをした場合は、ボランティア保険の対象となります。  
※館が認めるボランティア主催の館外勉強会等も含まれます。
- ② ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身はその責を負うこととなります。

4 ボランティア活動の組織

(1) 博物館教育普及

ボランティア担当	総括	副担当
	◎ 金城	久田

(2) ボランティア担当の役割

- ① ボランティア登録に係る諸業務。
- ② ボランティア研修に係る企画、調整。
- ③ ボランティアの活動に関する企画、調整。

(3) 曜日班

曜日班は、ボランティア間の連絡や（連絡網を作成する）、館におけるボランティア活動の諸情報を収集する場であり、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① 博物館ボランティアは、必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の定例の曜日班会議に出席します。
- ② ボランティアの活動を活性化させるために、曜日班に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、曜日班内で選任されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は、ボランティア連絡会での情報を、曜日班会議の中で、班員に伝えます。  
※曜日班定例会は、ボランティア情報の共有と情報交換の場です。
- ⑥ 定例の曜日班会議は、世話係の進行でボランティア室で開催します。
- ⑦ 曜日班は月曜を除く、6つの班で編成します。

班	定例会	時間帯	班	定例会	時間帯
火曜日班	第 火曜	00:00~00:00	金曜日班	第 金曜	00:00~00:00
水曜日班	第1水曜	00:00~00:00	土曜日班	第 土曜	00:00~00:00
木曜日班	第 木曜	00:00~00:00	日曜日班	第 日曜	00:00~00:00

※「ふれあい体験室」専属ボランティアは、連絡網のみ作成。但し、希望者は土/日いずれかの班へ加入も可能。

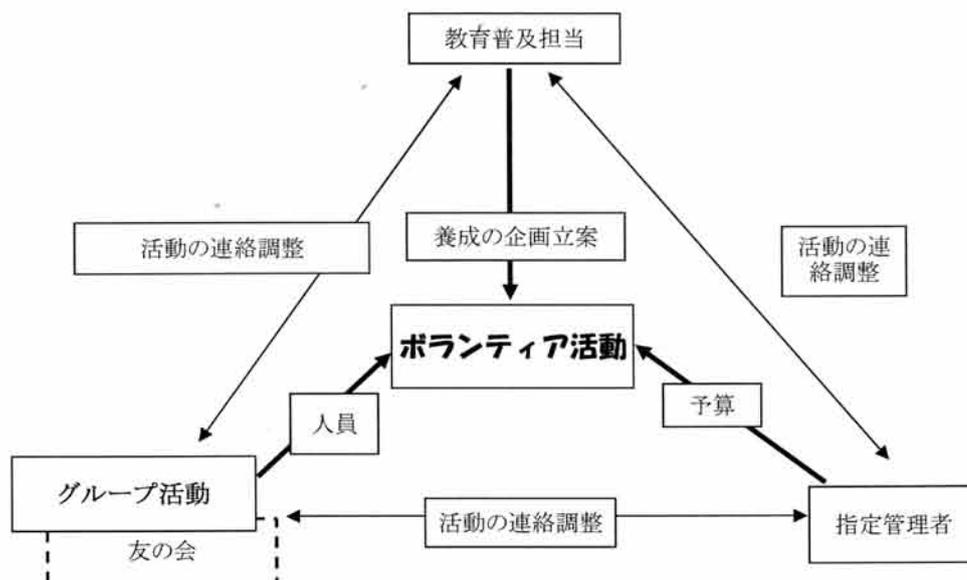
#### (4) 分野別勉強会

分野別勉強会は、ボランティアが自己研鑽として学習する場の提供と、継続したボランティア養成の補完的役割を担い、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① 専属ボランティアを含むすべてのボランティア員は、分野別勉強会へ自由に参加でき、複数の勉強会への参加も可能です。  
※活動は自立的で、協力的であること。勉強会参加を希望する者は、ボランティア室に掲示する参加者名簿に記名をおこない、勉強会への出席に責任をもつこと。
- ② ボランティアの活動を活性化させるため分野別勉強会に正副の世話係を置きます。(以下世話係)
- ③ 世話係は、勉強会内の選任で選出されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は各分野の学芸員と連携を取り、毎回の研修内容の調整や企画をおこないます。  
※分野別勉強会は、ボランティア情報の共有と情報交換の場です。
- ⑥ 分野別勉強会の世話係は、ボランティア室において、全ボランティアに研修計画を告知します。

分野	定例会	時間帯	分野	定例会	時間帯
人類学・自然史	第 土曜	00:00~00:00	美術工芸	第 土曜	00:00~00:00
歴史・考古	第 土曜	00:00~00:00	民俗	第 土曜	00:00~00:00

※開催日時は、諸事情で変更になることがあります



※グループ活動とは、自身の希望する活動の場であり、ボランティアの自立的な取り組みを目指す活動です。

#### 6 登録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- (1) 仮登録  
「養成講座」終了後、応募者については資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。
- (2) 本登録  
「養成講座」受講者のうち、当館が定めるボランティア「専門講座」を修了した者で、館長の認定した者を本登録者とします。
- (3) 登録の更新  
登録の活動期間は1年とします。但し、P.2の3(6)(7)に示す活動の条件を満たし、継続を希望する者は、更新することができます。

#### (4) 申請時の提出

次年度、博物館ボランティア活動の継続を希望する者は、指定の申請書に必要事項を記入し、教育普及担当学芸員との面談後、活動の評価通知を確認し、申請の手続きを行います。

#### (5) 活動の評価通知

館の定めた各種研修会並びに全体会等への不参加P.2の3(6)(7)に示す活動の条件を満たしていない者は、館指定の更新研修受講後に登録更新を認めます。

#### (6) 登録証

① 登録者には登録証を交付します。活動時は常に身に付けてください。

② ボランティアの継続が出来なくなった際には、登録証は返却するものとします。

#### (7) 登録の抹消

登録期間中であっても博物館ボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、博物館ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は、登録を抹消することがあります。

### 7 活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らし、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それに基づいてボランティア活動改善計画の作成に資することを目的とします。

※評価様式は別に作成する。

#### 活動の評価基準

- ① 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- ② 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。
- ③ 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- ④ 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。
- ⑤ 月に2回以上（1回3時間程度）の活動ができたか。

※P.4の9(4)に示す、出席簿の記録に基づき、達成状況を判断します。

### 8 表彰及び昇格規程

- ① ボランティア精神が旺盛で、その活動が顕著な者を表彰します。 ☆表彰基準は検討中
- ② ボランティア活動の充実にともない、上級ボランティアを認定していきます。

☆認定方法は検討中

### 9 その他

#### (1) 研修プログラム

##### ○博物館ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間で5日間（講義）＋1日2時間で2日間（実習） 合計約14時間  
例：（副）館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座、実地研修など
- ② 専門講座…1日2時間で7日間（講義と実習） 合計約14時間  
例：博物館学習ノート紹介、ふれあい体験室(体験キットの解説)、発問の研究など
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習  
例：企画展の解説、スキルアップ研修、体験学習教室の事前勉強会など

##### ○「ふれあい体験室」専属ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間（講義）＋2日4時間（実習） 合計約6時間
- ② 更新研修…レポート提出（例：ボランティア活動の復習等）
- ③ 臨時研修…スキルアップ研修等

#### (2) ボランティア活動時の服装等について

- ① ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書として、ボランティア登録証を交付します。
- ② ボランティア活動を行う場合は、安全性と機能性を考え、博物館ボランティアにふさわしい服装とします。
- ③ ボランティア登録証を常に身につけるものとします。

※博物館ボランティアは、緑色のストラップ / 平成25年度の登録証の色は黄緑色です。

### (3) ボランティア室の使用について

- ① ボランティア室については、教育普及担当の許可を得て使用できます。
- ② ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
  - ア P.1の3(1)～(4)に示す活動に関する使用
  - イ 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
  - ウ ボランティア活動のための器具類の保管及び使用
  - エ 来館者を発見へと向わせるような発問の研究
  - オ ボランティア活動のための休憩
- ③ ボランティア室には勝手に私物をもちこまないで下さい。  
※個人の持ち物は、自己の責任で管理して下さい。
- ④ ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時までとします。
- ⑤ ボランティア室は原則として使用した者が片づけ（整備・清掃）をするものとします。

### (4) ボランティア出席簿の記入について

- ① 活動終了後ボランティアは、ボランティア室にある出席簿に、活動の記録をおこないます。
- ② 分野別勉強会への参加は“ボランティア活動の評価基準”にそぐわないため出席簿には記入できません。  
※各勉強会のボランティアの参加状況は、各勉強会の世話係が記録（名簿管理や出席状況等）をおこない、12月にまとめて、教育普及担当へ提出します。
- ③ 「その他」の欄は、P.1の3(2)-④他、館が臨時召集した内容等を記録します。
- ④ 「会議参加」の欄は、館が主催する会議への参加を記録します（全体会、曜日班定例会、ボランティア連絡会など）。
- ⑤ P.2の3(6)-②に示す1回の活動時間の目安は3時間とします。
- ⑥ 1日で6時間以上の活動をおこなった場合。  
例：午前＝学校対応3時間、午後＝ふれあい体験室支援3時間、出席簿の記入は、2カ所の記入を認めます。  
※但し、短時間で2カ所の活動を実施してのカウントは認めない（例：1.5時間×2カ所）
- ⑦ 都合により館でのボランティア活動が不可能になる場合、博物館教育普及担当へ活動休止の理由の電話連絡を入れるとともに、出席簿にも活動休止のメモを記入します。  
（例：7/5～8/31まで活動休止します!）

### (5) 欠席時の連絡について

活動当日、都合で来館が不可能になった場合、登録証の裏面に示す番号へ連絡を入れて下さい。

- ① 博物館教育普及（金城、久田） TEL 098-851-5401（内線253）
- ② 文化の杜教育普及（大瀨、渡部） TEL 098-9411321  
（内線161（大瀨） 155（渡部） 220（ふれあい））
- ③ 友の会事務所（高江洲、福嶺） TEL 098-868-2722（内線113）  
※曜日班ならびに勉強会の問い合わせは、各世話係りへおこないます。

### (6) 台風時の対応

台風時の活動は、館の開館状況に準じます。

- ① 午前7時現在、暴風警報（以下「警報」）が発令されているときは、午前中閉館とします。
- ② 正午時現在、警報が発令されている場合は午後も休館とします。
- ③ 開館中に警報が発令された場合は、直ちに休館とします。

※ボランティアは、安全面が確認された時のみ、来館をお願いします。

～ 教育普及 ～

●平成25年度 ボランティア登録者

平成25年度のボランティア登録申請者の数は合計73名(内4名が「ふれあい体験室」専属ボランティア)となりました。また、24名の方が様々な理由でボランティア活動を卒業することとなりました。いままで博物館のためにご尽力いただきました皆さんにありがとうございます。

●3年間がけがとうございました

ボランティアの皆さんこんにちは、博物館の池原盛浩です。平成22年から3年間、教育普及担当として、ボランティアの皆さんと関わってきました。赴任して半年目から、民具体験学習の見直しをおこない、皆さんにとっては、「ボランティア活動に対して、色々と注文をつけるうるさい者」「難しい研修や決まりを取り入れて、ボランティアの活動をわくわく決める者」など、何でもなんなんが来たの?と、怒り心頭の方も多かったことと思います。申し訳ありませんでした。

～ 文化の社 ～

ボランティアスタッフの皆様へ

4月から「千葉県立房総のむら」に勤務することになりました。成田空港の近く、茨城との県境に位置し、衣食住、技をテーマにした野外にある参加体験型の博物館で、展示と教育普及を担当します。大好きな沖縄で、大好きな博物館の仕事ができたことに、大変感謝しています。まだまだ沖縄でやりたい気持ちもあり迷ったのですが、博物館で仕事をするといいことは、地域とのつながりは欠かすことができないと思います。「生まれ育った千葉にある博物館で働く」という決断をしました。平成19年11月の新館オープンから色々な仕事に関われたことは、私にとって大きな財産であり、強味です。また、月並みですが、沖縄のすばらしさを学ぶことで、あらためて千葉のすばらしさを知ることができました。新しい職場には、そういった点を評価してもらえたのだと思っています。

～ 教育普及 ～

教育普及班も新たな人員体制で臨んでいくこととなります。ボランティアの皆様と協力しながら博物館サービスの向上に努めていきたいと思っていますので、新年度もどうぞよろしくおねがいいたします。

子ども相手の学校現場での仕事とは異なり、生涯学習と言いますが、年配の方々と関わる仕事は初めてであり、多くの方々や接しながら色々な事を学ばせてもらいました。人生の先輩である皆さんに対し、失礼な場面等があったことをお許しください。今度久しぶりに中学校へ戻ります。博物館を体験した者として、博物館を好きな子どもをも増やしていきたいと思えます。3年間ありがとうございました。

～ 文化の社 ～

ボランティアの皆さんとは約4年半のお付き合いになります。人生の先輩に対し、生憎なことを言うたこともありました。皆さん広い心で受け止めてくださり、温かい言葉や励ましの言葉をかけてくださったことは生涯忘れません。向上心を常に持ったボランティアの皆さんは、人生の先輩として、ぜひ習いたいし、博物館で仕事をすすめる限り、「沖縄の博物館のボランティアはすごいパワーを持っていたよ!」と吹聴したいと思えます。私が至らなかつたことを、これからのスタッフが行ってくれたらと思います。ボランティアの皆さんにとっても、この博物館で活動することが自慢になるような館であってほしいと願っています。本当にお世話になりました。ありがとうございます。文化の社共同企業体 教育普及担当 中村愛

～ 4月の勉強会 ～

●民俗勉強会・・・4/6(土)10:00～12:00 ボランティア室  
1. 3月15日(金)に実施された「ボランティア展示解説ガイドグループ会議」の内容説明及びこれからの取り組みについて

●平成25年度の民俗勉強会の進め方について  
3月15日の会議に参加した方は当日配布された資料を持参して下さい。

●歴史勉強会・・・4/13(土)10:00～12:00 3階研修室

1. 平成25年度 活動計画方針策定
2. ボランティアガイドについて 歴史班対応検討会
3. 平成25年度 世話係選任の件

●美工勉強会・・・4/27(土)15:00～17:00 場所は後日連絡します。  
沖縄の焼きものについて  
「民芸としての沖縄の焼き物」 発表 辻田忠弘さん

●自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認ください)

●参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。  
●内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。



発行日：2013年 4月25日 発行：沖縄博物館友の会 ☎：098-868-2722

～ 教育普及 ～

- 新！教育普及担当者のあいさつ  
はじめまして。金城久枝と申します。平成25年4月1日より博物館教育普及担当として赴任してきました。前任校は那覇市立寄宮中学校教頭職でした。学校現場と博物館とは、仕事の上でかなりの違いはありますが、博物館教育普及担当として頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

● H25年度 博物館班メンバーリスト

副館長	嵩原 安伸	考 古	片桐 千亜紀	人 類	藤田 祐樹
班 長	久場 政彦	民 俗	大湾 ゆかり	"	山崎 真治
		歴 史	岸本 弘人	地 学	仲里 健
		"	崎原 恭子	生 物	山崎 仁也
		美術工芸	與那嶺 一子	学芸補助	早瀬 千明
		"	園原 謙		

教育普及 金城 久枝  
普及補助 久田 千春

～ 文化の社 ～

博物館ボランティアの皆さん、はじめまして！  
4月1日より、中村愛さんの後任として文化の社共同企業体の教育普及班に仲間入りをしました。亘保はるなど申します。生まれも育ちも那覇市で、今年の3月に沖縄国際大学を卒業しました。今は、教育普及班の先輩方の後ろについて、様々な業務を教わっています。これから段々と、ボランティアの方々とも交流を深めていきたいと思ひます。不慣れな点が多い分、ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、少しでも早く慣れるように頑張りますのでご指導のほど宜しくお願い致します。



◆～◆～ 5月の勉強会 ～◆～◆

- ※ 民俗勉強会・・・今回は連休(ゴールデンウィーク)中のため、お休みです。
- ※ 歴史勉強会・・・5/11(土)10:00～12:00 3階研修室  
1.平成25年度活動計画について  
2.資料『総合展示室：古琉球～現代 解説・パネル等』についての勉強会  
\*上記の資料をお持ちの方は持参してください。
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

発行日：2013年 5月25日 発行：沖縄博物館友の会 ☎：098-868-2722

～ 教育普及 ～

- 民俗ガイドスタート！  
5月8日に今年度初のボランティア民俗ガイドが行われました。民俗ガイドとして初の特別支援学校対応ということもあり、ボランティアも大勢での対応。見学時は車いすから降りて入口の海に大はしやぎの子、ベットのの上から興味深げに展示を見ている子等々。保護者や先生方から楽しそう、という声も聞かれ、子ども達が博物館を楽しんでいる様子がうかがえました。

● H25年度ふれあい体験室専属ボランティア講座開始

今年度のふれあい専属ボランティア申込者は11名でした。申請者に対して下記の日程で講座を行います。講座修了日の6月22日にはボランティア登録証が交付され、正式に皆様の仲間入りとなります。先輩ボランティアの皆様、新メンバーをよろしくおねがひします！  
講座日程：5/26(日)・6/8(土)・6/22(土)の全3回 10時～12時

● ボランティア募集予定 (募集用紙をボランティア室へ掲示します)			
6/4(火) 12時半～	阿波連小民具体験(児童3名)	3名程度	
6/24(月) 13:20～	ふれあい体験室養生(燻蒸前作業)	6名程度	
7/2(火) 13:20～	ふれあい体験室清掃	6名程度	
★特別展(7/12～9/1)	顕微鏡・ひぐま着ぐるみ補助等	希望者全員	

～ 文化の社 ～

ゴールデンウィーク期間は、ふれあい体験室へ  
ご支援ありがとうございます。近頃は、平日  
に遠足や修学旅行の団体が多く来場しています。  
以前、ボランティアの方からのご意見で「平日の  
ふれあい体験室は、団体が来るときは仕事がある  
けれど、その予定が事前に分からない、来館者が  
少ない日はボランティアに入っても暇な事が多  
い」と伺いました。以降、体験プログラムを美  
施しない自由見学の団体でも、利用状況を把握で  
きるように、団体申込書式の観覧希望展示の欄に  
ふれあい体験室の項目を追加する改訂を行いま  
した。それからは、ボランティアの皆様へも事前  
に予定をお知らせできるようになり、ボランティ  
ア室のホワイトボードへ【自由見学 ふれあい体  
験室 〇〇学校〇年〇人数〇時間】と書き込んでい  
ます。ボランティア室でご確認の上、今後ともご  
対応よろしくお願ひします。(渡部)

◆～◆～ 6月の勉強会 ～◆～◆

- ※ 民俗勉強会・・・6/1(土)10:00～12:00 ボランティア室  
民俗担当、大湾ゆかり学芸員との顔合わせ。 民族勉強会の具体的な取り組みについて、他
- ※ 歴史勉強会・・・6/8(土)9:05～12:00 ボランティア室及び3階研修室  
1.ガイド勉強会、年間計画など 2.定例会、ガイドマニュアルの読み合わせ  
\*上記の資料と総合展示室資料を持参してください。
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

～ 教育普及 ～

●ボランティア参加の呼びかけ

「海・山・川のおくりもの 目からウロコの生き物展 生物多様性ホットスポット JAPAN」が7/12(金)から9/1(日)まで開催されます。展示期間中に、来館した子ども達へ顕微鏡のピントの合わせ方を教えるボランティアを募集いたします。大勢のご協力が必要ですのでぜひご参加ください！

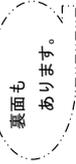
その他のボランティア募集に関しても、ご協力よろしくお願ひします！

★ボランティア室に募費用紙を掲示しています★

- ①民具修理＝7/4(木)13時
- ②体験教室「カエルの解剖と骨格標本作り」＝7/20(土)終日 目配り・準備・片付け
- ③学芸員教室＝7/31(水)10時 歴史「印じゃな～い？」印かん作成補助  
7/31(水)13時 人類「動物の糞と食べ物を調べよう！」安全管理  
8/1(木)13時 考古「神が宿る石「勾玉」を彫らたぞう」製作補助
- ④「目からウロコの生き物展」＝7/12(金)～9/1(日)《52日間》午前・午後の2交代 顕微鏡補助

～ 文化の社 ～

6月4日(火)、今年度最初の民具体験を実施したどりながら、恐る恐る行いました。結果、時間未だに、渡嘉敷小学校3年生2人の児童生徒が来館し、ボランティアさんと一緒に民具体験を楽しんでいる様子が印象的でした。さて、皆さんは、民具体験の流れや解説など覚えていらっしゃいますか？人間とは、時間が経つと忘れてしまう生き物です(笑)私は、約3ヶ月ぶりの対応でしたが、「こうだったかな？あぁだったかな？」と記憶をたどりながら、恐る恐る行いました。結果、時間未だに、渡嘉敷小学校3年生2人の児童生徒が来館し、ボランティアさんと一緒に民具体験を楽しんでいる様子が印象的でした。さて、皆さんは、民具体験の流れや解説など覚えていらっしゃいますか？人間とは、時間が経つと忘れてしまう生き物です(笑)私は、約3ヶ月ぶりの対応でしたが、「こうだったかな？あぁだったかな？」と記憶を



◆◆◆ 7月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・7/6(土)10:00～12:00 実習室
- 1. 民具手帳を作る 講師：大湾ゆかり民族担当学芸員 (材料は講師が準備します)
- ※ 歴史勉強会・・・7/13(土)9:05～12:00 ボランティア室及び3階研修室
- 1. ガイド勉強会、ガイドの実践(2名) 2. 定例会、岸本学芸員講話、勉強発表
- 3. その他、総合展示解説マニュアルをお持ちください。
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。

ボランティアの現場から

～ 始まったぞう！ 学校対応 ～

今年度最初の学校対応(民具体験)は6月4日渡嘉敷村阿波連小学校の3年の良い子の皆さんで、3人の予定が急な風邪のため2人の来館となり、担当の先生を加え3人を迎えることになりました。何時ものとおリオリエンテーションから始め5種類の民具体験をこなし、最後に民具の展示解説を終了。5人のボランティアの熱心な対応で今日の学習目標である「昔の人の暮らしと昔の道具の使い方」の理解に役

立ったものと思います。これからの予定を聞くと特に無いと言うので常設展の観覧を勧めました。2人ははしゃぎながら展示室に入っていました。ボランティアの皆さんは久しぶりの学校対応で少しきこちなさがありましたが無事終了することができました。これからの1年間充実した学校対応を目指して行きましょう。(民俗班 宮里定典)



～ お知らせ ～

- 「ボランティアの動き」原稿募集
- 原稿の提出 ⇒ ボランティア会議へ(毎月第3火曜日)
- 原稿の内容 ⇒ ボランティアの活動の紹介等(曜日班・勉強会の活動等)
- ボランティアの立場から
- 将来的には ⇒ ボランティア数名で編集する。 編集員募集中！

～ 教育普及 ～

●目からウロコの大生き物展はじまりました！

7/12より博物館特別展「目からウロコの大生き物展」がはじまりました。週末多くのお客様が展示を見に来館しています。「ボランティアの皆様の協力により顕微鏡コーナーも大盛況！」ソウリムシを見つけたのは意外と大変！という声もちらほら。顕微鏡の使い方に関しては慣れることが一番なので、まずは使ってみてください。



★ボランティア室に募集用紙を掲示しています★  
 ①夏だ！海だ！生き物だ！～ザンゴ岩礁の生き物観察～8/7(水) 10時45分集合 安全管理  
 ②ふれあい体験室清掃＝8/26(月) 13時 20分  
 「目からウロコの大生き物展」＝7/12(金)～9/1(日) 午前・午後の2交代 顕微鏡補助

～ 文化の杜 ～

7月12日(金)から、「目からウロコの大生き物展」が始まりましたね。  
 ところどころ、8階の手すりには大きなクジラや、沖繩で見られる1番大きな生き物です。5月に行われた学芸員講座「目からウロコの大生き物展！～生き物よもやま話～」の中で制作しました。塗り絵に参加した子ども達は、はじめこそザトウクジラの大きさを目を丸くしていましたが(16mmもあるんです!)、すぐに剛毛やローラーを持ち、楽しくクジラに色塗りをしていました。隣りもないうように細かく塗る子、大胆にローラーを転がして塗る子、手のひらに絵の具を塗ってペタペタと張りつける子など、様々でした。サボートしてくださったボランティアさんは、絵の具を容器に入れたり、描いた絵を見て褒めたりして、参加者と和気あいあいとした雰囲気でお話をしています。暑い中、仕上げた子ども達の傑作です。ぜひじっくりと見てください。(文化の杜 宣保)

◆◆◆ 8月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 歴史勉強会・・・8/10(土) 9:05～12:00 ボランティア室及び3階研修室
- 1. ガイド勉強会、ガイドの実践(2名) 2. 定例会、勉強発表(歴史ガイドについて検討会)
- 3. その他、総合展示解説マニュアルをお持ちください。
- ※ 民族勉強会・美工勉強会・自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示板に名前を記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

裏面も  
あります。

～☆☆～ ボランティアの現場から ～☆☆～

● 苧麻糸づくりに挑戦！

5月25日(土)に美術工芸班の「苧麻刈りと糸づくり」の勉強会に参加しました。

午前10時に集合し、与那嶺一子学芸員の指導で苧麻の刈り取りから糸紡ぎまでを体験しました。まず、博物館の民家の裏庭に植えている苧麻を刈り取りました。そもそも苧麻を見るのとはじめてで「これが苧麻かぁ・・・」と感慨にふける中、「葉はすべて取り除いてください」という言葉に「え！葉っぱは使わないんだ？」と一人衝撃を受けていました。

場所を移動し、茎の芯を取り除き表皮を水に浸ける作業を行った後、表皮と内側の繊維を分離する作業を行いました。私は貝殻を使いましたが、表皮側から貝殻でなぞることでも内側の繊維が離れます。作業を続けていくうちに徐々に上手に分離できるようになり、夢中になって作業を続けました。

最後に分離させた繊維を細かく裂いていきませす。これが糸になります。いくつでも細くできるよ、細かったり、太かったり、同じ太さに作って行くのは、なかなか難しいなと感じました。身近にある植物で衣服を作れるんだというところが実感として感じる事が出来、無人島に行っても衣服は自分で作れるかも・・・というちよつと自信が！ができました。

昨年5期生としてボランティアに登録されましたが、まだまだ知らないことが多く、新しい発見の連続のボランティア活動は、私にとっても刺激的で楽しいものとなっています。今後もボランティアの先輩の皆さんに追いつくよう頑張りたいと思います。

毎月の土曜日の定例会でも、美術工芸班での苧麻刈りと糸づくりの体験について情報提供させていただきます。 (美術工芸班 中村理恵子)



発行日：2013年 8月25日 発行：沖繩博物館友の会 ☎：098-868-2722

～ 教育普及 ～

下記の日程でスキルアップ研修を予定しています。

●ボランティアスキルアップ研修(必修)

- 【研修1】対象者：博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア  
 日 時：9/21(土) 14:00～16:00  
 研修内容：文化講座の受講  
 講座名「九州国立博物館におけるボランティア活動の実践」  
 講 師 上野知彦 氏 (元九州国立博物館主任研究員)  
 ※詳細はボランティア室掲示のチラシ参照
- 【研修2】対象者：博物館ボランティアのみ  
 日 時：9/25(水) 10:00～12:00 / 9/26(木) 10:00～12:00  
 研修内容：民具体験学習に向けてのリハーサル【解説・誘導など】  
 ※詳細についてはボランティア室に9月上旬に掲示予定

9月 ボランティア募集予定 ・ふれあい体験室清掃=9/24(火) 13時20分

～ 文化の杜 ～

今年の夏は、「ふれあい体験室」はじめ、「カエ」午前9時から先着順受付のため、開館前より参加者が列をつくって来館し、8月からは、定員を増設して開催してきました。現在、10月からの新プログラムをお楽しみください。ボランティアさんからのご提案も募集中です！自身で作ってみたいものや、他館での開催事例など、アドバイスやアイデアをお聞かせください。今後とも、皆さん協力よろしくお願ひします。(渡部)

◆～◆～ 9月の勉強会 ～◆～◆

- ※ 民俗勉強会・・・9/7(土) 10:00～12:00 ボランティア室  
 1. 民家に展示されている障除けについて  
 2. 下期の民俗勉強会の取り組みについて \*ガイドマニュアルをご持参ください。
- ※ 歴史勉強会・・・9/14(土) 9:05～12:00 ボランティア室及び3階研修室  
 1. ガイド勉強会、ガイドの実践(2名)  
 2. 定例会、勉強発表(1名) \* 崎原学芸員による解説、歴史展示室「江戸上り」展示について
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認ください)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。

発行日：2013年 9月25日 発行：沖繩博物館友の会 ☎：098-868-2722 No.1

～ 教育普及 ～

●ご協力ありがとうございました！

多くの来館者が訪れた夏休み。特別展「目からウロコの生き物展」の顕微鏡コーナー、夏休み！博物館学芸員教室、体験学習教室、サンゴ岩礁観察会、ふれあい体験室などなど、ボランティアの皆様にはたくさんのご協力をいただきました！誠にありがとうございました！顕微鏡ボランティアでは、ローテーション表を見ながら、誰もいなければ自分から、と名乗りをあげてくれたり、また初参加で不安を感じている方がサポートしてくださったりと、お互いに協力しあひながら特別展を支えてくださいました。

さて、10月からは本格的に学校団体見学会が始まります。昨年に引き続き、今年度もボランティアの皆様のご協力よろしくお願ひします。小学生の子ども達にとっても楽しみにしています！！

◆10月の学校団体見学会(民具体験) ※募集用紙はボランティア室に随時掲示します。

栗国村立栗国小学校	10月18日(金) 14:00-16:00
うるま市立あげな小学校	10月25日(金) 10:00-12:00
豊見城市立座安小学校	10月30日(水) 09:30-11:30
糸満市立兼城小学校	10月31日(木) 09:30-11:30



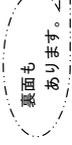
●博物館 総合展示部門 解説ガイドボランティア養成講座のお知らせ

博物館では、一般来館者向けの総合展示部門解説ガイドを募集します。解説ガイドボランティア養成講座へお申込み希望の方は、ボランティア室入口横のテーブルに準備してある申込み用紙をお受け取り下さい。

★博物館 総合展示部門 解説ガイドボランティア養成講座★  
 募集期間 10月1日(火)～10月16日(水)  
 申込み方法 申込み用紙に記入し、ボランティア室設置の箱に投函する。

～ その他のお知らせ ～

- ・スキルアップ研修(民具体験) 補講日 10/22(火) 10:00～12:00 (実習室)  
 民具体験研修9/25(水)・9/26(木)に参加出来なかった方はご参加ください。
- ・移動展 in 渡名喜 一詳細が決まり次第、ボランティア室へ掲示します。



～ 文化の社 ～

去る9/21(土)文化講座「九州国立博物館ボランティア活動の実践」を開催しました。ご参加いただいたボランティアの皆さん、ありがとうございます。

さて、皆さんは、講座を通して何か感じることはありましたか？私は、驚きと感動の連続で途中メモを取ることも忘れませんでした。上野先生のお話にもありました。九国のボランティア活動は、自主性を重んじ、博物館を舞台に一人一人の特技を活かした積極的な活動をするという特徴があります。このような活動を進める秘訣は、一体どこにあるのでしょうか。答えは沢山あると思いますが、私は「コミュニケーション」が鍵となるのではないかと思います。ボランティア同士はもちろんのこと、お客様や担当職員が、互いに意思や感情、思考を伝達し合うことで、信頼が生まれ、そこから化学反応が起きるかのようになんかアイデアが湧き出るのではないのでしょうか。私たちの合言葉は、「来館者が喜ぶ博物館！」です。これからまた、お互いが笑顔で楽しい時間を過ごせるよう、ボランティアの皆さんとタッグを組む、博物館における活動を盛り上げていきたいと思っております。また、皆さんの講座のご感想もお聞かせください。(文化の社 大嶺萌子)

◆～◆～ 10月の勉強会 ～◆～◆

- ※ 民俗勉強会・・・10/5(土) 10:00～12:00 ボランティア室及び民俗展示室
  1. 民俗展示室にてガイド実践、2名予定
  2. 12月予定の館外勉強会についての話し合い
    - \* ガイドマニュアルをご持参ください。
- ※ 歴史勉強会・・・10/12(土) 9:05～12:00 ボランティア室及び3階研修室
  1. ガイド勉強会、ガイドの実践 (2名)
  2. 定例会、勉強発表 (1名)
    - ボランティアガイドについて
    - 総合展示解説マニュアルの勉強会
    - 館外学習 (11/25) について
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示版をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。

～ 教育普及 ～

●平成25年度冬季ボランティア全体会のお知らせ

昨年は秋に全体会をしましたが、今年は11月から展示解説ガイド養成講座実施のため12月にボランティア全体会を行います。ボランティア全員参加ですのでお知らせします。

冬季ボランティア全体会 日時：12/18(水) 10:00-12:00

場所：1F 博物館講座室

対象：博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア

◆11月の学校団体見学(民具体験) ※募集用紙はボランティア室に随時掲示します。

光洋小学校	11月7日(木)	9:30-12:00
豊崎小学校	11月12日(火)	9:30-11:45
東風平小学校	11月13日(水)	9:30-12:00
小椋南小学校	11月14日(木)	9:30-11:30
与那原小学校	11月20日(水)	9:30-11:55
玉城小学校	11月27日(水)	9:30-12:00



～その他のお知らせ～

- ・移動展 in 渡名喜 11/29(金)・11/30(土)の2日間 (詳しい内容はボランティア室に掲示予定です。)
- ・ふれあい体験室講義ボランティア募集 11/25(月) 13:30～

～ 文化の社 ～

10/18(金)に、粟国小学校の3年生と4年生が来ていて、とても頼もしかったです！子ども達は民具体験のため来館しました。対応してくださったボランティアの皆さん、暑い中ありがとうございました。

私は初めての民具体験対応で、終始ドキドキ・ソワソワしていました。しかし、ボランティアの皆さんは「久しぶりだから忘れていたわ～」と言いつつ、ババッと民具の準備や打ち合わせを

始めていて、とても頼もしかったです！子ども達は民具体験のため来館しましたが、笑顔でお話をされたボランティアさんに、緊張が解れて民具体験を楽しんでいる姿が印象的でした。現在、民具体験予約数は26校です。ボランティアの皆さんと一緒に笑顔で対応していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。(巨保)

◆～◆～ 11月の勉強会 ～◆～◆

- ※ 民俗勉強会・・・11/2(土) 10:00～12:00 ボランティア・民俗展示室
  1. 大濑ゆかり民俗担当学芸員による民俗展示替えた箇所解説
  2. 民俗展示室にてガイド実践、2名予定
  3. 12月予定の館外勉強会についての話し合い
    - \* ガイドマニュアルをご持参ください。
- ※ 歴史勉強会・・・館外学習『中原遺跡、伊計島集落散策』
  - 11/25(月・休館日) 9:00博物館大型バス駐車場に集合
  - \* 詳細はボランティア室掲示版を参照
- ※ 美工勉強会・・・11/23(土) 15:00～ 展示解説会 (園原謙学芸員)
- ※ 自然勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示版をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。

発行日：2013年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

★平成25年度 博物館 総合展示部門 解説ガイドボランティア養成講座

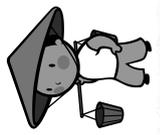
11月20日(水)より第1回博物館総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座が開始しました。解説ガイドボランティア養成講座の募集に博物館ボランティア28名の申し込みがありました。開講式では安里進館長より受講者に向けて激励の言葉が寄せられました。  
第1回養成講座では歴史分野の崎原学芸員・岸本学芸員より総合展示室での解説が行われました。



始まりました!!

◆12月・2014年1月の学校団体見学(民具体験)※募集用紙はボランティア室に随時掲示します。

あげな小学校	12月11日(水)	10:00-12:00
古蔵小学校	1月8日(水)・9日(木)	9:30-11:30
識名小学校	1月10日(金)	9:30-11:30
内間小学校	1月21日(火)	9:30-12:00
石嶺小学校	1月24日(金)・28日(火)	9:30-12:00
松島小学校	1月29日(水)	9:30-12:00
安謝小学校	1月31日(金)	9:30-11:00



～その他のお知らせ～

- ・ふれあい体験室 清掃ボランティア募集 12/16(月) 13:30～
- ・冬季ボランティア全体会 12/18(水) 10:00～12:00

～ 文化の杜 ～

「インカ帝国」展は、ご覧いただけただけでしょうか？ふれあい体験室前のエンターテインメントホールでは、同展の関連展示を行っています。アンテラスの織物の素材に触れたり、「キーブ」という、紐の結び目で情報を伝達する道真が体験できます。又、ふれあい体験室の中には、沖縄の織物や、「わら算」の体験キットがあるのので、速く離れた地域の文化と比較しながら楽しむ方法もおすすです。ぜひ、ボランティアの皆さまも、来館者の方と一緒に体験してみてください。

今月から新しく加わった、ふれあいスタッフを

◆～◆ 12月の勉強会 ～◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・12/7(土) 10:00～12:30 (館外)  
場所：浦添市、仲間地区及び前田地区の井泉(樋川、井戸)  
\* 昔使われていた樋川、井戸が現在も大切に保存され、今も続く水の関りを勉強します。
- \* 集合場所、集合時間等については別途ボランティア室に提示します。
- ※ 歴史勉強会・・・12/14(土) 9:05～12:00 (掲示板をご確認下さい)
- ※ 美工勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ※ 自然勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示板上に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

発行日：2014年1月1日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

No.1



新年のごあいさつ

沖縄県立博物館・美術館副館長 髙原安伸

ボランティアの皆さま、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。  
私は昨年四月、当館に着任いたしました。沖縄の自然・歴史・文化に関する多様な資料に日々接することにより知的好奇心が満たされ、また、質の高い展覧会の数々を身近に鑑賞する機会に恵まれて五感が刺激され続れています。ボランティアの皆さんの活動の原動力もそういうところにあるのではないかと推察しているところです。  
今年も三蔵展、サキタリ洞遺跡展、篠山紀信展、鎌倉孝太郎展、久米村展、水中孝吉字展など魅力的な展覧会を開催するとともに、利用者のニーズに即した常設展の充実や利便性向上に取り組んで参りますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。  
二〇一四年新年が皆様にとりまして、幸多く躍動感に満ちた素晴らしい年でありますよう祈念いたします。

新年おめでとうございます

文化の杜共同企業体 代表 平良知二

昨年一年間は私たち文化の杜にご協力いただき、誠にありがとうございました。新年もよろしくお願ひ致します。  
おかげさまで今年度(三月まで)は博物館・美術館の入館者が五十万人に達しような勢いです。五十万人となれば、開館以来、初めてとなります。通算でも三百万人が目前であり、友の会をはじめ、館で働くみなさんと関係者の協力のたまものと思っております。五十万人をぜひ達成したい。  
昨年十一月末、移動博物館のとも、海が荒れて渡名喜島への船が欠航し、私は港から引き揚げましたが、友の会メンバーが急ぎよへりコブターで島に渡つたのには感心しました。バイタリティーあふれる皆さんに、良き年でありますように。

～裏面もあります～

～ 教育普及 ～  
**ボランティア登録の更新＝《継続希望受付の開始》**

新年あけましておめでとうございます。  
 昨年、ボランティアの皆様には、民具体験学習支援をはじめ、博物館突撃者への各種支援をいただきました大変ありがとうございました。  
 今年も、引き続き来館者への支援充実に向け、ご協力よろしくお願ひ致します。

さて平成25年度も残り3カ月となりました。

1月のボランティア連絡会にて、「平成26年度博物館ボランティア登録申請書」を配布します。提出期限をご確認のうえ、申請書の提出をお願いします。

※1、2月は、小学校3年生を対象とした、民具体験学習実施施設が多数あります。子どもたちは、体験学習を心待ちにしております。ボランティアの皆様のご協力よろしくお願ひします！！

～ 文化の杜 ～

昨年のふれあい体験室ワークショップは、ボランティアの皆さんのご協力の上で、実施することができました。毎週土曜日にワークショップを始めたきっかけは、「増加しているリピーターにふれあい体験室の新しい体験を提供したい」、「他の目的で来館しても、所要時間や参加費用の都合を気にせず、気軽に当日参加でき、来館したおみやげとして博物館の知識や情報が詰ったものを持ち帰ってもらいたい」と思ったからでした。2010年度から、文化の杜が自主事業として開催し、学芸員や専門家のアドバイザーを受けながらプログラムを考えています。指定管理者主催の行事でも、ボランティアの皆さんは「来館者に喜んでもらえることだから」という気持ちで、ご支援していただきましたこと感謝申し上げます。今年も楽しい博物館活動を皆さんで行えるよう努力していきますので、ご指導、ご協力よろしくお願ひ致します。(渡部貴子)

昨年の目標は、「発間の研究」ということで、民具体験を通してボランティアさんや学校の先生による技を見て学ぶことができました。成果としては、以前より少し子どもたちと対話を楽しみながら取り組むことが出来ていると実感しています。少し余裕の出た今年は、ボランティアさん、学校の先生、子どもたちとの交流を通して、自分なりの発問法を生み出したいと思っています。また、同時に博物館に来館するすべてのお客様が「また来たいなあ」と思えるような、素敵な時間を提供できるよう努めます。本年も引き続きご支援のほどお願ひ申し上げます。(大浜萌子)

「もう今年も終わり？」と思うほど、あっという間に過ぎた昨年は、入社しての私にとって目まぐるしい1年でした。講座や学校対応等で、毎回緊張していた私ですが、ボランティアの皆さんの励ましの言葉や、パワフルに活動する姿を見て、元気をいただきました。また、学校団体での子ども達への対応や、民具体験をするときの話し方など、ボランティアの皆さんを通して、様々なことを勉強させていただきました。今年の干支は「午年」ですね。力強い走りをする馬のように、一生懸命駆け抜けていきたいと思っています！（巨保はるな）

～ 1月の勉強会 ～

- ※民俗勉強会・・・1月はお休みです。
- ※歴史勉強会・・・1/11(土)9:05～12:00(新年会も予定) \* 掲示板をご確認ください
- ※美工勉強会・・・1/25(土) \* 時間等については掲示板をご確認下さい
- ※自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ※参加希望者は、ボランティア室の掲示板に名前の記入をお願いします。
- ※内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

～ 教育普及 ～

★平成26年度博物館ボランティア・博物館ふれあい体験室専属ボランティア登録申請について

平成26年度博物館ボランティア各々各曜日班世話係より申請書が配布されます。(ボランティア連絡会にて配布済)  
 ○博物館ボランティア→各曜日班世話係より申請書が配布されます。(ボランティア連絡会にて配布済)  
 ○博物館ふれあい体験室専属ボランティア→文化の杜(渡部)より申請書をお受け取り下さい。  
 提出時に面談(約10分程度)を行います。期日の確認等、宜しくお願ひします。

平成26年度「博物館ボランティア」登録申請書受付  
 ○受付期間：2月12日(水)～3月4日(火)締切  
 ○提出場所：3F 博物館学芸員室(金庫)  
 ※受付開始までに在室日時をボランティア室へ掲示しますので、ご確認下さい。

平成26年度「博物館ふれあい体験室専属ボランティア」登録申請書受付  
 ○面 接 日：2月23日(日)10:00～12:00  
 3月1日(土)10:00～12:00  
 ○面接場所：3F 博物館学芸員室(金庫)

◆2014年2・3月の学校団体見学(民具体験)

北谷小学校	2月4日(火)	9:30-11:35
上田小学校A	2月5日(水)	9:30-12:00
上田小学校B	2月6日(木)	9:30-12:00
城岳小学校	2月7日(金)	9:30-12:00
若狭小学校	2月12日(水)	9:30-11:35
上間小学校	2月13日(木)	9:30-11:35
眞直小学校	2月14日(金)	9:30-11:30
前島小学校	2月19日(水)	9:30-11:30

～その他のお知らせ～(詳細については募集掲示をご覧ください)

- ・サキタリ洞発掘調査連報に関する記者発表・内覧会 ボランティア募集 (4名) 2/15(土)・2/16(日)両日
- ・ふれあい体験室清掃 ボランティア募集 2/24(月)
- ・サンゴでクイズ！博物館へサンサンGOGO!! ボランティア募集 (5～8名) 2/28(金)・3/2(日)両日

～ 文化の杜 ～

先日、文化講座で琉球の貨幣史のお話がありましたが、皆さんは、講座の中で出てきた日本最古のお金「富本銭」をご存知でしょうか、私がかつて勤めていた資料館には、建設前の発掘作業により銭の工房跡と「富本銭」が大量に見えられ、開館が遅れたという展示に加え、地域の歴史と目玉である「富本銭」を広める活動をガイドボランティアさんが担っています。  
 そこで活躍するボランティアさんは、皆さんと同じように勉強熱心で研修会にも積極的に参加し、

～ 2月の勉強会 ～

- ※ 民俗勉強会・・・2/1(土)10:00～12:00 ボランティア室、民俗展示室
- 1. 民俗展示室での勉強会 2. 平成24年12月までの勉強会参加状況報告 3. その他
- ※ 歴史勉強会・・・2/8(土)9:05～12:00 3階研修室
- ※ ガイド勉強 2. 定例会 勉強発表(1名) ※その他詳細は掲示板をご確認下さい。
- ※ 美工勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ※ 自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示板をご確認下さい)
- ※ 参加希望者は、ボランティア室の掲示板に名前の記入をお願いします。
- ※ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

発行日：2014年 2月 25日 発行：沖繩博物館友の会 ☎：098-868-2722

～ 教育普及 ～

2月に入り、毎日のように学校対応の学習プログラムが実施されています。ボランティアの皆さんには、連日ご協力いただき感謝申し上げます。  
 平成 25 年度も、火山のボランティアの方々に支えられ、計画を実施することができました。学校の先生方や子ども達からも笑顔と感謝の言葉が沢山寄せられました。ありがとうございました。平成 26 年度も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

今年度の学校対応プログラム実施は、残すところあと 2 校。  
**残すところ 2 校【学習プログラム】**

- ◆2014 年 3 月の学校団体見学（民具体験） ※募集用紙はボランティア室に随時掲示します。
- ・城東小学校 3月4日(火) 9:30-11:35
- ・真嘉比小学校 3月6日(木) 9:30-11:30

**継続手続き【博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア登録申請書受付】について**

**申請書の提出締切 3/4 (火) です！** 提出まだの方は、お早めに！  
 ※4月から改めてボランティア保険へ加入する為に継続者の名簿を作成します。期限を設けてありますので、期限内での提出をお願いします。3階の学芸員研究室にてお待ちしております。

**★体験室 総合展示部門 解説ガイドボランティアが勢いあります！**  
 平成 25 年度 博物館総合展示部門 解説ガイドボランティア養成講座が 1月22日(水)に終了し、25名の方に解説ガイドボランティア証が交付されました。これから一般来館者（修学旅行生含む）を対象に活動が始まります。皆様の活躍をお待ちしております。

～その他のお知らせ～ ・ふれあい体験室清掃 ボランティア募集 3/24(月)

～ 文化の杜 ～  
 2月には、「民具体験月間」と命名してもいいほど、したが、実際、人前に立つと足が震え、口調も早連日の対応が続いています。毎回朝早くからご参口になってしまい、毎回反省点だらけです。ボランティアの皆さんのように、子どもたちに笑顔で接し、ポイントをしぼった解説ができるよう、頑張りたいと思います。  
 学校団体も残りわずかとなりました。引き続き、ご協力の程宜しくお願いいたします。(直保)

◆◆◆ 3月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・3/1(土) 10:00～12:00 ボランティア室
  - 1.平成 26 年度民俗勉強会世話人選出について
  - 2.離島・小規模校に対する展示ガイドの対応について
  - 3.その他
- ※ 歴史勉強会・・・3/15(土) 9:05～12:00 ボランティア室
  - 1.ガイド練習
  - 2.定例会（学習発表・久米将棋のビデオ鑑賞・反省・その他）
- ※ 美工勉強会・・・未定（ボランティア室の掲示板をご確認下さい）
- ※ 自然勉強会・・・未定（ボランティア室の掲示板をご確認下さい）
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

## XI その他

### 1 移動展

名称：第6回 沖縄県立博物館・美術館 移動展  
会期：平成24年11月29日（金）～30日（土）  
開催時間：午前9時～午後7時（金曜日は10時から）  
開催地：沖縄県渡名喜村（渡名喜村立渡名喜小中学校体育館  
多目的活動ホール）

対象：一般

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・美術館、文化の社共同企業体  
渡名喜村、渡名喜村教育委員会

協賛：琉球海運株式会社



#### 趣旨

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である当館の博物館資料や美術品を移動展の展示として見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的としている。

会場：沖縄県渡名喜村（博物館：渡名喜村立渡名喜小中学校体育館、美術館：多目的活動ホール）

#### 展示内容

【渡名喜村立渡名喜小中学校体育館】

- ①「世界の化石と輝く石」恐竜の骨格標本、岩石
- ②「沖縄の自然、歴史、文化」沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
- ③ 教育普及展示 教育普及キットを利用した体験学習

【多目的活動ホール】

- ④「沖縄の美術」絵画・彫刻・映像など

#### 来場者数

総入館者数 490人（博物館288人、美術館202人）

内訳

○11月29日（金）361人

博物館217人（70歳以上6人、一般148人、高大0人、小中58人、来就学児7人）

美術館134人（70歳以上2人、一般98人、高大5人、小中25人、来就学児4人）

○11月30日（土）139人

博物館71人（70歳以上0人、一般34人、高大0人、小中32人、来就学児5人）

美術館68人（70歳以上2人、一般36人、高大0人、小中24人、来就学児7人）

①渡名喜村立歴史博物館 展示解説会：参加者15人（内小学生2人）

11月29日（金）19：00～20：30

民俗：久邊政彦、考古：片桐千亜紀、歴史：筒原恭子

②博物館学芸員講座：参加者42人（内小学生9人）

11月29日（金）19：00～20：30 渡名喜村立小中学校体育館

「植物の宝庫～渡名喜島の起源～古生代からの物語～」（地学：仲風鐘）

「生物多様性は島の宝だ！～生物よもやま話～」（生物：山崎仁也）

人口400名の渡名喜村で、31年ぶりに再び移動展を開催した。会場では、当時の様子を語る来場者の他、初めて観覧する来場者もあり、地元住民と学芸員が交流する姿が印象的であった。また、渡名喜村立歴史博物館で当館学芸員による解説会や渡名喜村の小中学校での出前授業、学芸員講座などを通し、渡名喜村の魅力を地元に住む人々へ伝える事業となった。（大瀧萌子）

移動展開催準備・当日の様子



01 展示作業風景



02 開会式テープカット



03 学芸員による解説



04 骨ぬり絵



05 紙芝居ちむどんどん



06 骨スーツ



07 歴史民俗資料館 学芸員解説の様子



08 講演会の様子

## 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の印刷・作成を小・中学校に依頼している。

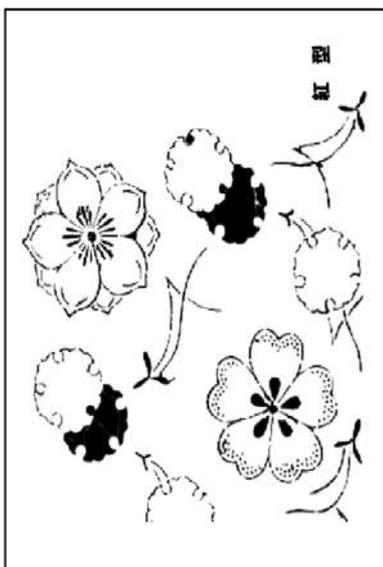
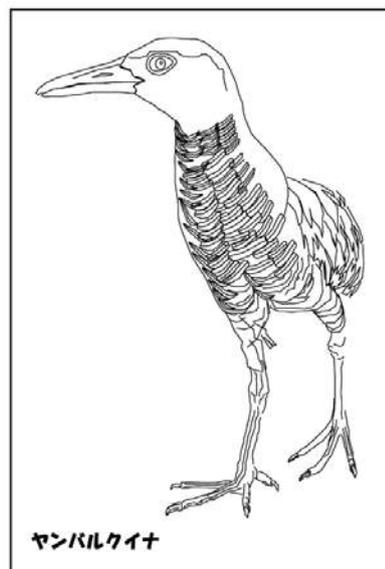
表紙は沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよい。裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印できる形になっていて、学校で印刷した上で、裏面に校長印を押印し、来館時に総合案内に提出する。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

平成22年度から、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。今年度の対象者は0名。

(大濱萌子)

【表紙】



【裏面】

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 \_\_\_\_\_ 学校名 \_\_\_\_\_ 校長印 \_\_\_\_\_

スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 \_\_\_\_\_ 学校名 \_\_\_\_\_ 校長印 \_\_\_\_\_

スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

### 3 職場体験

今年度も文化の杜が職場体験およびインターンシップ、ジョブシャドウイング等の窓口となり、6校12名を受け入れた。基本的な体験内容はもぎりやミュージアムショップ、ふれあい体験室での接客業務である。今年度はそれに加え、アンケート集計やリーフレット在庫管理などの事務作業も取り入れ、多様な業務を体験できるように、業務内容の幅を広げた。

体験内容：もぎり（入場券の確認）、ふれあい体験室（ワークショップの準備）、ミュージアムショップ（接客、商品の管理）、アンケート集計（アンケートの打込み、データ作成）

受け入れ校：6校12名（小学校1校、中学校2校、高等学校3校）

- ① 那覇市立安岡中学校（2名）8月28日～30日（3日）
- ② 那覇市立寄宮中学校（2名）9月4日～6日（3日）
- ③ 沖縄県立那覇工業高等学校（2名）9月18日～20日（3日）
- ④ 沖縄県立真和志高等学校（2名）10月2日～4日（3日）
- ⑤ 沖縄県立豊見城南高等学校（1名）10月23日～25日（3日）
- ⑥ グッジョブおきなわ推進事業局実施（ケイオーパートナーズ：沖縄県委託事業）「ジョブシャドウイング」  
伊江村立西小学校（3名）11月14日（午前のみ）

- ⑦ 専修学校インターナショナルデザインアカデミー（2名）2014年3月11日～12日（2日）

※「ジョブシャドウイング」は米国で定着している職業教育の一つであり、中学生や高校生が半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事ぶりを観察する、というものである。今回は、5名の児童が、それぞれ博物館、美術館、文化の杜の職員に割り振られ、来館者対応や会議の場に同席した。



（文化の杜 島袋百恵）

## 4 けんぱくキット貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出しています。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等です。事前（一ヶ月前）に申請等の手続きが必要となり、貸出期間は一週間となります。無料で貸出しておりますので積極的に活用してください。資料の詳細についてはお問い合わせください。

### 平成25年度 けんぱくキット貸出一覧

	利用者名	利用目的	貸出期間	資料名
1	琉球大学教育学部附属小学校	骨のつくりの理解を図るため	7月11日～7月19日	骨スーツ
2	鳥取県立氷ノ山自然ふれあい館	骨スーツを着て色々な動物の骨格標本の真似をしたり、記念写真を撮ったりして骨への理解を深めてもらう。	7月22日～9月10日	骨スーツ
3	城北幼稚園	親子で沖縄の歴史・文化を民具体験をとおして親しむ。	8月7日～8月8日	ちむドンドン・むかしむん
4	那覇市立大道小学校	社会科授業のための体験活動	2014年2月19日～2月26日	むかしむん
5	浦添市立前田小学校	古い道具と今の道具の違いと、暮らしの変化から、よりよい暮らしを願う人々の努力と工夫を知る。	2014年2月7日～2月14日	むかしむん
6	那覇市立松川小学校	社会科授業のための体験活動	2014年3月4日～3月11日	むかしむん
7	那覇市立松川小学校	社会科授業のための体験活動	2014年3月11日～3月18日	洗濯ゴシゴシ

洗濯キット



骨スーツ



むかしむん



ちむドンドン



## 5 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティア内の民俗班と歴史班は、来館者サービスの向上と自己研鑽を目的に、平成22年度から展示ガイドマニュアルを作成し、月1回開催される勉強会の中で、担当学芸員と一緒に勉強会や来館者を見据えたトレーニングを重ねている。また、今年度は歴史班のマニュアルを参考一般・修学旅行団体を対象とした「総合展示部門専属ボランティアガイド」養成講座（11月～1月全8回講座）を行い、総勢25人のボランティアが登録した。次年度本格実施に向けてトレーニングを重ねると同時に、試験実施として、2団体206人を受け入れた。

民俗班は昨年度から本格的に、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子どもたちを対象とした展示ガイドを実施している。来館当日は、文化の杜スタッフが引率教員と担当ボランティアとの引き合わせをするが、＜教員との打ち合わせ～オリエンテーション～展示ガイド～まとめ＞までボランティアが先導して行っている。5月～2月の間に合計14校222人を受け入れた。

広報については、現在のところホームページ掲載のみの為、団体受付時の情報センタースタッフによる案内がきっかけとなり、申し込みをするケースが主であった。また、少数ではあったが旅行会社の添乗員による口コミ効果もあり、今後希望校が増えることが期待できる。

今後の課題としては、民俗班による離島小規模校を継続して対応校を増やすことと、一般・修学旅行団体を対象としたガイドの実施を積極的に行うことがあげられる。そして、それぞれにおいて共通する課題では、対象に合わせた言葉の選び方、発問の仕方に関する研究・実践があげられる。自立したボランティアを育成する上でモデルとなるケースであることから、今後も学芸員や教育普及スタッフのサポートが求められている。

(大濱萌子)

### (1) 民俗ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：15分～30分

③対象：県内の離島をはじめとする20人以下の小学校・中学校・高等学校

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。

(FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません)

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。(先着順)

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜ウミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ＞

Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ（田畑仕事を中心に）」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜アギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食＞

アギとは…ウミに対して、陸地を意味する方言、限られた土地を上手に利用して田畑をこしらえました。さまざまな仕事で使う道具にも人々の知恵と工夫をみることができます。

Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室（村落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→くらしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在→変わりゆく風景）

※メニューを基準に、内容の組み換えは可能です。

※現時点で、民俗分野以外の解説はできませんが、他の分野の展示物の見どころをお話することは可能です。(ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度です。ご了承ください)

## (2) 総合展示部門解説ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：30分～60分

③対 象：県内外の一般・修学旅行団体

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。  
(FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません)

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。(先着順)

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内 容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【30分】「総合展示部門：10～100人以内」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展総合展示部門<琉球王国の成立、旧首里城正殿鐘、進貢船、琉球王国の衰亡、米軍車両とナンバープレート>

Bコース【30分】「民俗部門：10～100人以内」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室<アギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食>

Cコース【30分】「ジブンボックス\*：100人以上」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→自由見学(総合展示部門5ヶ所、民俗部門2ヶ所にジブンボックスを配置し、各箇所に置いて来場者へのガイドと質問対応をおこなう)

\*ジブンボックス：沖縄の方言でジブンとは「知恵」を意味し、「知恵を伝える箱」として設置する。今回のガイドでは、このボックスの前でボランティアが来場者に向けた解説を行う。

### ■民俗班による県内小規模校ガイド

	日付	団 体 名	人 数 (引率込み)	生徒数
1	5月8日	鏡が丘特別支援学校(ふれあい)	37	20
2	5月14日	宮古島市立狩俣小学校	10	7
3	5月30日	オキナワインターナショナルスクール	18	16
4	6月7日	宮古島市立砂川小学校(ふれあい)	15	12
5	6月7日	カトリック学園海星小学校	21	18
6	6月14日	宮古島市立鏡原小学校	23	20
7	6月21日	宮古島市立福嶺小学校	8	5
8	11月1日	与那国町立久部良小学校	9	6
9	11月1日	竹富町立波照間小学校	10	6
10	11月15日	金武両立中川小学校	13	9
11	11月23日	大平特別支援学校高等部 久米島高校分教室	8	4
12	12月6日	国頭村立奥小学校	22	14
13	12月12日	大宜味村立喜如嘉小学校	16	12
14	2月7日	八重山農林高校 熱帯園芸科	12	11
合 計			222	160

### ■一般・修学旅行団体対象 総合展示部門・民俗部門ガイド

1	3月5日	自衛隊東京地方協力本部(大学生研修)	58	49
2	3月6日	駿台学園高等学校	148	138
合 計			206	187



## 6 企画展関連事業

### ①「海・山・川のおくりもの 目からウロコの大生き物展～生物多様性ホットスポット JAPAN」

関連催事として、写真公募展や講演会をはじめ、文化講座1回（参照：Ⅳ 博物館文化講座）、学芸員講座1回（参照：Ⅴ 学芸員講座）、体験学習教室1回（参照：Ⅲ 体験学習教室）、展示解説会（参照：Ⅵ 展示解説会）を1回、を開催した。

#### 写真公募「沖縄の生き物写真コンテスト」

「沖縄の生き物写真コンテスト」と題し、一般県民より写真を公募した。教育普及は、その写真募集に係る、チラシポスターの作成から6月までの応募受付までの業務を、文化の杜教育普及班と共同で請け負った。締切までに応募のあった118点は、博物館3階の講堂側通路に設置のパネルに掲示した。また、写真審査会を6月中旬に教育普及の運営で執り行うとともに、表彰式を開催した。

##### 【業務概要と取組み期間】

募集要項作成、ちらし・ポスター制作：平成24年4月

告 知：平成24年5月～

写 真 受 付：平成24年6月1日～14日

写真作品審査会：平成24年6月19日（水）13:00～16:00 博物館会議室にて

表 彰 式：平成24年7月6日（土）11:00～12:00



#### 講演会「みる！きく！さわる！博物館～五感で感じる生物多様性～」

##### 【午前の部】

日 時：7月28日（日）9:30～12:15

場 所：実習室

講 師：西海功氏（国立科学博物館）、盛口満氏（沖縄大学）、保坂健太郎氏（国立科学博物館）、北里洋氏（海洋研究開発機構）、佐々木健志氏（琉球大学）

参加者：111人（定員50人）

参加費：無料

##### 【午後の部】

実施日：7月28日（日）13:00～16:00

場 所：博物館講座室

講 師：藤田喜久氏（琉球大学）、海老原淳氏（国立科学博物館）、太田英利氏（兵庫県立大学）、藤倉克則氏（海洋研究開発機構）、佐藤矩行氏（沖縄科学技術大学院大学）、藤田祐樹（沖縄県立博物館・美術館）

参加者：45人（定員80人）

参加費：無料

午前の部では実際に見て・触って体験する実習コーナーではく製や虫などを観察し、午後は、他分野の研究者による講演会を開催した。



**野外観察会「夏だ！海だ！生き物だ！サンゴ岩礁の生き物観察」**

日時：8月7日（水）11：00～15：00

場所：糸満市大渡海岸

講師：濱口寿夫（教育庁文化財課 班長）、山崎仁也（生物担当学芸員）

参加者：39人（定員40人）

参加費：100円（保険代／当日徴収）

「サンゴ礁」は沖縄をささえる最も大切な生態系であることを伝えるために、本島南部で最大級といわれる糸満大渡海岸のイノーを採検した。当日は、天気にも恵まれ、多くの海の生物を観察することができた。参加者は、講師の話の聞きながら目の前にいる生物の置かれている状況やその生態を学んだ。



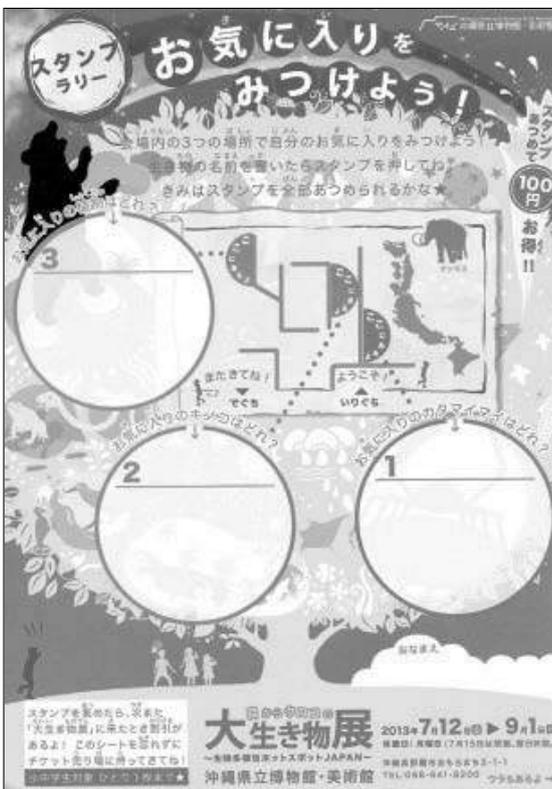
**配布資料 スタンプラリー**

配布期間：会期中随時 配布場所：展示室入口

配布枚数：20,000枚

制作者：山崎仁也（美術館班）、町田恵美（文化の杜）、大城彩香（デザイナー）

子どもたちに展示をじっくり見てほしいという思いから、展示室内にスタンプを設置しスタンプラリーを楽しむ仕掛けを作った。全てのスタンプを集めた参加者には、ヤンバルクイナのファイルをはじめとする自然保護グッズをプレゼントした。



②「三線のチカラ展」

関連催事として、文化講座2回（参照：IV 博物館文化講座）、学芸員講座1回（参照：V 学芸員講座）、展示解説会（参照：VI 展示解説会）を1回開催した。

配布資料「三線クイズ」

配布期間：会期中随時 配布場所：展示室入口

配布枚数：5,000枚

監修・作成：園原謙（美術工芸担当学芸員）

本展覧会では、楽器としての三線の魅力に迫るため「三線の音色聞き比べ体験クイズ！」を作成した。シートは、スクラッチ形式で質問には、絹糸とナイロン糸の違いや古い文化財の音色を当てるクイズの他、文化財として指定されている6種類の三線の音から参加者が好きな音色を見つける形式となっていた。子どもから大人まで楽しめるシートとして活用した。

開鐘三線の音色を聴いてみよう！

## 三線の音色聞き比べ体験クイズ！

**質問1** 絹糸の絃の音は、Aの音とBの音どちらでしょうか？  
A  B  ハズレ

**質問2** 内部細工入りの胴の音色は、Aの音とBの音どちらでしょうか？  
A  正解 B

**質問3** 古い文化財の棹の音色はAの音とBの音、どちらでしょうか？どちらの音が、古い文化財（盛嶋開鐘）の棹の音色だと思いますか。  
A  B

**質問4** これから6つの三線の音色を聴いて「良い音色」だと感じるモノを選んでください。棹は、盛嶋開鐘・翁長開鐘・志多伯開鐘・湧川開鐘・富盛開鐘・江戸与那です。  
A  B  C   
D  E  F

## 三線の音色聞き比べ体験クイズ！

**解答1** 絹糸はAの音です。  
Bの音はナイロン糸の絃の音です。絃糸によって音色が違うことが分かります。

**解答2** チーガ内に細工の有る音色はAの音です。  
Bはチーガ内に細工の無い三線の音です。チーガの内部の細工によって音色が違うことが分かります。

**解答3** 文化財三線（盛嶋開鐘）の棹によるものはBの音です。  
Aの音はシマコク材による盛嶋開鐘の写しの棹によるものです。棹の古さによって音色が違うことが分かります。

**解答4** A. 盛嶋開鐘 B. 翁長開鐘 C. 志多伯開鐘  
D. 湧川開鐘 E. 富盛開鐘 F. 江戸与那  
いかがでしたか、開鐘三線の音色を堪能できましたでしょうか。  
6つの音とも絹糸を使用しました。チーガは五分から七分張りでゆるめに蛇皮を張りました。

## 7 常設展に関する取り組み

### (1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、13,300枚を配布した。また、英語版「ここだけは見逃すな！」についても、1,000枚を配布した。

### (2) 正月企画「うまを探せ！」

正月には昨年の「へび展」に引き続き「うま展」を開催した。博物館常設展示室内の全14箇所から新年の干支である「ウマ」を見つけ出し、新年ならではの、いつもと違った視点で展示を楽しんでもらうことを目的とした。

期 間：2014年1月1日（水）～31日（金）

<同時開催>

美術工芸部門展示室「天駆ける馬、福来たる」展

期 間：2013年12月17日（火）～2014年3月30日（日）

（美術工芸担当学芸員 園原謙、與那嶺一子）

自然史部門展示室「ア ハッピー ニュー ウマ イヤー!!」展

期 間：2014年1月1日（水）～31日（金）

（生物担当学芸員 山崎仁也）



### (3) おきなわサンゴ礁ウィーク2014「サンゴでクイズ！博物館へサンサンGOGO!!」

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会ならびに環境省、沖縄県環境生活部自然保護課が呼びかける「おきなわサンゴ礁ウィーク2014」に呼応して、当館もサンゴにまつわるクイズ大会を開催した。

全部で5回戦の勝ち抜き戦クイズは、「○×クイズ」、「封筒クイズ」、「穴埋めクイズ」や「論述クイズ」など、大人から子どもまで多くの参加者に、日頃私たちが、いかにサンゴの恩恵を被って暮らしているのかを考える機会とした。決勝戦はふれあい体験室の体験キット「立体サンゴパズル」の組み立て競争を行い、優勝者は、敗者復活戦「サンゴアートに挑戦！」から勝ち抜いた親子に決まった。優勝、準優勝チームには、賞状と福袋を贈呈した。

日 時：3月2日（日）14：00～15：30

場 所：1階エントランスホール

受 付：当日先着順 \*9:00～総合案内にて受付

参加費：無料

参加者数：28組77人（定員50組／3人1チーム）

出 題 者：山崎仁也（当館生物担当学芸員）、司会進行：渡部貴子（文化の杜）、機材担当：久田千春（教育普及担当嘱託員）、会場整理：大濱萌子（文化の杜）、博物館ボランティア5人



（渡部 貴子）

## 8 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

### 1. 新聞掲載

○講座・展示解説会

沖縄タイムス	6月2日（日）	ワラビー面	学芸員講座「目からウロコの生き物展！～生き物よもやま話～」
沖縄タイムス	9月23日（月）	情報面	文化講座「九州国立博物館におけるボランティア活動の実際」

○企画展関連

琉球新報	2月26日（水）	文化面	「サキタリ洞遺跡発掘調査速報展」関連 展示解説会
------	----------	-----	--------------------------

○博物館ボランティア募集

沖縄タイムス	4月30日（月）	情報面	「ふれあい体験室専属ボランティア募集」
--------	----------	-----	---------------------

○体験学習教室

沖縄タイムス	7月21日（日）	ひとまち面	博物館体験学習教室「カエルの解剖と骨格標本づくり」
--------	----------	-------	---------------------------

### 2. 雑誌掲載

「おきなわいちば 42号」	6月5日（水）発行	へいほーおきいち わーくしょっぷ	ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士のてづくりおも ちゃ」
---------------	-----------	---------------------	---

発行：光文堂コミュニケーションズ株式会社

「うちな uchina 4号」	11月25日（月）発行	CALEND OKINAWA	文化講座「きからじとジーファ ー」 ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士の小さなパーキ づくり」
-----------------	-------------	----------------	--

発行：株式会社沖縄教販

「たいようのえくぼポケット 3号」	2月14日（金）発行	ぷらぷらPOCKET 新都心エリア編	ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士のティラジャー でコマあそび！」
-------------------	------------	-----------------------	--

発行：NPOたいようのえくぼ

## 9 印刷物一覧

	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座チラシ (12回)	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	文化の杜共同企業体	館内手刷り／ イロドリ	各500
2	学芸員講座チラシ (全12回)	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	文化の杜共同企業体	館内手刷り／ イロドリ	各500
3	夏休み！博物館学芸員教室チラシ (美術館「夏休み！子どもフェスタ2012」との共同制作)	A4 (両面カラー)	ソ・デザイン タナベユヘイ	印刷の通販 グラフィック	10,000
4	特別展関連事業「目からウロコの大生き物展」 写真募集	A4 (両面モノクロ)	文化の杜共同企業体	館内手刷り	5,000
5	平成25年度 博物館企画展 「三線のチカラ ―形の美と音の妙―」 三線の音色聞き比べ 体験クイズ！	B6 (片面カラー・片面モノクロ)	沖縄県立博物館・美術館	文進印刷	5,000
6	ふれあい体験室ワークシート 「港川人研究所 港川人 VS 現代人」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	2,000
7	ふれあい体験室ワークシート 「土倉と遺物からわかること 黒曜石で切ってみよう」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
8	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器①三線でチューリップを弾いてみよう」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
9	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器②工工四で弾いてみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
10	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち①古地図パズルのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
11	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち②古地図絵本のおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
12	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち③古地図かるたのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
13	ふれあい体験室体験のてびき「ふれたいシート」	A3 (両面カラー／変形)	宜壽次 美智	尚生堂	5,000
14	教育普及報告書	A4冊子	教育普及班 (県・文化の杜共同企業体)	企画印刷ハーツ	1,000
15	移動展 図録	A4冊子	教育普及班 (県・文化の杜共同企業体)	東洋企画印刷	800

平成26年度  
博物館教育普及活動  
2014(平成26)年3月

---

発 行	神奈川県立博物館・美術館 〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号 Tel (098) 941-8200 (代表) Fax (098) 941-2392
編 集	神奈川県立博物館・美術館 博物館教育普及 神奈川県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体
印 刷	全国印刷 ハーツ 〒902-0071 神奈川県那覇市築多川3-13-8 Tel (098) 835-8753 Fax (098) 835-8754

平成25年度  
博物館教育普及活動  
2014(平成26)年3月

---

発行	沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号 Tel (098) 941-8200 (代表) Fax (098) 941-2392
編集	沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体
印刷	企画印刷 ハーツ 〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川3-13-8 Tel (098) 835-3752 Fax (098) 835-3754